

圖書室へゆくと、セキスピア劇を題にして二人の女教師が描かしてゐたが拙かつた。成績も鉛筆畫が大部分で、貼りつけてある中に木の枝を寫生したのによいのがあつた。立派な學校に似合はぬ繪は拙い。油繪は教へぬといふ。

屋内水泳場は二十間に七八間位あつて大勢泳いでゐる。少し温度を加へてあるといふ。

音楽室は二尺余りの幅のひろさの階段が十四段後へ高くなつて合奏出来るよい室である。粗末なオルガン一つとたて臺ピアノ一つ、セロが三つほどあつた。樂器練習室は十二あつて二重窓二重戸で先生の室はシツング、ルームの様であつた。

午後一時になると皆食堂へ行くので私は晝からも見たいと思ひ、近所の芝生で煙草を一服のんで學校の運動場へゆく。テニスコートが十二位芝生にならんでゐる。皆テニスをする。思ひきり下手である。先生も出て遊んでゐる。かへりに、ホールを見る。パイプオルガンのあるのには感心した。集會場である。

參觀が多いからか、校長が新任であるからか、私は尋ねたいことも澤山あり少し見たかつたが男子部セントポール學校へ紹介状をもらつた丈で引上げた。英國人の特質かも知れないが、何だか物足らなかつた。折角遠方から來たのにも少しよく説明してくれればよいのにと残念に思つた。

これによつても學校への參觀者には出来る限り満足を與へて、目的を達せしめてあげねばならん

と痛感した。三時に漸く晝飯を食つて、元來た地下線で歸つた。天氣が思ひきりよくなつた。新聞と紫色の花を一束買つて歸り、この日記をかく。主婦が茶によんでくれる。明日から始るアスコットの競馬の話になる。

キングと、クイーンが、レデーと共に見る競馬で、英國のレデーのファッション(流行)がこの二日に決るといふのである。

ダービーを見損つたから後學の爲見たいと思ふ。晩は近處の大阪商船支店長中村氏の宅で祈禱會があるから來會せよとの通知があつたので行つた。十二三人來會者があつた。感話や祈禱があつて十時頃歸つた。スコットランドへ行つた大浦君が歸つて來た。常盤が満員であるので私の部屋で泊ることになり、色々あちらの話に花が咲き十二時過ぎて就眠した。

六月十四日

朝食後急いで、カールトンロードボーイススクールへ出掛た。昨日は都合よく行けたが今日は巡査が違ふ學校を教へてくれた。その學校の横から校長室へ行くと女の學校で、校長が門迄つれて出てくれた。それから電車を待つ。思ふ番號のは來ない、氣はいら立つ、今度も漸く教へられた通りに行つて校長室へ行くと是れも違ふ。近處に小學校が澤山あるのであるから分り難い。校長は級



長をよんで私をカールトンスクールへ連れて行かした。

この級長はよい子で道々話をしたり、私の学校の繪ハガキや一寸した土産をやつた。この子はモルガンといふ景氣の善い名前の子である。やがて英國を脊負つて立つ紳士になるのだ。明日何か送つてやらうと思つた。

十時漸く目的の學校へ着いて校長と話をした。

この學校の校訓は "Each for all, all for each" と S.S. のである。インフアット、スクールで校長は女であり、半分はガールズ、スクールで何の事はない、一屋敷を三軒に仕切つて三獨立國があるのと同様である。

此所の學校の學級別は左の通りである。

- |    |      |      |    |   |      |     |      |      |     |     |
|----|------|------|----|---|------|-----|------|------|-----|-----|
| 一級 | 十三歳半 | 十四歳  | 二級 | 十二歳   | 十三歳半 | 三級  | 十一歳半 | 十二歳半 |     |     |
| 四級 | 十歳半  | 十一歳半 | —  | この級から約三割は中等學校(セカンダリスクール)と高等小學校(セントラルスクール)へ入學する。 | 五級   | 九歳半 | 十歳半  | 六級   | 八歳半 | 九歳半 |
| 七級 | 八歳   | 八歳半  | 八級 | 七歳半   | 八歳   |     |      |      |     |     |

ただこゝは、教師が八人あるから、此の學校に入學する者を八組に分つたので、年齢は大して考へない、學力本位である。だから教師數も多く児童數も多くなると組數が多くなる。例へば、この

學校の七歳半の組には七歳が二人、八歳が十人、九歳が七人、十歳が二人、十一歳が一人ゐる。組別は年令には餘りかゝわらない。別に優等組と特別組を設けることもある。勿論この小學校へ入る前に、幼稚園と小學校幼年級と一緒にしたインフアットスクールを経ることになつてゐるのである。

唱歌と理科を見た。妙なことにはこの學校では物理と化學を教へるが、動植物は全然教へないといふ。それは妙だ。何故かといふと、ロンドンには博物の材料は得にくいからだといふ。それでも魚とか雀とか犬や猫など兒童の周圍に左様のものがあるではないかといつたが何とも答へなかつた。だからどこの小學校でも學校で理科とか其他の模型標本等一千圓以上のものは見えない。一間にも足らぬ戸棚一つある丈である。當市のカウンチーカウンシル直轄の學校は大抵左様である。

英語をやつてゐる組では、詩を暗誦せしめてゐた。そしてその題は *The Best school of all* といふ母校愛を説いた詩で、一三人が暗誦すると教師は、學校は建物でない。あなた方一人が學校だ。先生一人も學校だ。 *Boys and masters make up school.* と説いたのには感心した。先生と生徒それ自身が學校であるのだ。先生も生徒も母校愛と母校の教へを發揮せねばならんと大に雄辯をふるつた。



生徒は大抵背廣を着てゐた。が、そうよいものは着てゐない、鼠色や地味なもので、シャツの襟にネクタイを結んだもの、ソフトカラーにネクタイをしたもの計りである。

手工は革細工である。これは此の學校が創めたのであるといふ。別に木工場があつて教師と助手が居り色々製作してゐる。木工には力を入れてゐる。一週三時間(十一歳以上)やるといつてゐた。

大休英國の小學校を見て新機軸とか何とかを望むことは出来ない。黒板でも四尺位のもの一つで粗末である。生徒圖書は相當に市の圖書館から借りて來てあるが、職員室も机一二脚に椅子が十脚程あつて、洋食屋の一間の様で雑誌も教育書もない。各學年にやることも教師が銘々考案してやるので一定の教科書もなく、職員は六十歳になる迄は大抵の場合免職にされる心配もなく、日本の様に轉任も餘りなく、教員會も一年二度位正式にやる位で、研究會とか批評教授とかも餘りなく、極めて呑氣で、授業が終つたらすぐ歸る。然も學校は四時半までである、七八歳のこどもも同様である。

實に日本の劃一的にやつてゐるのに比すると間が抜けてゐる様に思はれる。然し英國とても善い人物を出す所から見れば、矢張り教師の持ち味が生徒に傳はるのであらう。日本の様な教授參考用書とか教具とか、掛圖とか種々豊富なものはないが、とに角、こつくと長い年月の間に地味に堅

實に、先生のもつてゐるものを生徒に授けるのである。そこに日本とちがつて善い所があるのかも知れない。日本では道具立が一見花やかで、目先が變り、千變萬化の萬華鏡の様に兒童の興味とか注意とかをひかうとするが、煎じつめると、エキスになつて残るものは割合少いのではないか。ロンドンの教育にも考へる餘地があらうし日本の教育にも考へる餘地がある。

然しワトソン校長は非常に親切に各室に案内してくれ、各室では日本の先生だと紹介する。教師は痛い程握手する。生徒は起立して擧手の禮をする。こちら調子にのつて、擧手の禮をする。教師が何を教へてゐても校長は直ぐ生徒に質問する、又自分の考を話す、氣の毒な位、授業のじやまをする。

先生の俸給は大休年一八〇ポンドから四百ポンド位であるといふ。校長の住宅は年八〇ポンド屋賃がゐるといつてゐた。先生も皆地味で、まじめで丁寧な質問に答へてくれる。

こゝで圖書や立派な革細工の成績をもらつて握手して別れるときはホロリとした程であつた。親切な校長は生徒に十町もあるバスの所まで送らしてくれた。

午飯を食つて、そろ／＼貧乏町をあるき、二時頃カムデンロードのハンガーフォード、ロード、ポーク、スクールへ行つた。

校長ブランガム氏は喜んで迎へて呉れた。矢張りホールの壇上に校長の机がある。ホールでは午



の時間の餘暇に二十人程にバイオリンを教へてゐた。オーケストラがあるそうで、その中の三十人は上手であるといふ。

地理教室へ行く、日本のことを教へてゐた。教師が質問をすると、夫々、ミカドとか、秩父宮とか富士山とか横濱、大阪、神戸、東京などを質問に應じて答へた。日本へ行きたい者があるかというといふと五六人手をあげた。こゝの首席は先般迄ロンドン市の普通教員組合の幹事長であつたといつたから、其目的をきいたりして問答した。

校長は校長會の發行する、校長會雜誌編輯者三人の中の一人でその雜誌を一部もらつた。温厚なよい人である。

唱歌は黑板の歌詞の上に、s r m fといふ風にかいて、ソ、レ、ミ、ファで歌はしてゐる。

それから、こゝの女子部の校長ホワイトレー氏に紹介してくれる。恰度ハウス間のバスケットの仕合があるので運動場で校長や女教員とならんで見る。女教員が何か話しかける。私が皆の寫眞をとる。生徒はおとなしく競技をする。

次にホールで唱歌があつた。「英國の歌」を五六十人が歌ひ、校長がタクトをとつた。其外四五曲歌つたが、四重唱で仲々うまい。私をかこんで歌ふのであるから一曲終るごとに私一人が拍手して一寸ほめねばならなかつた。唱歌はとても日本は英國に勝てんと校長にいつた。次にダンスを見せ

てくれた。唱歌のよい本をきいたり、女子の手工で、葦の着色したものを、編んで上ぐつとか手さげなどをこしらへたり、毛糸で緞通みた様な敷物を作つてゐるのを見る。

それから四時半になると一同ホールに集つた。ピアノの合圖で合掌する。校長が今日一日を無事に過させ給ふた神の恵を感謝して今宵の平安を祈つて祝福した。誠に善いことである。

四百の女兒は靜であつた。顔を上げると校長は今日遠方から態々來て下さつた此の日本の庄野さんの學校へ皆さんからメッセーヂを送らうではないかといふと、皆異口同音に賛成した。私は非常に愉快を感じて厚く禮をのべ又、級長におくられてバスにのつた。

## ロンドン名物

### アスコット競馬見物

六月十五日

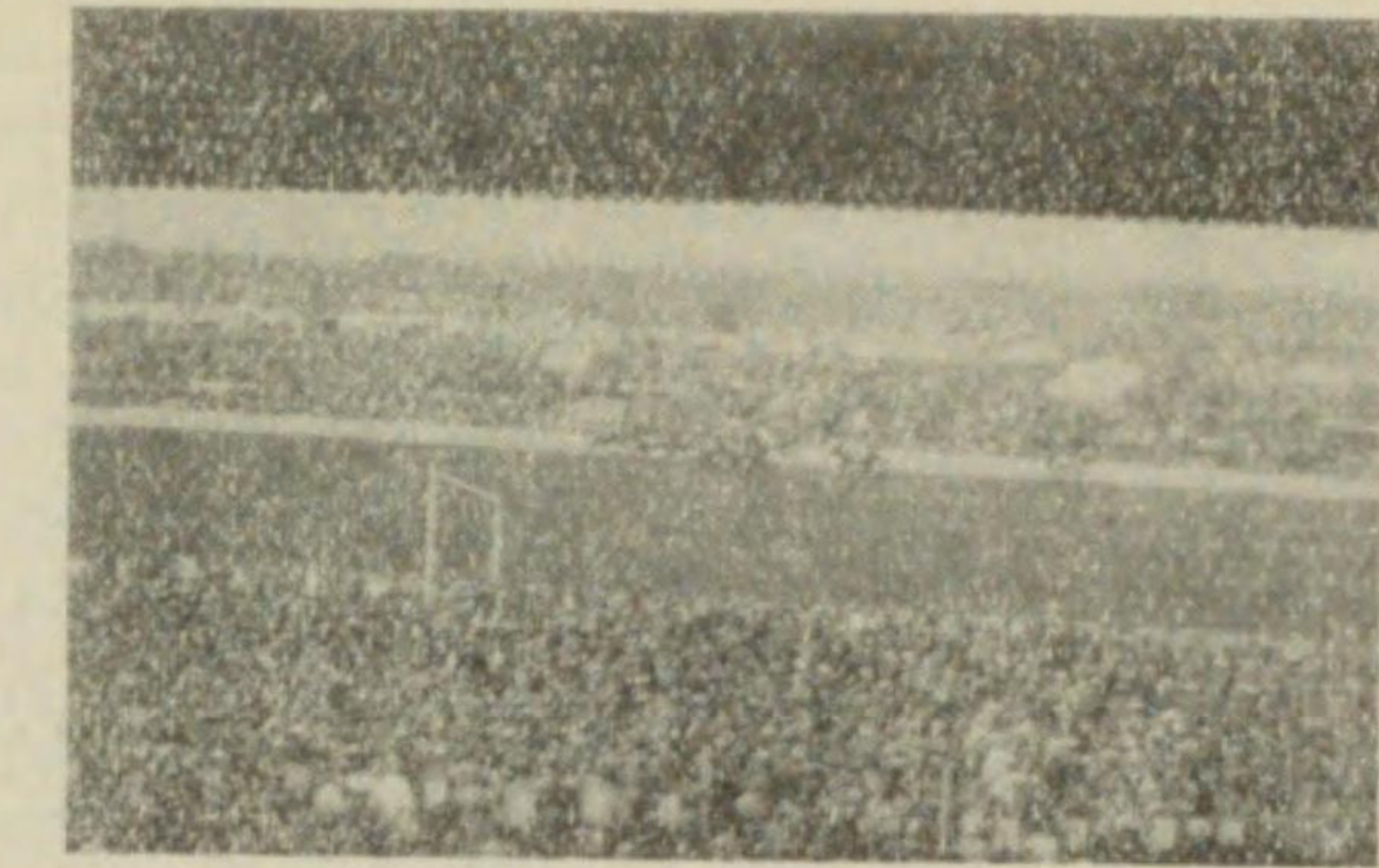
英國の年中行事の中で最も人氣を集めるダービーの競馬は戦後初めてといふ好景氣で滿都の人氣を湧かした。新聞の賣子もショツプガールも主人も奥さんも無宙になつて競馬の話をする。活動寫眞も寄席の輕口も今年の第一人者である名馬、コトルボーイやホットナイトに關したものを一寸で



も出さなければ見物が得心しない。此の馬の名を口にせなければ倫敦ツ子でないといふ様な有様になつたのである。

でそのダービーが終つて二週間にならない中に今度はアスコットの競馬が初まる。ダービーを一般民衆的といふなら、アスコットは稍貴族的とでもいほうか。なぜかなれば、アスコットにはレデーが多く見物に行く。そのレデーは服装を見せに行くのである。此の夏の流行がアスコットで定

のである。皆夫々意匠を凝らして出入場する。長い間社交界の婦人が着物の話題にお茶の時間を研究に没頭してゐただけあつて奇想天外よりおつる様な變化を求める。上品で新味があつて万人の趣向を導くのは此でなければならぬといふのであるが、兎に角夫々智囊をしぼつた晴れの日である。



競

であるから社交界の婦人はどうしても此の數日中大勢の喝采を博すべく入場しなければならぬ。又それを見物すべく紳士達は此の週をアスコットに當てゝしまふ。で此週は議會も淋しくロンドンの俱樂部も寂寥になつてしまふ。競馬と衣裳とでどちらへ轉んでもアスコットは上流人士の行かねばならぬ所である。

殊に戦後、平和の風が静かに國際友誼の復興を吹くにつれて、米國あたりから大勢押しかけてくる。金の使ひ道に苦しんでゐる連中がダービーとアスコットを當て込んで大舉して来る。フランス人もそうである。殊にフランスのロンシヨンの競馬のシーズンはつい此の間であつた計りで熱は甚だ高い。又フランスには立派な馬が澤山ある。その馬のヒイキが恰度日本の力士の後援者の様に景氣よく押かけてくる。

新聞は前景氣をあふる。天氣豫報がどうであるとか、キングとクインが前の土曜からウインゾル宮へ御滞在になつて此の一週間毎晩御饗宴をなさるとか行々しく書き立てる。

幸ひ旅行中であつた私も英國人を了解するには是非此の競馬を見ようと思つて二日目の十時頃ウイターローの驛へ行つた。

驛へ入りかけると早、アスコット、プログラムと叫んで番附を賣つてゐる。切符の賣場も二三ヶ所別に出来て盛に賣出してゐる。一時間かゝらない所であるのに三等は十二時半後でないと賣らない。朝の内は一等ばかりである。列車にはシルクハットに燕尾服の連中が多い。成程婦人連は盛装してゐる。近頃また鼠色のシルクハットが流行しだして盛にかむつてゐる。私の室の連中は、列車が出ると直ぐブリヂを初めた。初めは六ペン宛位はつてゐたのが、クラウンになりテンシルになり次第に札の山が出来る。鳥打の商賣人が舌打して景氣よくその山をポケットへ捻ぢ込む。賭け事の



好きな國民である。婦人も賭ける。餘り人相のよくない男でも無造作に五ポンド札の束を出してはる。いや盛なことである。

この投機者に乗せた列車は何處へも停まらないで元氣よく走る。ロンドン場末の貧民窟の細々とした煙突から朝のパンをやく煙の立のぼるのを目にもかけないで郊外へ突つ走る。

元氣の善いことである。郊外は初夏の太陽に生きてゐる。青々とした牧場に靜に牛が歩いてゐる。小川に沿うて柳が枝をたれてゐる。雑木が今を盛りと枝を張り葉をひろげて、光と熱を吸うてゐる。平和な國である。

やがて汽車は一つ二つ低い丘を越へてアスコットの驛に着いた。

こゝでも大勢プログラムを賣つてゐる。二丁程の間屋根のある歩廊を通つて競馬場の前の通りへ出る。これは又盛な人出である。

人と自動車と叫び聲、話し聲いや賑やかなことである。入口にはグレート、スタンドと六志のスタンドと二通りある。グレートスタンドは一日最低が一ポンドである。仲々高いが御かまひない。それを此の期間中何百といふ金で入場料を拂ふのが何万とあるのだから驚く。場に入つて見ると、いや驚いた。私等は相當早く來たのであるが、大スタンドは長さが二丁程もあつて三階になつてゐるのに早大勢つめこんでゐる。皇族席が氣高く決勝点間近にある。スタンドの前は四五十メートル

の幅の廣場で、グレートスタンド前の芝生では早や紳士淑女が手をつないで歩いてゐる。大きな花を胸につけてゐるのものもある。妙な形の帽をかむつてゐるものもある。文字通り百花瞭爛の形である。

普通スタンドも一町位の長さで二十數段になつてその前は何百人といふ馬券の賣り手が聲をからして番附をたゞいて客を呼ぶ。その前がレース場で芝草が青くピロウドを敷いた様に一哩は一直線になりついで東の方から北西に圓を描いてゐる。レース場の柵の内側は何万の人である。天幕、旗、看板、廣告、自動車、馬車、屋臺店、荷馬車、タキシードに男女が織る様に又芋の子を洗う様に混雜してゐるのが白い鮮かな柵に仕切られて蠢めてゐる。東と西と目の届く限りは群集である。向ふは密林である。赤い屋根が二三軒見える。東手の方に低い山がある、どこも木が澤山生えて此處丈は別天地である。右手の木の間からしつ切りなしに自動車が來るのが見える。全く今日は近來稀れな好天氣の上にロイヤル、ハントカップのある日であるから見物の多いのは無理もない。

馬券賣りはスタンドの前へ來て怒鳴る。大に買給へ。少しの投資で諸君は何れ程得られるか分らないと拳を握つて怒鳴る。そこへ大勢押しかけて馬券を買う。スタンドは大分つまつてくる。みなサンドイツチをむしやくやつてゐる。スタンドの上のエゼントが賣買を手振信號で帖場へ知らせる。口笛をふく。手振信號はあちらこちらに大勢遠距離からやつてゐる。柵の外の自動車の上に立つてこちらのスタンドと呼應する。風が上がる。ジョニウツカーの廣告旗をたて、飛行機がと



ぶ。蟻の子の様に黒い人間がスタンドを埋め柵の中を埋め、出入口は巡査が交通整理に汗を流す。恰度その時一臺の飛行機が右手の柵外の廣場へ來た。それはエヂス、ペーカーといふ女優で今日は是非ともキングの行列を見たいのに列車に遅れたから飛行機で來たのであるといふ。矢張り此れもセンセイションを起す商策であつたのだ。巡査が駆けつけて飛行士を叱ると、なに自動車や馬車さへそれ／＼置場所があつて客を運ぶのだから、急いだ客は飛行機で運ばねばならん世の中だから少々場所をあけてくれ給へといつて大笑になつた。

六志拂はない連中も多い。大スタンドが二萬人、普通スタンドが二萬人、無料の柵内の見物が二

萬と見當をたてるものもある。それなのに喧嘩一つ起らない。

十二時に赫々たる太陽に照らされてゴールドンゲートといつて普通スタンドの右手の門から眞紅の服の騎兵と金モールの服の騎兵が輕やかに青芝の上を徐行してくる。それに續いたのはキングの馬車である。キングはシルクハットを振つて答禮せられる御笑顔と御頭のうすあかい御



下 陸 帝 皇 國 英



秃頭が光る。クインは銀線の小さい帽にベルシヤ色のある白銀模様の御衣裳である。御同乗の陸メリー内親王は白の帽子に大きな緑色の花をつ后けられアツプル、グリーンの御服である。ヘン皇リー殿下は鼠色のシルクハットでそれに續くは國コンノート殿下、アーサー内親王、ラセルス伯英其他の貴顯の方々であつた。これが青い芝草の上をすべるが如く進まれる時、群集は帽をふつ

て萬歳を叫んだ。

やがて第一回の出場の馬の番號が前の大きな揭示台に掲げられる。見物はもうプログラムと双眼鏡で無中になる。これはコロネーション、ステイクスで各に百ポンド宛の賞金の上に、三才の牝馬に一千ポンドの割増があるのである。これはオールドマイルであるのでズツト向ふの東北の隅の林の方へ行つてそこから走つてくるのである。さすがに廣いので、あちらの方は茫々として誰一人ゐない様な所から駆け出すのである。これには十疋位しか加はらなかつた。

愈々出たらしい豆よりも小さくあなたの森かげから駆けてくる。スタンドは總立である。愈直線



コースへ這入るとヘビーをかけた。赤や青などの騎手の服が馬脊に勇躍してゐる。仲々早い。ワーツと群集は叫ぶ。決勝はついた。失望と勝利のどよめきが鯨波をつくる。

一等はブツクローであつた。これはアスター家の持馬で親馬ブカンとポピンガオルの間に出来た子である。百二十二ポンドの目方である。これは直線コースに入る時は二番であつたのが漸次抜いて行つたのである。

二着はデイベビーでこれはアガカン閣下の持馬で百十五ポンドの目方がある。これは初めの半哩迄は優勢であつたのだが、次第に抜かれた。尤も初めパレードをした時にデイベビーは人気を一身に集めた観はあつたのではあるが。

三着はエスカレーターでポートランド侯の持馬である。この回到ネバークロツスとかアストリアなど注目せられてゐたのが惜敗した。それで又帖場へ殺倒する人の多いこと。スタンドはぎつしりつまつた。今度はロイアルハントカップである。群集は熱狂した。

馬券場は身動きも出来ぬ。馬券場といつてもスタンドの前の廣場に棒をたて、大きな鞆をかけそのかばんに取扱人の名前例へばビターアンドトソンとかジムパトリックとか分り易くかいてあつて一人が大きな帖面を持ち一人がトランプの札の様な馬券を一志でも二志でも拂へばその札を渡すので、渡す度にウインであれば一等に賭けるのであり、プレスであれば三着迄でよいといふのであつ

てその外、馬によつて配當の率が異う事になつてゐる。それを申込むと立札の馬の名の處にチョークで記入するのである。今度は花々しくパレードがある。スタンドの前を豫め一回列をつくつて徐行するのである。群集は自分がバツクしてゐる馬を見て喝采する。又も總立になる。今度は直線コースの東の端から出發した。三十何疋の馬が黒い一つの大きな怪獣になつて疾驅する光景はすさまじい。見物はうなる叫ぶ、喜びの聲、沈痛な聲援、ハンケチが動き帽がとび七萬の觀衆がどよめき渡る。實に此の刹那がアスコットの心臓もさけるかと思はれる一瞬である。

ロイアルハントカップは何の馬に與へられるか。それはアステラスであつた。二着のプリオリパークと首丈の差で三着のデリアスとも殆ど同じ差であつた。アステラスの名が何萬の人に叫ばれるアステラスはフランス育ちの馬で、今日あるを思つて臥薪嘗膽してゐたのである。彼はすぐる年リンコルンの時プリオリパークに負けてゐる。ケンブリジシアでは三番で、デリアスが四番であつたのであるから今日此の榮冠を捷ち得られようとは豫期されなかつたのである。これはポツソノ氏の馬でアラリとアストレラとの間に出来た子である。四才で百廿五ポンドある。プリオリパークはジョエル氏の持馬でロツクサバジと二代チャタムとの間の子で百十二ポンドの目方がある。名譽の月桂冠はアステラスに授けられた。アステラスの聲が鳴り渡つた。コロラドとかゴールドンホープとかロブとかラブリーネープルスなどは一蹴せられた。相當人氣のあつた様なチエース



ミー、チャリーなど後から三番といふ情けない有様であつた。それから半時間程おいて三四回あつた。久し振りの好天氣はいやが上に照り渡つてアスコットは唯もう馬に酔うてしまつてゐる。紳士も淑女も七萬の總てが魂の總てを馬に傾倒してゐる。此の熱狂はいつやむとも見えない。然し終了後の混雑を恐れるエトランゼーはホツとした氣持で此の大火爐の中からすべりぬけた。驛の近くには日本の様な赤松が雜木に混つて微風を楽しんでゐた。と見ると傍の草の上に片手のない乞食がこちらの顔を見上げてゐる。異郷人は喰ひ残りの紙包のハムを投げてやつて歩廊を靜か  
にあるいて行つた。

六月十六日

今日は、バツキングダムゲート、セントラル、スクール見學の日である。手間どるバスに乗つて、バツキングダム宮殿の前を急いで通り門衛の巡察に道を教へられて學校へ行つた。校長ハント氏は若い元氣な校長であつた。セントラル、スクールの性質は左の通りである。

この學校へは十一歳で入學し十六歳で卒業するものであつて、男女共に十六歳頃になり、商業、工業界に職を求めんとする者か他の役所方面に就職せんとする者の學校である。確實なる一般普通教育を授けると共に各兒童將來の希望により特に學校より指導を與へる。セントラル、スクールに

二種あつて、商業に重きをおく所、工業に重きをおく所とがある。

前者にありては簿記、速記、タイプライター等の外に近時の趨勢により外國語をも特に重視する。後者にあつては工、商方面を志す者を收容するけれども兎に角卒業後直に實際的仕事の出來得る者を養成する。特に何々の商業に就ては教へぬけれども、金工、機械作圖などの如きものをも含んで居る。又女子は工業科の方にあつては家事方面の事や裁縫などの程度の進んだことを課するのである。又右の二科共教へてゐる學校もある。年限は四ヶ年である。入學は試験(學科)(体格)に及第した者に限つてゐる。

最初の二年は一般教育とフランス語、三年四年に於ては前述の商工的の科目を加へるのである。セカンダリ、スクールへやるよりも此處を卒業すると直ぐ實業方面へ出られるから、中流以下のものは此の學校を歓迎する様である。

此校長に教育思潮とか、英國現今教育の力点とか種々質問を發したが、語らない。恐らく先日來逢つたこの校長も教育學殊に新思潮などを研究してゐるものは一人もゐない。極めて平凡なことを極めて後生大事にやつてゐるのである。新奇を求め、新施設を求めることは出來ない。

セントラル、スクールといへば他のエレメンタリスクールより費用も多く、殊に此處は英國宮廷に最も近い小學校ではあるが、その設備の簡單で校舎の古く汚れてゐることに驚いた。最上級な



ど、日本の幼稚園の黒板よりもまづく、四尺の長さ位のものに一寸臺をつけて、拭物は古い布切である。よく白墨を使ふ教師がよい教授者であるとすれば、この教師は随分拙劣な教授者と云はなければならぬ。黒板の上に僅かチョーク一本あれば二三日もあるに違ひない。

校長も今の政府は駄目だ。フイツシャーは大改革をしたが今二三年しないと、何の費用も得られないと言つて憤慨した。然し君等教員はボートを持つてゐるのだから、善い議員を選挙するのが善いでないか、英國は日本の何倍の富を持つてゐるか分らん、富を彼等の子供の爲に費すことを計畫する議員を選挙すべきでないか、日本は貧なりと雖市町村等に於ては歳出の七八割は教育費であるといつてもよい。生徒の旅行、教師の視察出張に朝鮮支那南洋へ派遣することは勿論、世界一週視察をもさせてゐるではないかと云ふと、いやそれには感心してゐる。僕は晝夜暇さへあれば教育界に選挙に就て運動してゐる。僕等は生徒をつれてスイスへ此春旅行に行つたが、費用は銘々貯金から出し合つたとこぼしてゐた。

成る程英國は道路も地下鐵道も完備してはゐるが、かういふ様に大部分の市立の學校は貧弱である。それは中流以上の家庭では其の子弟をパブリックスクール即ち私塾へ通はし、現今でも市立の學校即ちカウンター、カウンシルの學校は非常によくないと考へられてゐるから、上流の人々が、市立の學校への經費を出しおしむのではないか、惜しまないにしても直接關係がないから自然施設

其他が輕々に看過せられるのであらう。

一体フイツシャーが改革しなかつた以前のロンドンの教育は如何な状態であつたのであらうか。然し施設はないが、校長も教師もこつくと眞面目に遠廻りし乍らも、牛の歩みの確實さと、のろさを以て進んで行く所に大英帝國の偉大さがあり、そこを看破しないといけないと心には警戒して益々私自身の心眼をかつと大きくひらく必要がある。

授業は十一歳組は男女共學で、英語であつた。女教師がブローニングの詩の長いのを讀んで聞かせてゐた。随分長い詩であるのに根氣よく讀んで、問答もなく説明もしなかつた。

理科は電池の實驗をしてゐた。理科の時は二組に分けてやるそうで二十人位實驗を見てゐた。十三歳組は實業科でインダストリアル、ヒストリー、オブ、イングランドを讀んでゐた。英國商工業發達を説明してゐる本である。

速記科は Pitman's Shorthand New Era Edition—Shorthand Instruction を教科書にしてゐた。教授法は先づ一回、教師が自動車が古くなつたから新しいのと取替て一臺買入るといふ意味の手紙にあらはれて來る文字を徐々に口述しつゝ板書する。その時生徒も練習帳にかく。分らない文字は板書を見てかく。

次に右に書いたのと同じ文字を教師が少し早い口調でいふのを生徒が書く。第三回目は速度が早



くなる。第四回目はその文字が右の注文のどこかにあらはれて来る文章を口述して書かすのであつた。此國では速記が仲々實業界に必要であるから下級の者にとっては大切な科目である。それで一生懸命にやつてゐる。

英語科では英文法の問題につき答案をかゝしてゐた。その一二の答案は非常によく出来てゐるから後から送つてくれる様校長に頼んだ。

午食には大抵歸宅するが六十人位は學校で食事をするので、一人の婦人が食事と菓子とをこしらへてゐた。(一回九片である)いつもは女生徒が家事として手傳ふそうである。

午後は印刷屋で、楡重畫伯筆の繪ハガキ印刷を請取り、ブリチツシユ、ミウジウムへ行き、玄關を左折して事務員に大使館の紹介狀を示して、圖書館の入場券下附を乞ふと、二三日中に送るとして臨時券をもらひ、圖書室へゆく。そこは直徑廿四五間の圓い廣間で國技館の中の様である。いや寧ろパノラマ館の中の様である。圓形の中央に圓形のカタログ棚があつて四方に放射形に讀書机が數十列並んでゐる。四方の壁は一間位の高さの書架が三段になつて其の上は、ドームになつてゐる。中央のカタログの所から書庫へレールがあつて、箱車にのせて澤山の本を運んで来る。

何百人の讀書家が靜に讀書したり、書寫したりしてゐる。周圍の壁の上には、スコット、マコーレー、チンダル、シエレーなどの名前をかいてある。歸途大使館へより功力君よりオクスホード、イトン、ケンブリジへの紹介狀をもらう。ハロー、イトン、オクスホード、ケンブリジ等の學校へ紹介狀を一通にして書いてもらつて宿へ歸る。今日は七十八度といふ近來にない暑い日で非常にくたびれた。殊に昨夜は午前一時迄かゝつて昨日のアスコットの競馬の見物記を書いてゐたので、非常に疲れて久し振りに一寸午睡した。

夕方、ドイツの娘が下宿に宿つた。矢張りどこかしつかりした所がある。

六月十七日

今日は早くから、西の、アムバリー、ロード、インフアントスクールへ行く。此邊も貧民の多い所で、貧民といふより、怠けて金儲をしないらしい。それで學校は非常にやり難いので矢張り十時半の御茶は半ペンス拂はして、ココアとパンを二片與へて居る位である。

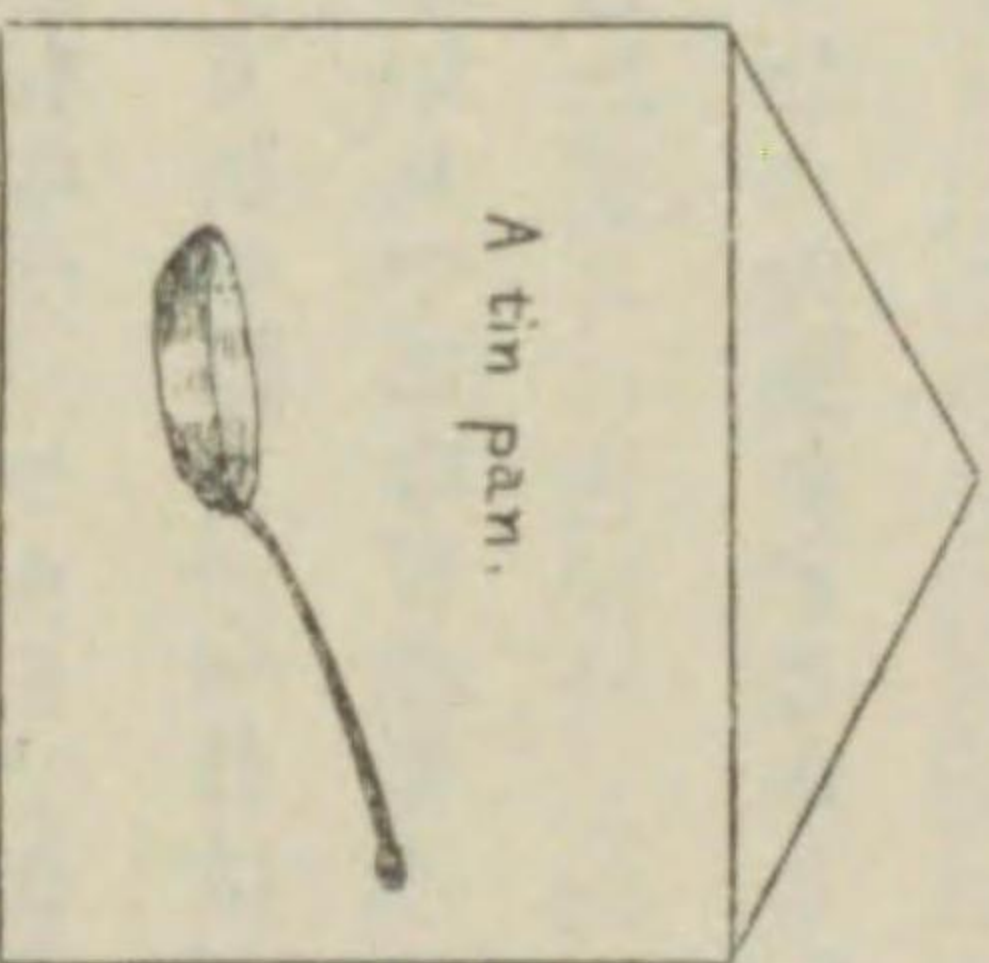
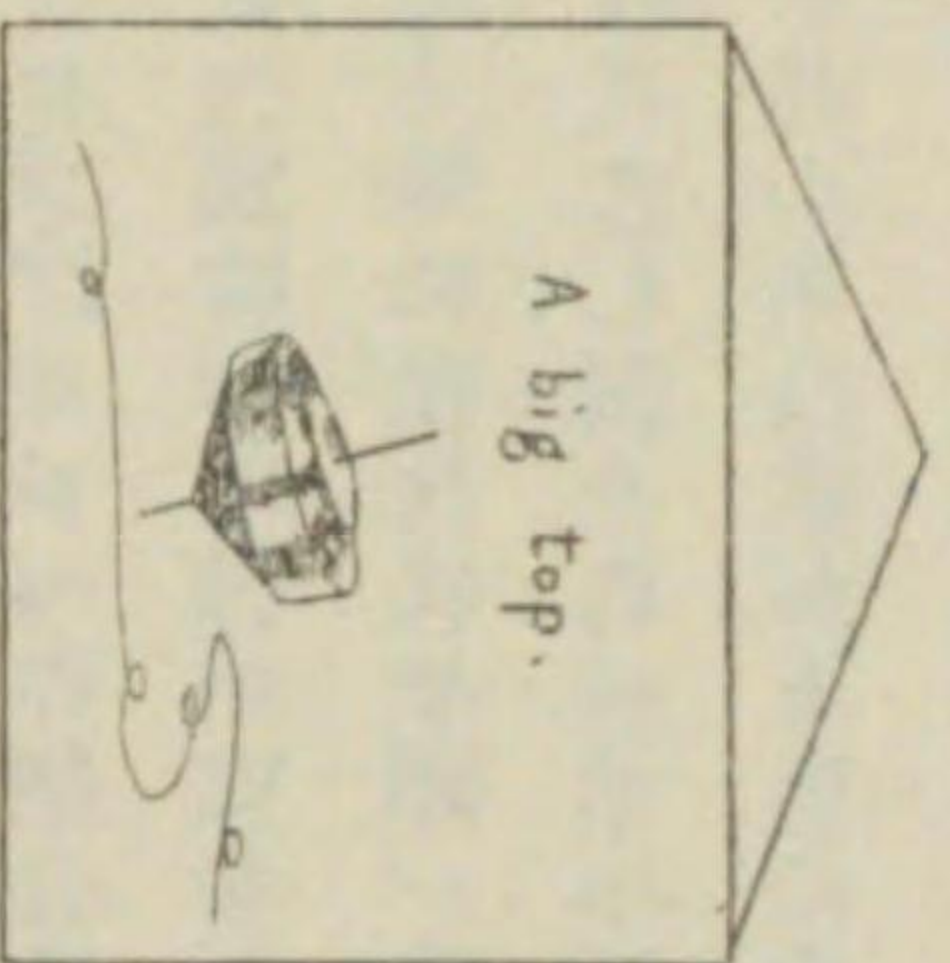
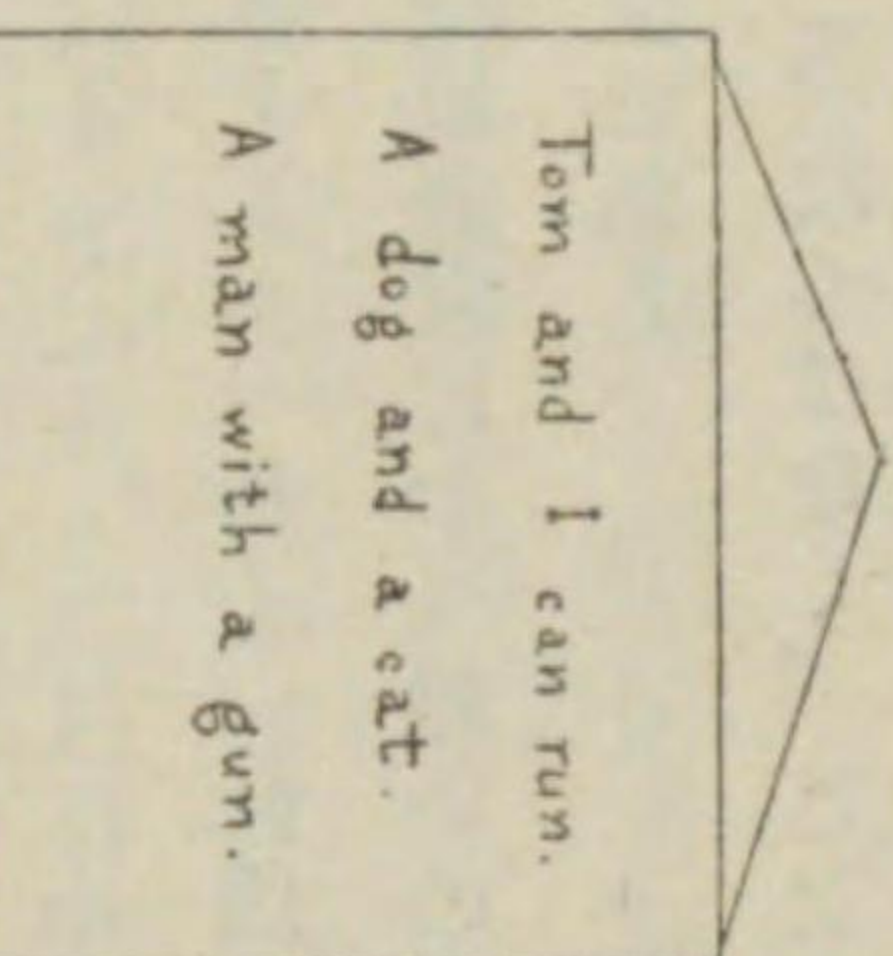
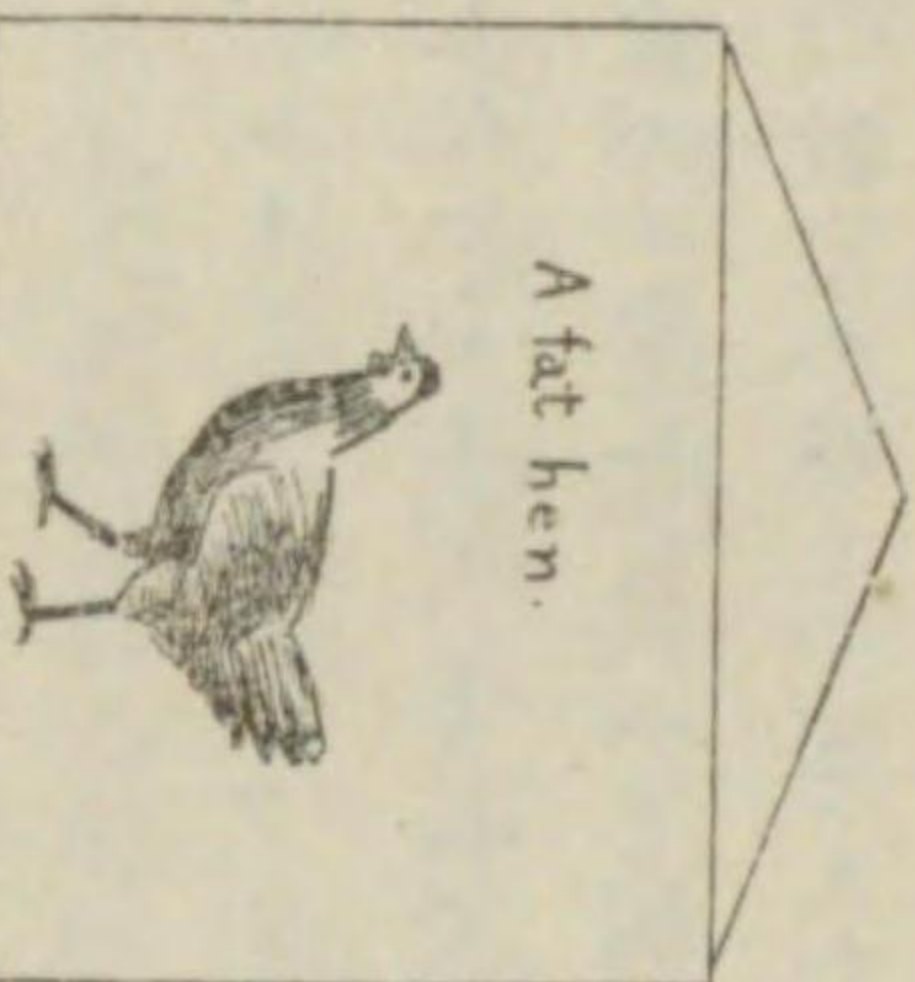
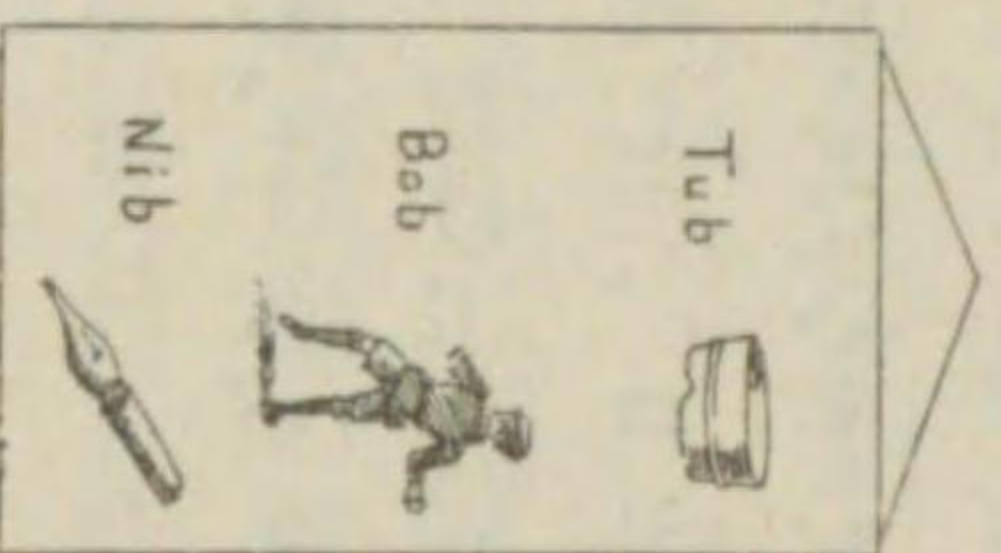
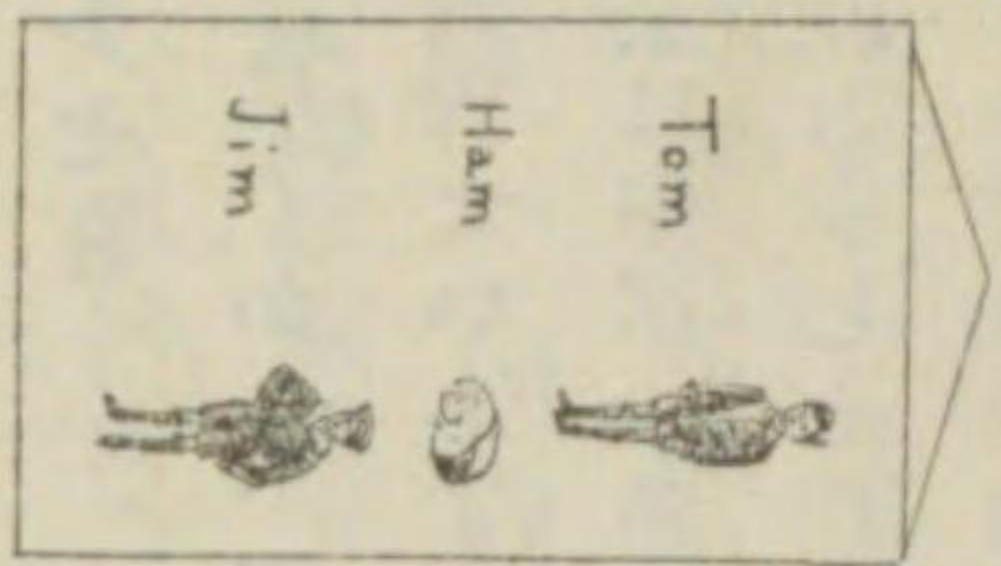
満五歳と少しそれに足りない年の組の教室へゆく。そんなに汚なくはなく、こじんまりしてゐる。先生の努力の結果であらう。恰度板書してあつたのを寫してみると、

we go it at with on but  
he so is am very of put  
me no in as one his was



she yes if on two him saw  
 be to I the big her now  
 see do us and little has were

これは讀方丈を教へるのであるといふ。別のカードに



の様なカード張りの繪が澤山あり、又

apple bat cap doll egg fan gun hat milk jam kettle lemon mug net orange pipe rabbit  
 snake umbrella van well yellow zebra

の繪を一枚々にかきその文字をかいてあるカードを壁に張つてある。

別の黒板には

1	2	3	4	5	6	7	8	9
●	●●	●●●	●●●●	●●●●●	●●●●●●	●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●●
			○	○○	○○○	○○○○	○○○○○	○○○○○○

が數觀念を養ふ爲に書かれてあつた。

子供はそれ／＼九寸に五寸位の木箱を持つてゐてその中には、ボタン、南京玉、木のきれ、ボール紙の切り抜き、丸、貨幣の形の紙、豆、數字を書いた紙、などを色々分類してブリキの小さい箱に入れてあつて、それを並べて數の實際觀念を得てゐた。

六歳組は

3 × 1 = 3

4 × 1 = 4

2 × 1 = 2





アムバレーロード・スクールの劣組

$3 \times 2 = 6$	$4 \times 2 = 8$	$2 \times 2 = 4$
$3 \times 3 = 9$	$4 \times 3 = 12$	$2 \times 3 = 6$
$3 \times 4 = 12$	$4 \times 4 = 16$	$2 \times 4 = 8$
$3 \times 5 = 15$	$4 \times 5 = 20$	$2 \times 5 = 10$
$3 \times 6 = 18$	$4 \times 6 = 24$	$2 \times 6 = 12$
$3 \times 7 = 21$	$4 \times 7 = 28$	$2 \times 7 = 14$
$3 \times 8 = 24$	$4 \times 8 = 32$	$2 \times 8 = 16$
$3 \times 9 = 27$	$4 \times 9 = 36$	$2 \times 9 = 18$
$3 \times 10 = 30$	$4 \times 10 = 40$	$2 \times 10 = 20$
$3 \times 11 = 33$	$4 \times 11 = 44$	$2 \times 11 = 22$
$3 \times 12 = 36$	$4 \times 12 = 48$	$2 \times 12 = 24$

恰度讀本をしてゐたが、其の開卷第一頁は斯ういふ程度である。文字は小さい。

Heroes of the Navy.  
Lieutenant Rutland.

The Royal Navy is the pride of the British people. We see this in the words of the song that we all know so well,

«Rule, Britannia ! Britannia rules the waves !

Britons never, never shall be slaves !”

Now, why are we so prond of the Royal Navy ?

Because it guards our coast, that no enemy may steal our land or our goods.

Because, too, it keeps an open road for us across the seas all over the world. Because it fights for us on the sea, as our army does on land.

We sit at home safe and sound; but do we ever think t at, if it were not for the British Navy, ours would be a life of peril instead of peace?

といふのであるが、一人の児童を前へ呼び出して讀ましたが一寸、六つヶ敷いと思つたので、後で其の本を一冊もらつて歸つて二三の英人に聞いて見ると、この本は十歳の子供に恰度善い位だといつた。

それから來合した、此の學校の家庭訪問係に會つて色々話をした。この係は婦人の篤志で全く俸給はなく、市の當局と合議の上、夫々各學校に所屬して、學校の依頼に應じ、就學督促、出席獎



働、病氣の治療方法其他の世話をやくのである。家庭も非常に喜んで歓迎はするが、此の學校の父兄は數度いかねば徹底せぬのが多いので困るといつてゐた。それから、六歳組、七歳組が唱歌と遊戯をして見せてくれたが、先づ上手といふ方である。一方先生のピアノの伴奏も樂器が上手であつた。

アマバレー、ロード、インフアント、スクール

五歳組時間割

時間	朝	會	点	呼	祈	禮
9:00—15	朝	會	点	呼	祈	禮
9:15—40	發音練習	食卓準備	宗	教		
9:45—10:25	バツ	食	イ	リ		
10:25—40	第二遊戯					
10:40—11:25	表現作業		感覺練習			
			簡單なる數々文字			
11:25—45	遊	戲	運	動		律動行進
11:45—12	ハンモツク用意					

2:00—15	休息
2:00—15	集合点呼
2:15—3:30	ハンモツク午睡
3:30—4	運動遊戯
	ハンモツク收納
	着服歸校

アマバレー、ロード、インフアント、スクール

五歳以上組一週時間割表

9:00—15	朝	會	点	呼
9:15—45	宗	教		
9:45—50	点	呼		
9:50—10	運	動		
10:00—25	算術又は讀方			
10:25—40	休	息		
10:40—11	算術又は讀方			



11:00-25	休	操	唱歌又は會話
11:25-45	表現作業		
11:45-12	休	操	會話
			表現作業
集會点呼			
2:15-50	音	樂	手工
2:50-3.5	音樂又は會話	手	工
3:5-15	休	息	
3:15-40	音	樂	手工

五歳以上組の一週時間配當表

英語	發音暗話	音節	時分
5.30			
運動	作業	歌	5.50
3.20			
1.15			

自然遊戯	科戯養呼會講	.50
2.30		
2.50		
2.30		
2.25		

セント・ポール學校

午後はセントポール男子部スクールのバーサーから軍事教育檢閲があるから來て見ないかといふので、三時にゆく。恰度、軍樂隊が行くのでついて行くと校庭へ入つた。仲々廣い立派な學校である。ロンドン中の私立の中等學校としては第一である。

この學校はセントポールガールスクールより先に設立せられてゐたものである。こゝから女學部の校が生じた譯である。本財團はマーセルス崇敬會の監理するものである。

本校監理者及職員  
マーセルス崇敬會理事長



- マーセルス崇敬會監事 三名
- 同 崇敬會の任命による者九名
- オクスホド大學崇敬會の任命による者三名
- ケンブリヂ大學崇敬會の任命による者三名
- ロンドン大學崇敬會の任命による者三名
- 監理者秘書 一名
- 校長 一名
- 教頭兼圖書館長 一名
- 教師 三十六名
- 圖書教師 二名
- 校醫 一名
- 庶務會計 一名

本校は聖ポール寺の住職なりし、ジョン、コレット氏が紀元一千五百九年に創立したるものにして慈善委員の創定せる定款により管理す。

入學 庶務よりうけたる用紙に記入す。之に出生年月日証明書を添へ金十志と共に提出すれば、

欠員の生じ次第試験の期日を通知す。

各監理者は毎年一名宛入學者を推薦することを得。この者は他の者より優先権あり。

入學試験は年齢により異ると雖、ラテン、フレンチ、英語、數學と文學部のものにはギリシヤ語

を課す。

年少の者はギリシヤ語を修め居らずとも文學部に入學を許す入學許可以前に該生徒の操行証明を以前の學校々長又は教授者より提出するを要す。

入學申込以前に於て校長は一應其の生徒を見且つ試験して入學につきての準備方法を通告すべし。

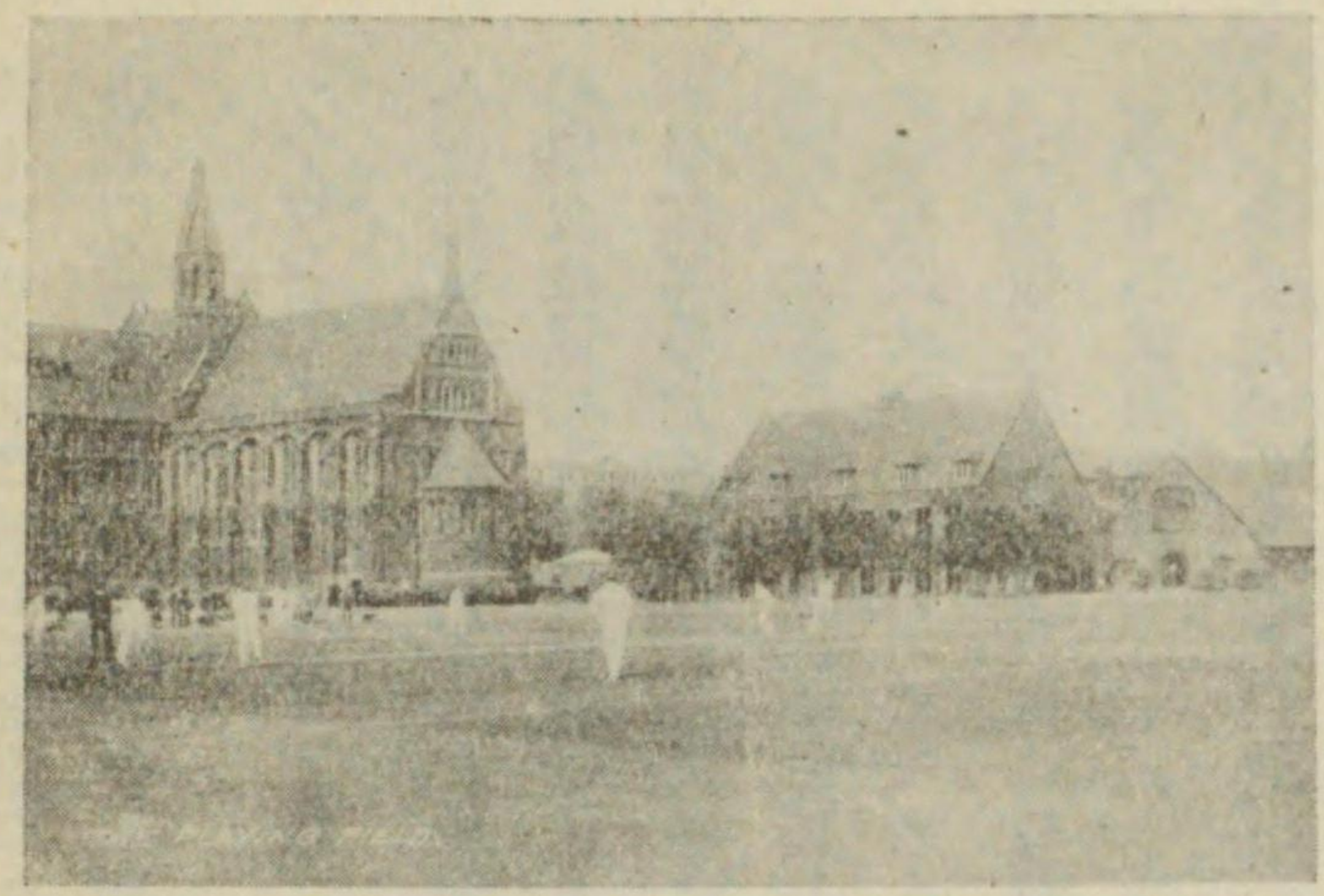
校長面會日は 月曜午後四時—五時

火曜正 午—一時

木曜午後四時—五時

他は御交渉により定む。

入學料 五ポンド  
 授業料 四十五ポンド(一年)



セントポール・ボイス・スクール全景



内十五ポンドは初めに納附のこと

退學の場合は學期の終る一ヶ月以前に申出でされば次の學期の授業料をも納附せしむ。

### フアウンデーション・スカラース

各生徒は入學料及授業料を免除す。

獎學金は現在々學の有無に係らず支給し、少年部と青年部の二部に分つ。

少年部獎學金は操行優良勤勉なるものにして十七歳以下のものとし、青年部は十九歳以下とす。毎學年に於て十一月、六月に於て獎學金試験を行ふ。

十一月の試験によりクリスマスに満期となるものを補充す。これは試験順によるものにして、クリスマス以後に生じたる欠員はこの成績順により補充す

### 少年部試験課目

ラテン、グreek、數學、神學、歴史、地理、英文法、フレンチ、自在畫、用器畫

### 青年部は右の外

化學、物理、透視畫

申込には五志を添附すべし。

本校資金の獎學金を受くる者は、魚の徽章を佩用せしむ。これは創立者が右人員を百五十三人と定めたるによるものにしてキリストの奇蹟の魚の數と等しくせんとしたるによる。(ヨハネ傳、一一) 學科 學校にては聖公會の教職により宗教々育を行ふと雖宗派の相違等にて之を免除されんとする者は校長宛願出づべし。

文學部 神學、クラシクス、數學、フレンチ、英語、科學、圖畫、ドイツ語

この部のものは大學の歴史科獎學金の準備をせしむ。

### 文學部以外

六 組

(一) 數學と英語に重きをおく少年部

十一組

(二) 大學の數學科入學の準備をせんとする青年部

十二組

(三) 器械及陸海軍人養成并に文官養成の大學入學の準備をせんとする青年部

十二組

(四) 近代科學研究の大學入學の準備をせんとする青年部

### 實驗室

(一) 化學部

(二) 物理部

(三) 生物學

この部にて研究するものは大學入學に特典あり。



圖書館

(一) ウラカー圖書館 第八級のものみに對して許す

一二〇〇〇部の圖書あり

(二) ボーイス、ライブラリ 四〇〇〇部

特志寄附により新に購入す

圖書科

自由畫、モデルにより描畫、實用幾何、透視法、器械并に建築圖法、寫生、水彩畫 裝飾畫

音樂

合唱及オーケストラの會あり

指揮者

一名

オルガン、ピアノフホーテ

一名

ヴァイオリン、セロ

一名

ヴァイオリン、ピオラ

二名

フリウト

二名

科外

スペイン語等一二あり。

工藝—粘土、彫刻、木工、金工

速記

フランス語及ドイツ語の日用會話に將來修熟する必要があるものは夏期休業中に是非、出國してフランス人、ドイツ人の家庭に入り練習するを要す。

運動

每週二時間体操を課す。

士官養成訓練

少年部の者は每週一回体操場に於て右訓練をうけ適任証をうくべし。

この適任証を有するものは尙試験を経て体操優良証明をうくべし。

生徒は父兄の反對なき限り小銃射撃を練習すべし。

屋内水泳場ありて、溫度を七十度に保つ。

水泳心得なきものは教師につき必ず修練すべし、十二回十圓とす。

ボート部は水泳優良の者に入會を許す。

演奏會 毎年二回大會、小會秋一回

辯論會



撮影會

フィールドクラブ

博物研究

スミ、ソサイエチ

應用科學研究

チエス、クラブ

將棋

一般校則

一年を三學期に分つ、

夏學期 五月四日より

休暇は四月に 三週間

夏期 七週間

十一月 三日間

クリスマス 四週間

授業は午前九時半より午後一時迄

午後三時より午後五時迄

土曜日は休業

家庭にては毎晩二時間宛學習すべし。

學期中、校長は如何なる所、如何なる時に於ても喫煙を禁じ、再度冒したるものは退校せしむ。制服は黒服に黒ネクタイ、スチフカラー。制帽とリボンはブツクルームにあり、凡て姓名を附すこと。生徒は自宅、近親又は監理者の認定せる下宿に宿泊すべし。

生徒宿所を變更するときは短時日と雖も校長に届出づべし。病氣のときは校長の許可を得て欠席すべし。長期に涉るときは校醫の証明を要す。復校のときも父兄の証明を持参すべし。

晝食料

四ポンド一五志 一學期

コールド、ランチ

三ポンド一六志 一學期

寄宿舎費(一學年二十二ポンド)免除の爲試験あり。認定寄宿舎四ヶ所

本校卒業試験優良者獎學金として牛津大學、劍橋大學、陸軍大學等其他に入學者の中

文學志望者 四名

數學志望者 二名

科學志望者 三名

近代科學志望者 一名



に對し、年額平均五十ポンド宛四ケ年間給與す。

右應募希望者は本校に六學期在學したる者に限る。

キーンズ獎學金 一八六八年にミス、ハリエツト、バーバーの寄附せしものにして、以後毎年、

二六ポンド宛牛津、劍橋への入學者にして數學成績優良なるものに交附す。

ペアリ獎學金 一六九六年にペアリ氏の創設せしものにして劍橋大學ツリニチカレヂへの入學者に二十ポンドを二ケ年間交附す。

ストック、エキジビション 一七八〇年ストック氏の創設せしものにして、年額三〇ポンドを交附す。

サイクス、エキジビション 一七七六年サイクス氏を記念して創設せしものにして年額三〇ポンドを交附す。

バーンズ、エキジビション 一八四四年バーンズ氏の創設せしものにして劍橋大學入學者へ五十ポンド六志八片を四ケ年間交附す。

ウキンタ、ボザム獎學金 年額三五ポンド十志、本校在學者にして文學に優れる者に交附す。

印度在住本校卒業生獎學金 本校出身英國人にして印度に於ける校友會員の創設せしものにして年額三〇ポンドを交附す。

ゲイナト獎學金 一九〇九年ミス、グリーンヒル氏の創設せしもの、年額九〇ポンドにして牛津大學ペムロクカレヂに入學せる文學優秀者に交附す。

管理者獎學金 五ポンドをギリシヤ語の優れし者に、一五〇ポンドを各科賞として交附す。

スリース賞 元本校校長の創設せしもの、毎年ラテン語の最優良論文に二ポンド十五志與ふ。

ツルロ男爵賞 本校卒業生にして物故せし大臣ツルロ氏は本校の恩に報ゆる爲一八五一年英文の論文に對し金メダルと十八ポンドの本又は金を交附す。

ミルトン賞 bart 氏の創設、神を主題として英詩を作る者に二ポンド十志

ツラストン賞 一八四九年物故せるツラストン紀念の爲ラテンの詩のすぐれし者に六ポンド

キナストン賞 元本校々長キナストンに教をうけし生徒より醸出して恩師が退職の際一八七六年七ポンド十志を文法の優良者に交附す。

ペドフォード賞 一八七九年ペドフォード氏紀念の爲地理歴史に優れし者に二ポンド十五志交附す。

オリバント賞 元本校教師オリバント監督を紀念する爲五ポンド五志をギリシヤ語の優秀者に交附す。

ワトソン賞 本校監理者の一人たりしワトソン氏を紀念すべく年額三ポンド十志を圖書の優秀者



に與ふ。

バタワース賞 年額三ポンドを英文學殊にセキスピアの研究に對し本校卒業生バタワース氏の創設せしもの。

モンタグ賞 二ポンド十五志スワイリング氏の寄附せしもの、ドイツ語のすぐれしものに與ふ。

ルプトン賞 本校教頭にして監督たりしルプトン氏退職紀念として創設せられ、年額三ポンドを聖書の知識ある者に對して與ふ。

スミール賞 本校卒業生スミール氏が創設せしもの年額十七ポンドを科學の優秀者に與ふ。

クツク賞 三ポンド六志、元本校教頭のクツク氏友人の創設せしもの、少年部生徒の論文に對し交附す。

今日は、本校總務のバーザー氏から、軍事訓練の檢閲があるから來いといふ手紙が來たので、運動場へ出てゐると同氏が來て色々説明してくれた。

生徒は三百人位自費で、軍服をこしらへ陸軍省から借りた銃を持つて整列してゐた。教官は本校の教師が之に當つてゐた。

校庭は六英加あり校舎が二英加あるといふ。仲々廣い運動場で中央に英國旗が雨後の微風に揺れてゐる。

別に十英加の運動場が少し離れた所にあるといふ。

やがて英國の陸軍大將モンテゴメリー氏は、副官一人と見學の日本大使館附將校三名と同伴來場して、一應檢閲した。分列式は、軍樂隊のマーチに合せて英國旗の下に立つ將軍の方に「頭右」をしたが、樂隊の進軍マーチの輕快なリズムは非常に宜かつた。分列式は餘り感心しなかつた。

私の傍に立つたスミス氏は「弓、弓」とつぶやいた。隊列が折弓の様になつたからである。それもその筈十三四歳位のもが大分混つてゐるからである。

それからホールや圖書室を見せてもらった。仲々古い立派な建築である。英國の教育の特徴は人格教育であると思ふが人格教育をどうしてするかと尋ねると「吾々は人格を如何にするべきやと教へない。英國の精神を發達せしめる丈である。此の學校の校風（トーン）だ。これが自然に生徒に薰染していくのだ」と答へた。

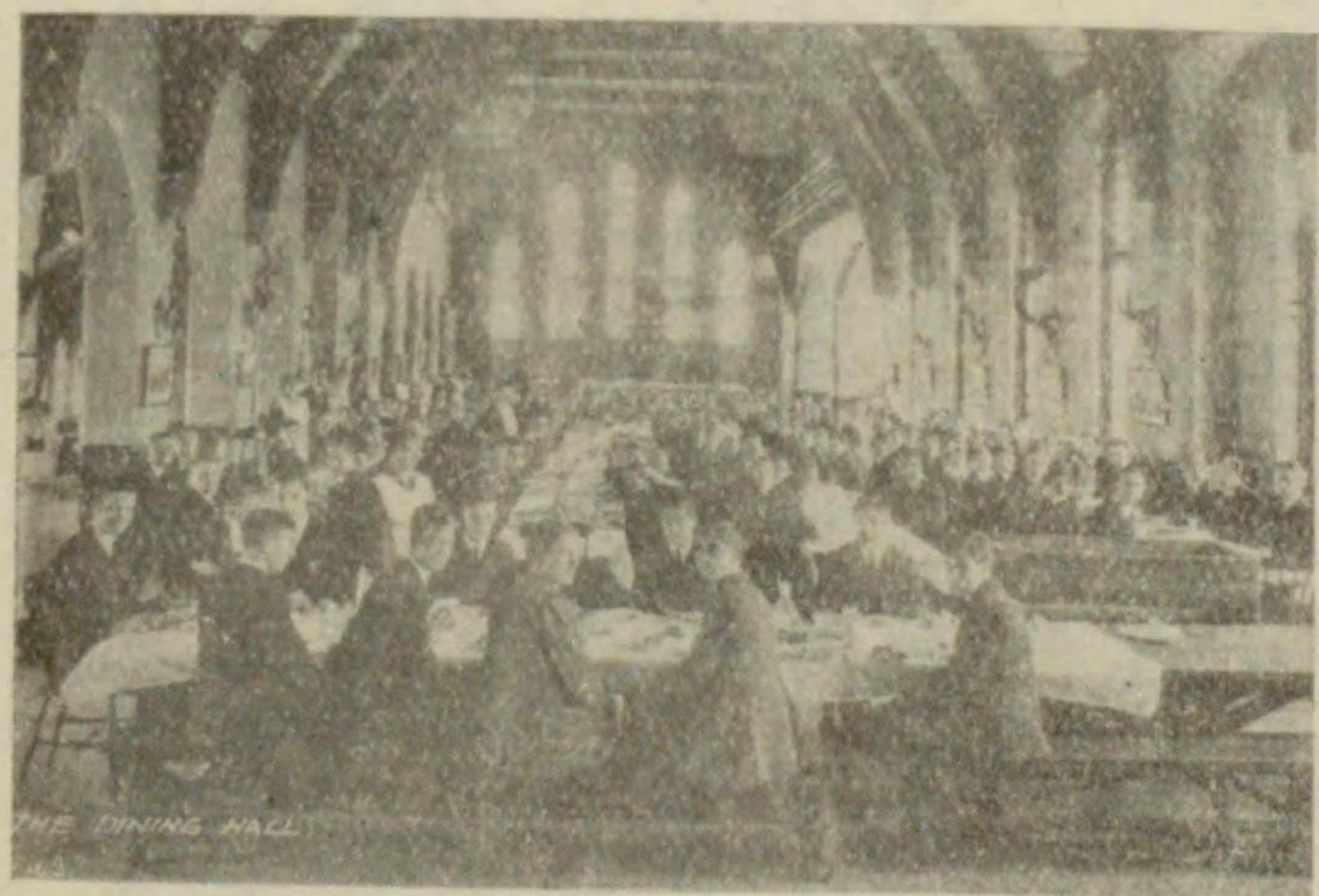
矢張り此の一言につきるであらう。古い學校、立派な教師、立派な卒業生、學校中の空氣、學校の歴史が自然と言はず語らずの中に英國の紳士を造るのであらう。非常に忙しさうであつたからスミス氏に人形や土産をあげて引上げた。校長は二十二ヶ年勤続しもう近々退職の筈であるといふ。夕方歸宿した。



六月十八日

今日は土曜で學校も休みなので、午前中參觀整理。午後は、クリスタルパレスに於てリーグ、オプ、ネーションス五千人の集會競技を見ようとて出かけたが、雨が降り出したので午食して「エデンの園」といふ芝居を見た。芝居は初めて、あるが、筋は平凡であつたから第三幕を止してトキワへ寄り、オクスホード、ストリートで、レインコートを買つた。國を出るとき持つて来たかつたが少し古いからといふので見合せた。英國ではどんな古いのもよい、持つてくればよかつた。五十五志といふのを日本流に値引さして、五十二志六片で買つた、矢張正札附でも店によれば割引する所もある。

土曜は晝から大部分店が閉ぢるから困る。天氣は誠に妙である。冬服で寒い。どうしても、レインコートは要る。冬外套でもよい。快晴で暑さを感じる日はまだ四五日しかない。夜遅く迄手紙をかき又本をよむ。主婦に、英國クイーンの話を書き、現クイーンの家柄は大變よいが、大分貧しかつたので、



セントポールボーイ・スクール食堂

クイーンは若い時は着物すら自分で縫はれた位である。主婦が女學校を卒業後、ウキンズル宮の王室ミルク製造場に勤めてゐた時分によくキングも、クイーンも來られ、バタの拵へ方などについて御話があつたり、御自分に器械をまはされたりといふ。今の皇太子が御子供の折、牛乳の入れものをのぞいて居られた時帽子が牛乳の中へおちこんだりしたこともあつたといふ。又嘗てメリー内親王がキングと一緒に乗馬された時内親王の馬が暴れだしたが、キングはどうともせられなかつた。漸くにして、メリー内親王が自分の力で馬を鎮められたが傍で見てゐて冷々したことがあつたといつてゐた。

六月十九日

午前中は通信。午食後、同宿の佐々川君ベルウ人ゼムボー青年と來合した臺灣大學堀教授と三人でキウガーデンへ行く。温室は中々大きく、二階から見える様にしてある。園内は仲々廣い。撮影すること度々であつた。尤も寫眞器を持つてゐる者は三片とられた。普通の者は一片である。

又ロンドンは、ウークエンドから日曜にかけて郊外への往復汽車賃は非常に割引をする。私たちの宿に近いスイスカテジの近くのフィンチエリーロードから、キウガーデン迄私は片道買つたが九片であるのに、往復買つた者は八片である。片道より往復が安いといふのだからおかしい。チームズ



河畔に出て、又日本の勅使門を見た。これは一九一〇年博覽會の時本願寺のそれに似せて出品したのをこゝへ寄附したのであるといふ。パゴダ(塔)の近處で茶をのんだ。園内廣いこと、實に善い處である。

それから序であるから、近處のリツチモンド公園へ行く。高地で樹木も古く大きいのがある。見晴しもよい。鹿がたくさんゐる。こゝで休んで、トキワへ寄り大浦君と夕食を共にして歸る。

六月二十日

地下鐵道でテームスを渡りペカムの市立女學校を見る。

本校長はミス ナイト氏で、職員は未婚十五人、既婚二人である。

本校はカウンチー、カウンシルの管理する學校である。

授業料は初め三年間は一ケ年十二ポンド(百二十圓)

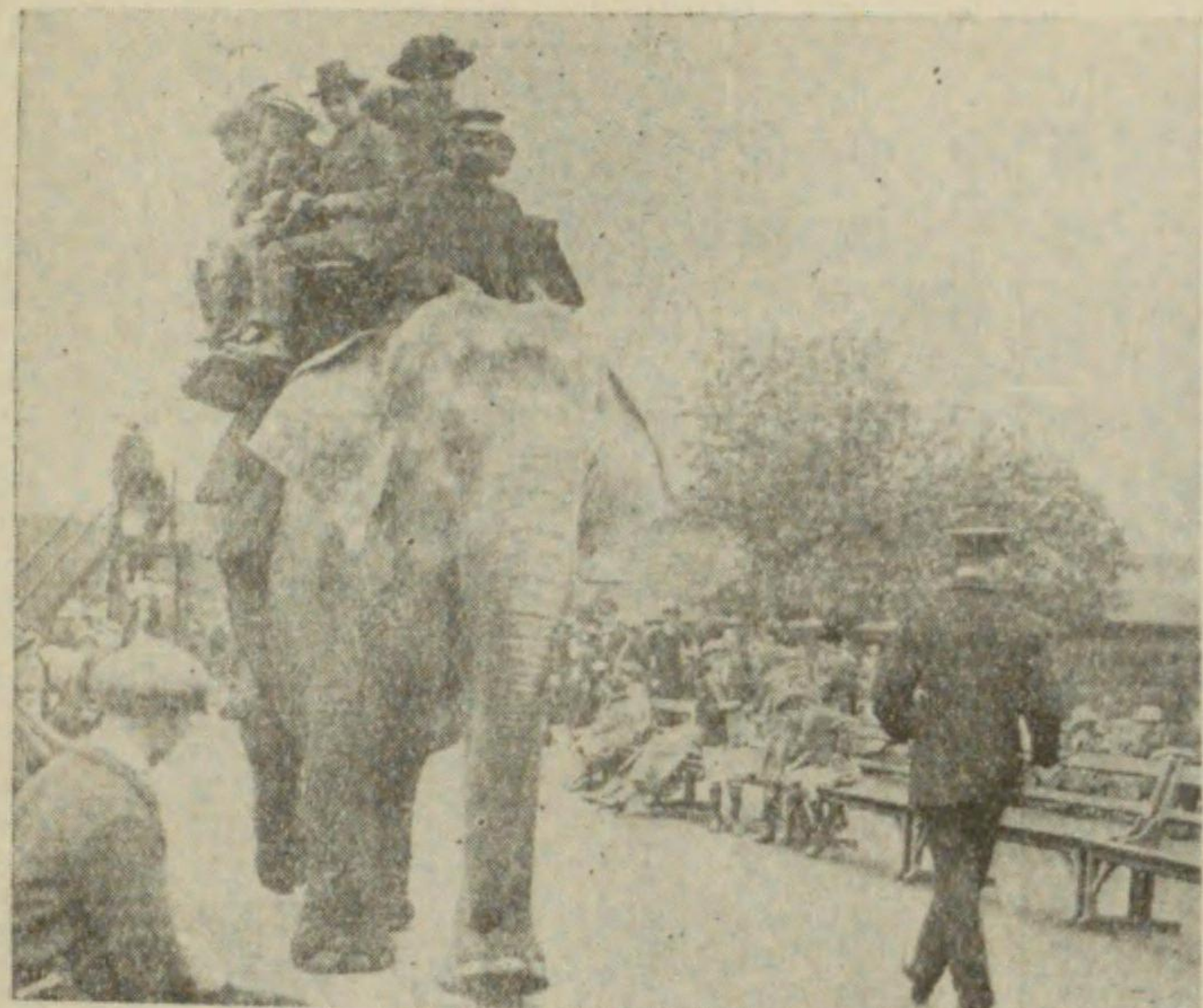
次の二年間は一ケ年七ポンド十志

次は 一ケ年三ポンド

授業料には書物、學用品、運動費を含む。

入學後二週間内に授業料を納めざる者は退校せしむ。

主旨、本校は女子に自由なる教育を施すを以て目的とし、  
第一の目的はロンドン大學の入學試験に應じ得ることとし、十七歳より十九歳に至る者は、同大  
學及其他の試験に應ぜしむる目的を有す。



リセントパーク

學科 聖書(父兄の希望により免除す)

英語(讀方、雄辯、書方、文法、作文、文學)、歴史

地理、算術、理、化、植物の簡單なる實驗

幾何、フランス語、唱歌、圖畫、料理、衛生、体操

宿題をも課す。

團体運動に加入せしむ。學校長は試験を行ひ操行点と共に父兄に通知す。

登校は九時より十二時五十分迄、二時二十分より四時二十分迄、欠席は校長の許可を得ること。

學期中頃に一日休日を設く。勿論土曜は休業なり  
入學申込は校長より願書用紙を受け、父兄より申込む  
こと。生徒に對し、市の經費負擔は多きにつき中途退



學をせしめざることを。少くとも十六歳か十七歳に達する迄在學せしむること。相當の理由なくして退學せしめんとする者に市は一年五ポンドの割合を以て辨償せしむ。通學の價值なしと認むる者、又他の生徒に悪影響を及ぼすが如き者は退學せしむ。

入學の際は健康証明書を持参すべし。

傳染病にかゝりし者は校長の許可を得て休校せしむ。健康上の顧慮より女醫師と看護婦により体格検査を行ふ。

左の奨學金は本校在學中受けることを得べし。

低學 年部 十一歳の者

中學 年部 十三、十四歳の者

中の上學年部 十六歳及十七歳の者

高學 年部 十八歳より以上の者

ロンドン市は、教員、學生が學校におきたる所持品に對し責任なし。金錢及高價なるものは、猶豫室等におくべからず。

校長面談日、學期の初まる日の午後二時より四時迄の間に於て父兄と面談すべし。又毎週木曜の午後二時半から四時まで豫め打合の上喜んで面會すべし。

右は規則であるが、應接間で校長を待つ間に、机の上の生徒の雜記帳を見る。

#### 四の上組、一九二六年、九月三十日

果物のシチウの拵へ方

砂糖 四十オンス

水 二分の一ポイント

シチウにすべき新しき果物

一、砂糖と水とを白色エナメル引の、ソースパンに入れ、徐々に溶かし、かきまはさずに十分間煮る。

二、果物を拭ひて右のシロップの中に入れ、徐々に柔かになるを待つ。

三、出來上れば皿に盛り、シロップを上にかけて出す。

四、大抵の果物は斯くして、シチウになす。

といふのや、色々の筆記がある。實習の時に書いたのである。きれいに清記してある。羊の身体の各部の肉の名を圖解したのもある。

やがて校長室に行き、茶を出された。(ロンドンの學校で茶の出たのはこれが初めだ) 今日こそ教育方針につき確かめたいと思ひ先づ訓練に就てきくと、



私の方では人格養成といつても

特別には教へません。

外を喧しくいひません。

教師の人格が一番です。

と答へた。極めて簡単に答へて説明しない。

それでは現在の英國婦人に就てどう考へますかと尋ねると、

英國の婦人は獨立を得んとしてゐます。

自分の生活を鹽梅していくことに力めます。

然し、よき家庭を作る人にならねばなりません。

家庭の仕事、針仕事、洗濯、育兒が上手でないといけません。

子供を愛せねばなりません。

自分のこと計り考へてはいけません。

禮儀あること、そして親切でなければなりません。

殊に責任の感が大切です。

と答へる。それでは、イングリツシユ、ゼントルマンといふことはよくきくが、この言葉には英國

の婦人も含んでゐますか？

と尋ねると、大体含んでゐると考へてよろしいと答へる。現在英國の婦人は進歩向上しつゝあると思ひますか、又は少し低下してゐるかと問ふと、

どうも近頃、ケヤレツスネス、オブ、マナーズ（行儀が悪くなり出した）と言ふ。

日本では女學校の教師は、家庭を持つたり、育兒の經驗のある者でないといけないといふ説もあるが、此處の學校の大部分は未婚の婦人であるが、此れはどうですか？

二三年前當市にて既婚の婦人は女學校の教師になれないことになりました。又結婚した者は職を退くことになつたのです。家庭を持ち、子を持つものは其の責をつくすべきで、二つの責任は果されません。

然し只今他の問題もあること故可否の論は新聞などによく出ます。

活動寫眞にはやりますか？

なるべく一週一回位にといひますが、行きたがります。

男子との交際はどうですか？

本校生徒の兄弟の友人などの交際は止むを得ません。

生徒を罰することはありませんか？



先日となりの學校のガラス窓に四つボールを當てましたから謝罪狀をかゝりました。  
も少しひどい犯罪はありませんか？

いつか他の生徒の金をとつた者が二人ありました。

男子との文通などはどうです？

その事件も一つあつて退校にしました。

こちらでは嫁入するとき親はどうしますか？

少々の財産をその娘に譲つてやることもありますが大抵はやりません。娘は愛の爲に結婚する  
のです。愛の犠牲は少々いります。貧乏世帯がよいのです、自然産兒を制限する様になります。

私の少女の時代には大抵六七人の子供のあるのが普通でしたが、この頃四人あるのは稀です、  
そうしないとやつてゆけません。

性教育は如何しますか？

卒業の前に一寸教へます。

それからまだ大いに尋ねようと思つたが校長は病後だとして非常に疲れた様子であるので質問を  
止め、京人形をあげると喜び、秘書を呼んで時間割を寫さしてくれる。

校長の案内でホールへ行くと、大がかりでスカラシップの試験を施行中である。ロンドンでは

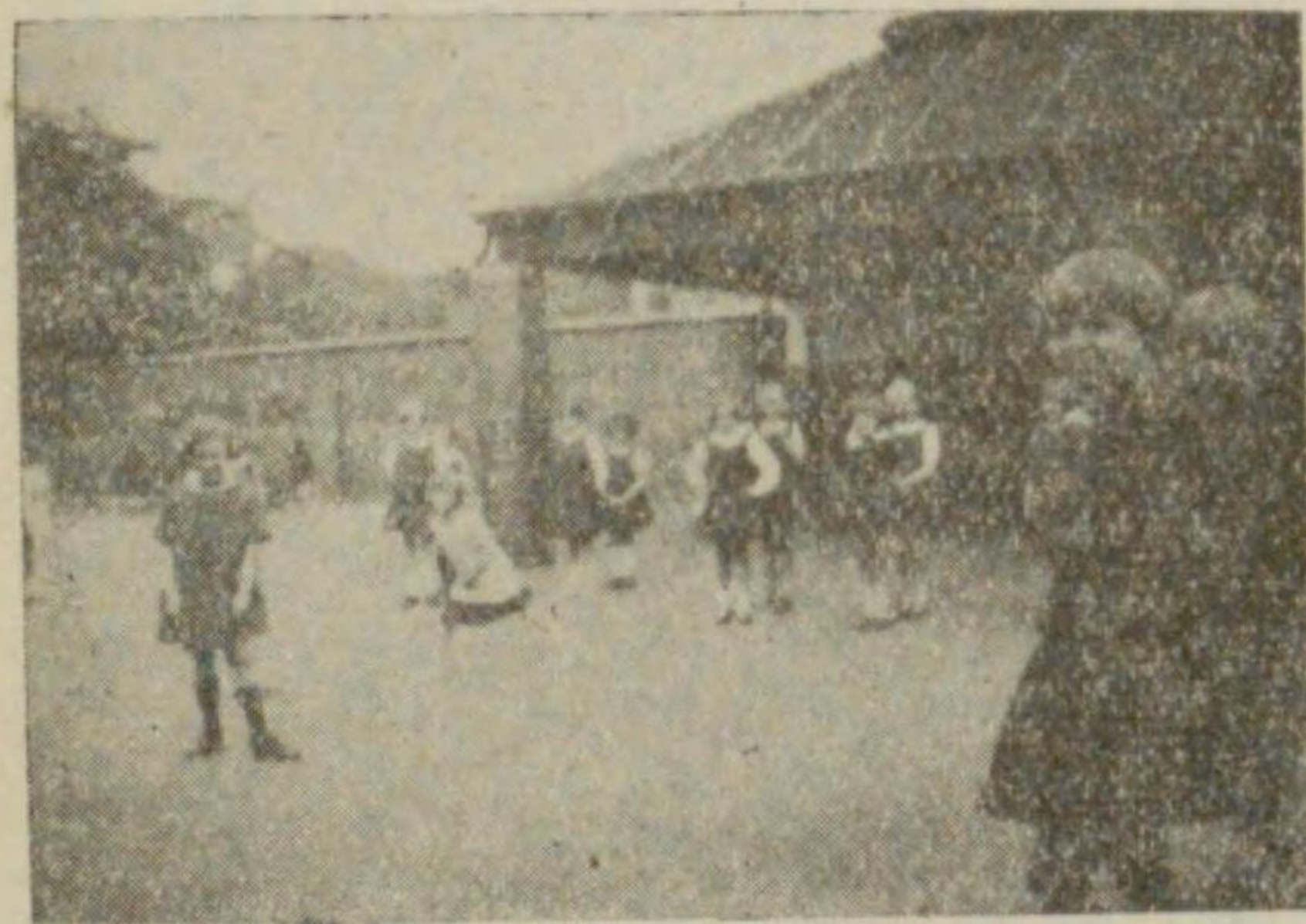
第一の名譽はスカラシップを得る事である。

圖書室で圖書の先生に畫を見せてもらひ澤山後から送つてもらふことにする。家事室では晝辨當  
を三人の婦人助手と生徒が作つてゐる。大きなガスのかまどをあげると、大きな肉塊や、菓子が出  
來てゐた。一食十片拂ふそうである。

唱歌室では三四曲聞かしてくれた。小學校も女學校も日本の様に大きな聲で唱はぬ。隣の部屋へ  
も聞へぬ位に唱ふ。學校も市立であるが小さいものである。設備は勿論貧弱である。運動場もとて  
も狭い。

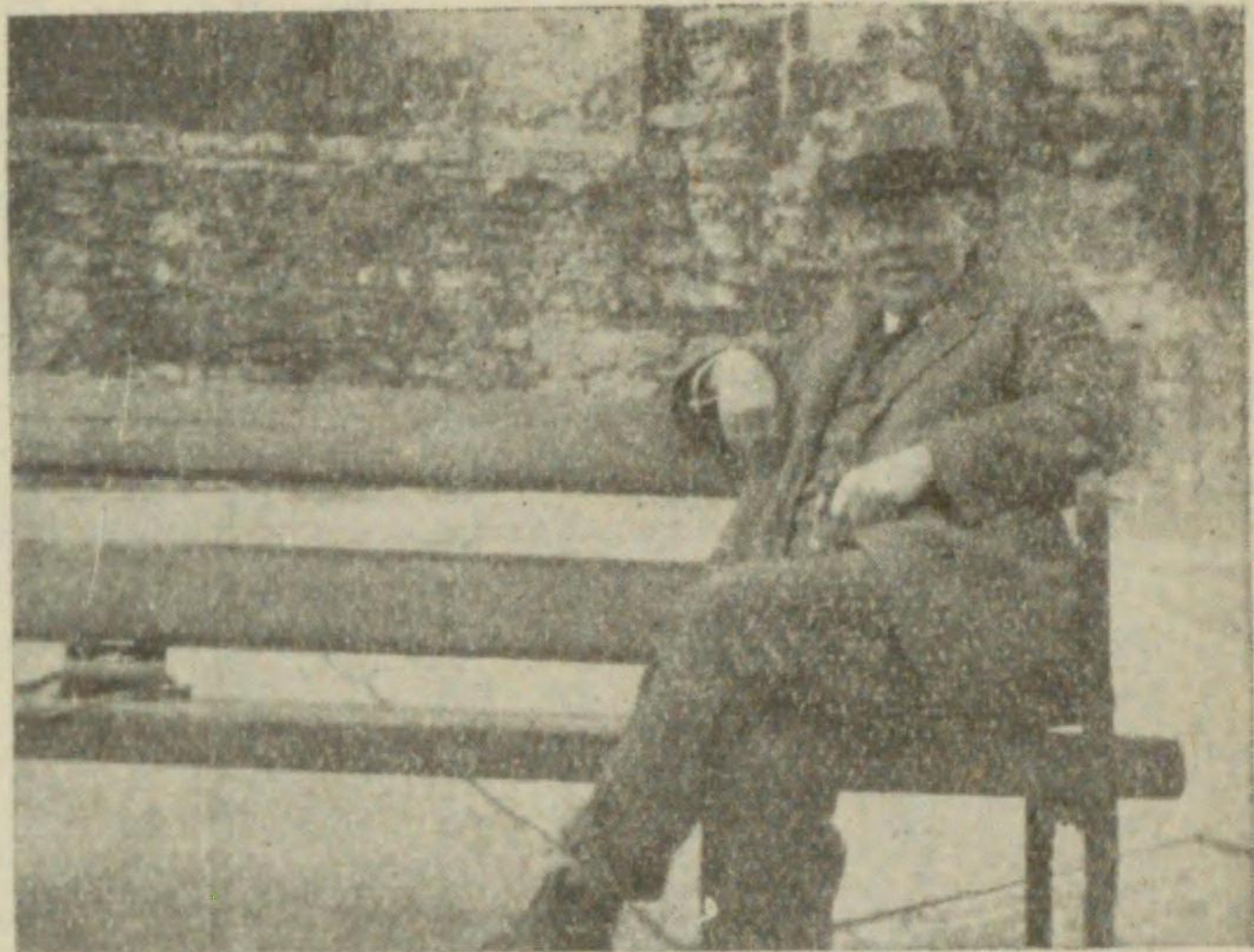
こゝを辭して晝食し一時間もバスに揺られ、ウト／＼居眠りをし  
て、セバードブツシュで下り巡査に尋ねて、セントラルスクールに  
ルイス校長を訪ふ。私が倫敦到着の翌日招かれた校長である。

色々話して氏の學校の組分、優劣の表をもらつたり、雑談をす  
る。それから氏が十一歳組に地理を教へるのを見にゆく。氏は地理  
好きで暇があれば旅行する。そして寫眞にうつして、生徒に話す。  
地理の圖表を二冊著し、旅行案内も一冊著してゐる。今夏當市教員  
の夏季講習に修學旅行に就て講義する筈である。氏は教室で、



エラズリーロードスクール





ル イ ス 校 長

歐洲の時間の差、各國の首府、ロンドンの距離等を圖表により教へた。教へるといつても、教室の前横の椅子に腰かけて私を横に座らし、私と話しする間に又生徒と問答をするのである。

然し此の校長は市内でも有数の小學校長で殊に地理教授に就ては自慢なのである。それから校庭の劣等生組が阿屋で習つてゐるのを見せてくれた。

四時半に時間が終ると一冊の本と二尺程の籐の鞭を見せられた。これには悪いことをした兒童の名前を書いたのである、その生徒を放課後、首席教師が二つ宛打つのであるといふ。市から此の鞭をもらつてゐるのである。少し罪が重いと校長が打つのである。然し此の鞭

うつことは校長が全部責を負ふのである。教育上必要として市も許し、校長も又之を行ふのである。それから、ホールに七人位づつ列を作つて子供が小刻に歩いてゐる。何をしてゐるのかと聞くと、あれは遅刻して來た者に十分間位放課後あゝして歩かす罰則であるといふ。これを聞いた時お

かしかった。

日本では体罰は禁ぜられてあるし、此頃大体から言つて教師と生徒とが友達のように、フザケ合ふ位になつてゐるのに、どうもこちらでは先生を畏敬して、生徒は先生と親密ではあるが其間やはり師を師として敬ふが、稍々遠慮の傾がある。吾學院の如きも無論、師弟の間自ら其の區別はあるが、非常に打解けて、殆んど先生に畏れを抱くといふ様な風もなく、和氣霽々たるものがある。所がこれは英國氣質で、融通の利かぬ所に面白味がある。日本では今頃ケーンなど用ふるといふのはよくくゝの場合であり殊に小刻に歩かしたりしたならば茶目つて先生がゐないと赤目をしたり舌を出したり懲罰が懲罰にならぬであらうが、こゝでは子供も亦後生大事にやつてゐる。歸途、本屋へ立ち寄る。日記をかく。

## ハロー・スクール

六月二十一日

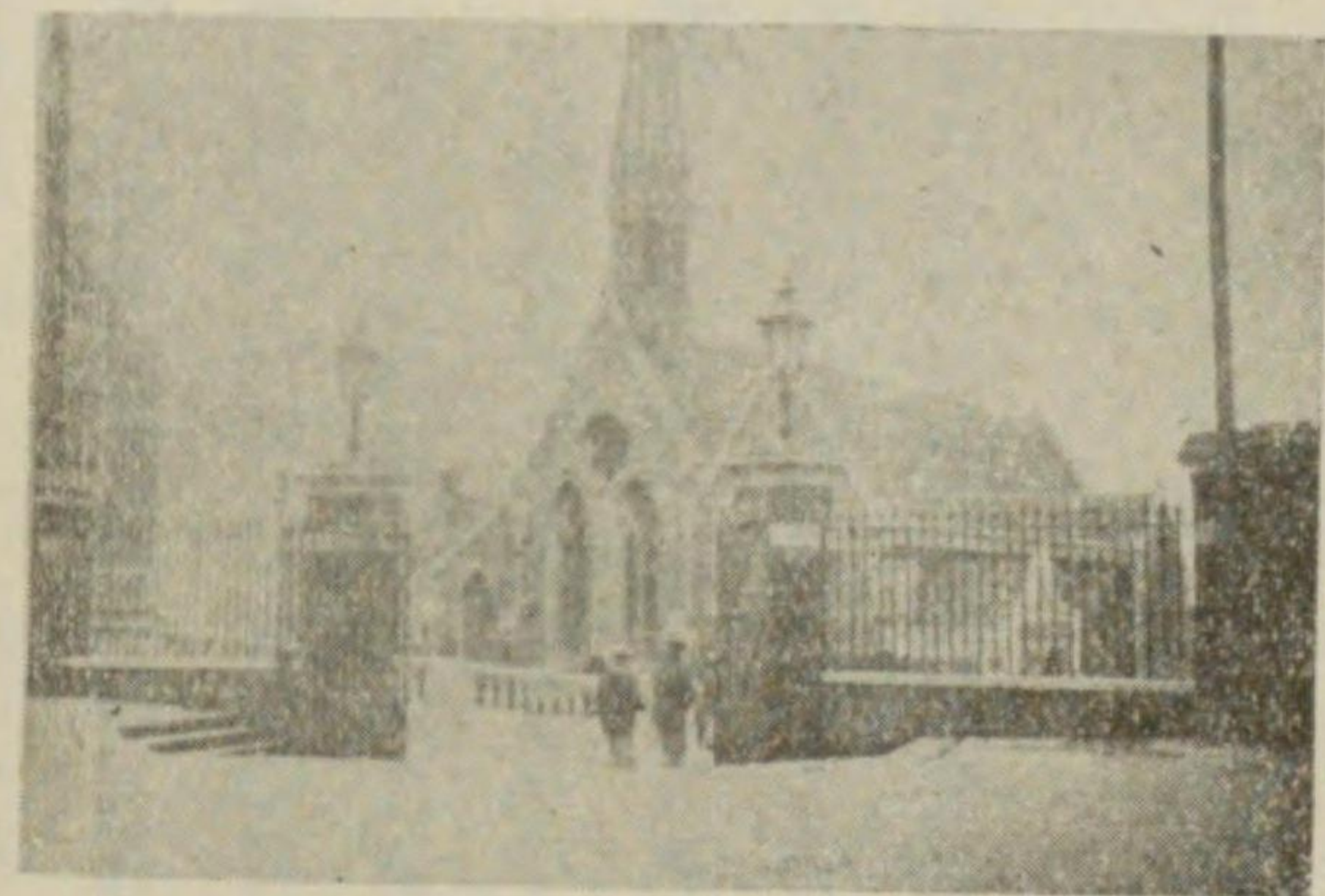
朝食後今日は、英國私立學校の中で有名なハロー學校へ行かうと思つて、スイスコテージ驛から汽車に乗り、ハロー、オン、ザ、ヒルに下車す。こゝには澤山驛があるが、ハロー、オン、ザヒル



が一番善いと云ふ。半時間もかゝらなかつた。

恰度曇つた空から雨が降り出した。紳士に道を聞き、驛の少し北手から、レールを越えて、細い道をだら／＼上る。上手の森の上に尖塔が見える。あの寺の庭を横ぎつて行けと教へられた。坂は急になつて木が茂つてゐる。丘の上には墓が澤山あり、天氣であれば見晴しはよいであらう。チャーチ、ヤードを通り抜けて妙な門を下りると、大きな建物が澤山ある。中に街道をはさんで、時の街の様だ。右手の校門から中へ入ると士官が銃器室で書類を調べてゐる。大使館の紹介状と名刺を出すと、校長の家を教へてくれた。門を出てその街道を半丁程行くと左手に校長の大きな家がある。紹介状を出すと今朝は先約があるから、番人に案内をさすとして手紙を取次が持つて来てくれた。それから又元の建物へかへつて、番人に案内を頼んだ。生徒が大勢出入してゐる。つばの廣い麥藁帽をかむつて、紺の上着に鼠色のチョッキとズボンを着いてゐる。

直ぐ下が大戰記念館になつてゐる。約七万ポンド費したといふが入口から階下は、半身像其の他色々のものがあつて非常に美しい。二階の中央は集會室、宴會場等に用ふるのであるが極めて古い時計、



ハ - ロ - 校 門

半身像パーマストンとかアバチン侯などの寫眞がある。皆本校の卒業生である。次の部屋は、アレキ、フイツチルームと言つて、大戰で死んだ同氏の母が寄附したもので、中央に、チウドル朝の机が簡単に三間程の長さであり古い椅子には一六三〇年と彫りつけてある。床板はジョージ三世時代の軍艦の舷板で、壁板はエリザベス朝のものであるといふ。正面には、アレキ、フイツチの寫眞が掲げられ、窓もステインドグラスである。

元來た室をぬけると、一方は、先生集會室でバイロンの寫眞などが掲げられ、氣持よい部屋である。總じて白木の與へる感じで淋しい、悲しさを催す建物である。本校卒業生が大戰で戦死したものの六百數十人あるといふ。

次に見に入つたのはスピーチ、ルーム、公堂で、半圓形に段々と椅子が後方へ高く段をなして、その椅子には卒業生の名が刻んである。正面は壇で、毎週月曜の朝校長が此處に立つて一週間の注意を與へるのである。周圍には十八本の旗がかゝげられてある。之は本校卒業生がクリミヤとかの大戦に従事して、ピクトリア勳章をとつた數と其他の旗が掲げられてある譯である。之れを非常に名譽としてゐるらしい。こゝで名士の演説もあり、活動寫眞もあり、校歌の合唱もある。來週の水曜に、ラヂオの器械を据へて遠方の誰にも聞ける様にすることである。

スクールチャペル、禮拜堂に行く。パイオルガンもあり、相當大きな教會である。正面には



聖壇美しく、金色の鷲の聖書台、向つて左の演壇はアフガニスタンで戦死した本校卒業生の記念である。右に校長席があり、後に婦人のチャペルがある。

下へ降ると地下室の禮拜堂がある。之は水曜の朝聖餐式をする所で四五十人位這入られる。こゝに戦死者をまつり、その寫眞と略歴が書いてある、悲惨なことである。

それから元の番人のゐた、古い大きな建物へかへる。この校庭で毎週火木土の午後六時に全生徒が門から庭の中央に「字形」にマークを入れてある上を通つて建物入口の階段の上に立つてゐる教師に点呼せられるのであるといふ、澤山時間がかかるかといふと十分もかゝらないといふ。

このひろくない庭の北の垣にもたれて、眞下を見ると、半畝にも足りない細長い畑に草が茂つてゐる。昔學生が議論をして結末がつかないと、こゝでなぐり合ひ、おしまいにした所だといふ。手工館、其他が丘の下に見える。丘のあちらに飛行機が六台とんでゐる。丘の下の家が野の中に点々と見える。

天氣がよいと北の方十二三哩の處にイートンの學校やウキンズル宮のある所が分るのだがといふ。

その次に一番古い建物を観る。ジョン、ライオンといふ人が創立したので、その古い教室へ入る。二十五六坪の細長い室の正面に粗末な校長の机がある。これに一年三十ポンドの俸給の校長が

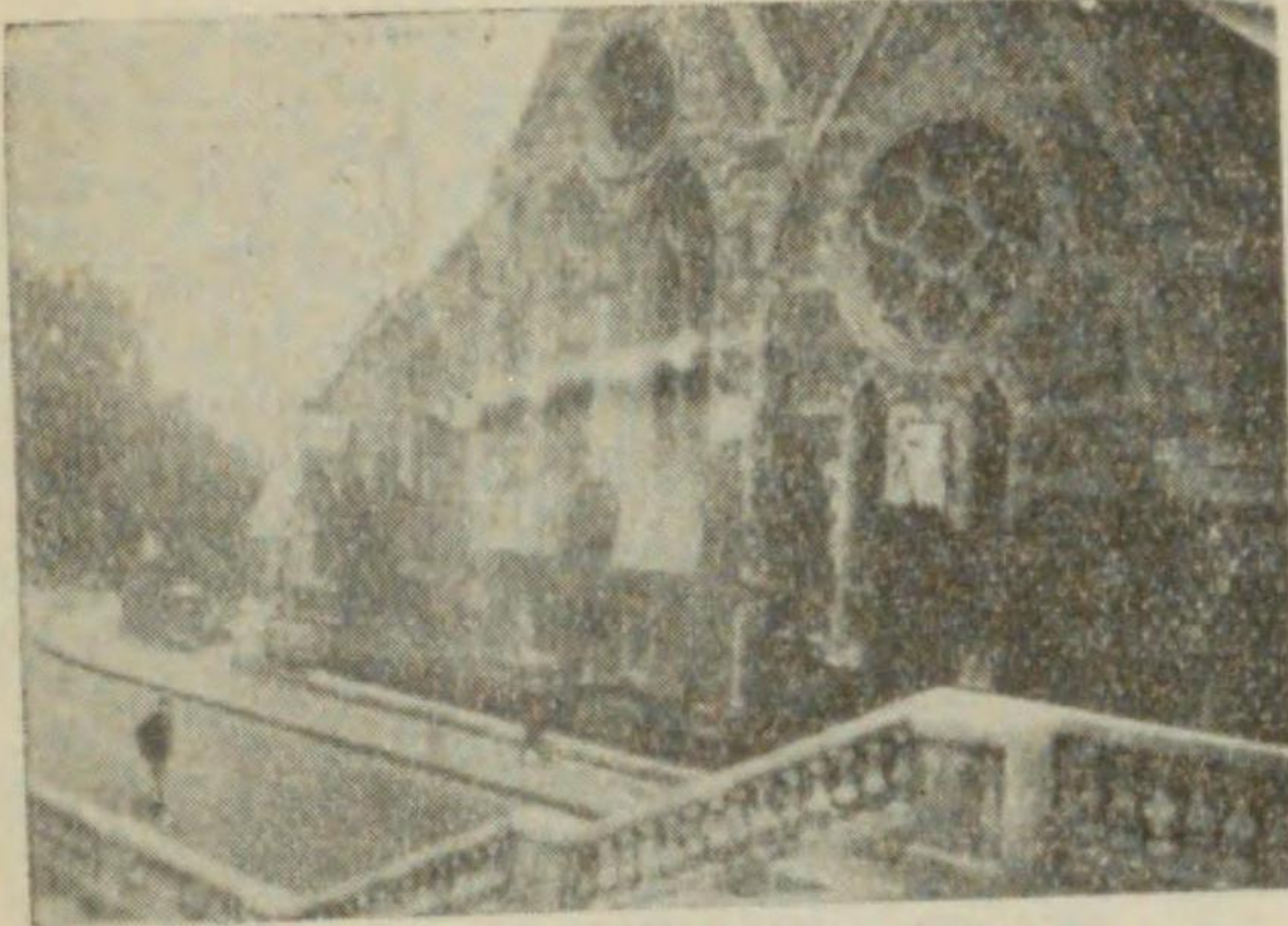
腰をかけ横の馬槽の台みた様なところに補助先生が座つたのだといふ。校長席を正面にして左右に二三列長い分厚の腰掛がある。昔は之に四十人の生徒がこしをかけて、石盤で學んだそうで此の一式しかなかつたのであるといふ。

四方の壁板は天井まで高く、それには卒業生の名前が刻みつけてあるが、生徒自身にほつたので隙間もない。正面には、總理になつたサー、ロバート、ピールのがあり左手には、バイロンのがある。チャーチル、パーシビル、パーマストンなどのも刻んである。古色蒼然、ロシアの牢屋みた様である。然しこゝで大英國の偉人を育ましたのである。この學校を一名

大臣の學校といふ丈あつて随分國家の功勞者を出してゐる。それから今朝は校長は先約があるといつたから、私の名刺に住所をかい一度面會を許してくれ、出来れば今朝數分間御目にかゝれないかと云ふてやると、十一時半に遇ふといふので、案内の男に一クラウン呉れてやつて、校長の宅へ行き室へ入る。

廣い室である、やがて校長は出て來た。背の高い、眼光も鋭く、寡言な人である。

私は例によつて、本校では如何にして生徒の人格養成をするかを



ハ - ロ - 學校寺院



きくと次の通りであつた。

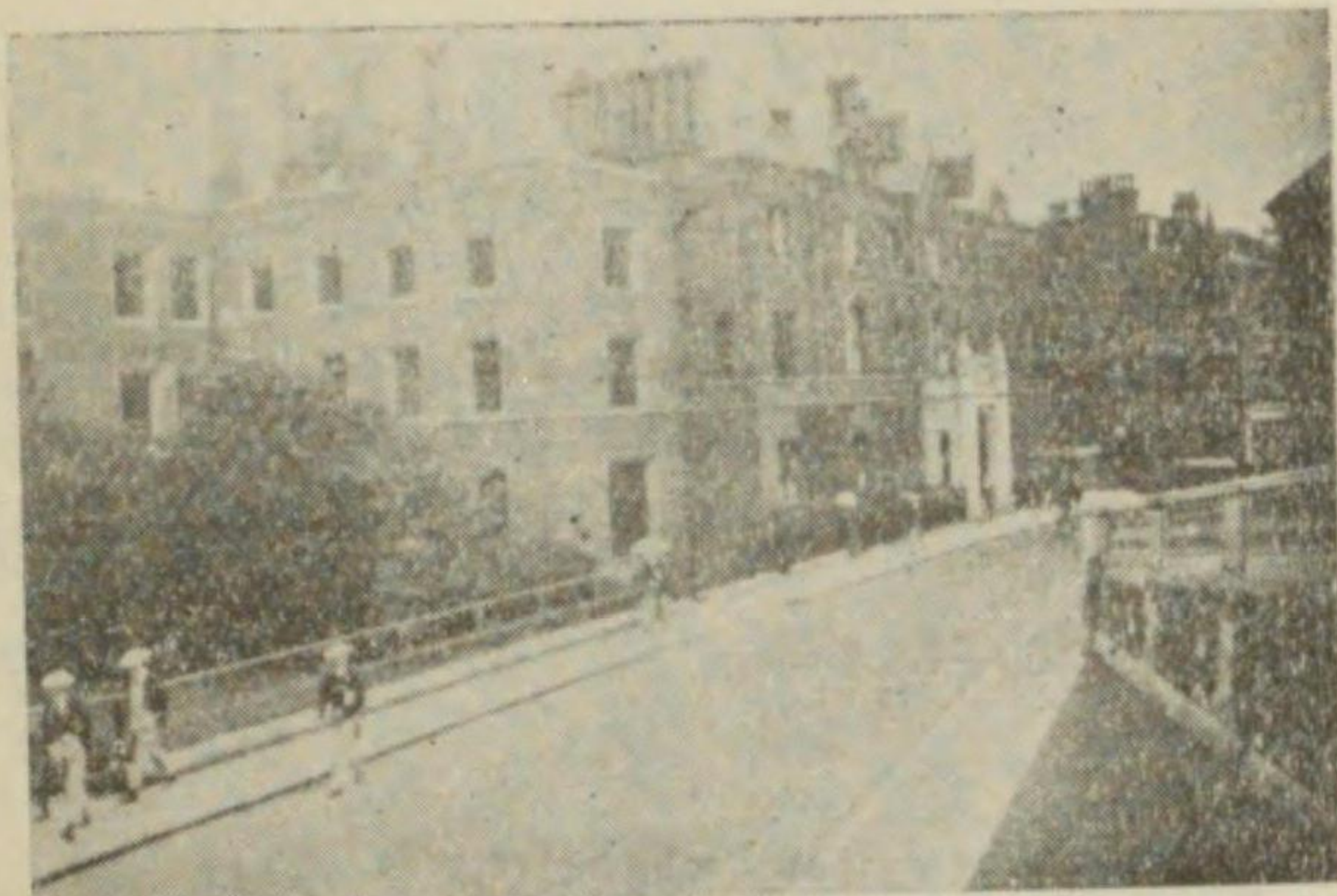
- 一、生徒の自治による制度、互に役員として統御する。
- 二、ハウス制の秩序によること。
- 三、ゲームによつて人格を作る。
- 四、年少のものは絶対服従を要すること。
- 五、年長のものは全く責任があること。
- 六、チャペルの禮拜が非常なる感化を與へること。
- 七、軍事訓練は市民の義務の一部として課し仲々有効なること。斯く教授以外に最も有益なる精神修養の機關がある、といふ項目文をぼつりく」と話した。

次に、この様な私立學校の將來に就てどう考へますか、と發問すると、大戰後大きな實業家の子供や、衆議員の子供も來るといつたから、いや、近時の思想として中流并に中流以上の子供丈を集めて教育するに就て格別の御意見はありませんかと尋ねると、

それは随分複雑な問題で普通の小學校で教へてゐない科目がこゝの入學試験課目にあつたりするので、一寸ギヤツプがあつて困る、といふ。然し一般からそねみとか反對はありませんかと尋ねると只今の處大した反對もありません。本校では随分高い學資金が要るから普通の家庭から來られない

のは氣の毒ですと答へた。

私は、貴殿であるから申すが、實は私は先日來、ロンドン市の小學校を澤山見ましたが、どうも設備等が甚だ貧弱で日本の山間か海濱の小學校にも及ばない。私は決して自慢で申すのでありませんが日本の市町村の歳出の七八割は教育費です。大きな建物は必ず學校です。ロンドン市の小學校にピアノのまついのが一つしかありませんが日本の田舎の小學校でも二つ三つのオルガンはあります。然もこゝでピアノは安く日本の樂器は高いのです。勿論日本の



ハ - ロ - 校長の住宅

道路は當地に比べものにならない位悪いのです。然しこちらの學校の理科器具、黑板、書籍等實に貧弱ではありませんか。之は私の考へは、英國の中流以上の家庭は市町村立の學校へ子弟をやらぬ。家庭で教へたり又私立の學校へやつたりするから私立の學校は益々榮え又善い卒業生を出し立派になつていく計りであるが、どうも公立の學校は顧みられないで、次第に後れていくのではないかと思ひます。日本の制度では一般の市町村立小學校、中等學校などは公の經費であるから非常に發達してゐます。設備も何も相當によろしい。然しそれにあきたらないで、或は又それと競争といふか、特に



其れ以外に主義を持つた學校が私立として、新に顯れ出したのですと遠慮し乍らいふと、成程ですね、英國の田舎の小學校はまだ見られないです。又ロンドンにも新に建つたものには宜いのがありますがと答へた。

數分間の約束であつたので土産をあげて、ハーロー校の學校のことを書いてある本を買ひたいといふと校長自身近處の本屋へつれて行つて主人に斯々の本をといひつけて来て此處で握手して別れた。私は今日一日は、ハーローの學校附近でぶら／＼して此處の空氣を染々と味ひたいと思つたが、曇つた空からは相變らず、雨がぼち／＼降り出したので、丘の上の寺の寫眞を寫して、元來た道を驛へ出て、下宿へ歸り此の記事をかいた。

#### 本校概況

本校は一五七一年、エリザベス女王が、當村の住人、ジョン、ライオン氏にハーロー丘に私立格蘭マースクール設立を許可された。こゝは、イートンなど異り國家の元勳者よりの寄附もなくたゞ、管理者、教師、卒業生、父兄、校友などが十九世紀頃より大に寄附された同情の結合によつて現在の名をかち得るに至つたのである。

ジョン、ライオン氏はこの村の紳士で、ブレストンに住み、彼の家には二三百年来廣大な土地があつた。彼は學校をハーロー丘に建てようと決心し、彼のモットー、*Do orum Dei Dispensato*

*Fidelis* の主義に従つたのである。學校設立の爲、彼は彼の近處の土地は學校の經費に當てようとし、ロンドンに近い處の土地は、ロンドンとハーロー間の完全なる道路開拓に當てようとした。

然るに、後者の土地價格が上つて、ロンドン目抜の通りである、「オクスホード街はハーローの金貨で堅めた」といふ諺も出来る位になつた。彼は一五九二年に、妻は一六〇八年に死せることは丘の上の寺の戸に刻んである通りである。その時から現在の古校舎が建て初められたのである。

教育はクラククス丈と設立者は言ひのこした。ライオン氏は又、學校は一年中朝の六時に初めなければならぬといふ掟を残したから、昔は小使が、毎朝ハウス毎に生徒を起しにまはつたが近頃は手加減が柔になつて冬は、朝飯前の授業はない。開校當時より弓を大にやらして居つたが、ロンドンより見物が大勢に來るので遂に中止するに至つた。

校長は「嘘言をいふな」をモットーにして「眞直な矢を射よ」といふことを厳しくいふ。代々校長が變つて、ジョンージ、バトラーは新なる學校のモットー「*Stet Fortuna Domus*」を制定した。

こゝから出て後に總理大臣になつた者は、パーシビル、ゴデリツチ、ピール、アバヂーン、パーマストン等で他に二人は總理大臣になるのを拒んだ。大体イートン學校はトリー派の子弟が多く本校はホイグ黨の子弟が多かつたのである。

校長としては、バトラー氏が永く勤め、其子、バトラー博士もよくつとめた。現在の校長は、シ



レル、ノアウツド博士である。本校の建物中、バトラー博物館、音楽堂、サナトリウム、は學校の基金で作成、他の建築とか四百英加の土地の購入は卒業生、校友などの寄附で出来たのである。こゝでは、紀念物が環境を造るのであつて、どの建物も、どの獎學金も、どの野原も紀念にならぬものはない。

圖書館はバガム氏の紀念であり、チャペルのどの部も紀念物であり、オルガン然り、科學實驗室然り、体操室、工作物室等も本校創立三百年祭の時、ライオン氏紀念基金より支出して作つた紀念のである。

圖書館はトムソン氏が建築及設備を寄附した。フットボール場は、バトラー氏を紀念してゐる。クリケット場も然り。又創立者の意志により貧民傳道の爲の基金がある。現在四十五萬圓の額に達してゐる。

職員四十人、生徒約六百三十人、

大ハウスは十一ある、(四十人位宛寄宿する)

校長方には六十人位

小ハウス、十二三人宛、

授業料は一年九〇ポンド(九百圓)

寄宿費 一二〇ポンド(一二〇〇圓)

小ハウスにては合計 二二五ポンド

ハーロー、ソング、開校以來の唱歌がある。

卒業生の會にはよくうたふ。

學校の祭、七月のスピーチデー。

創立者記念日。

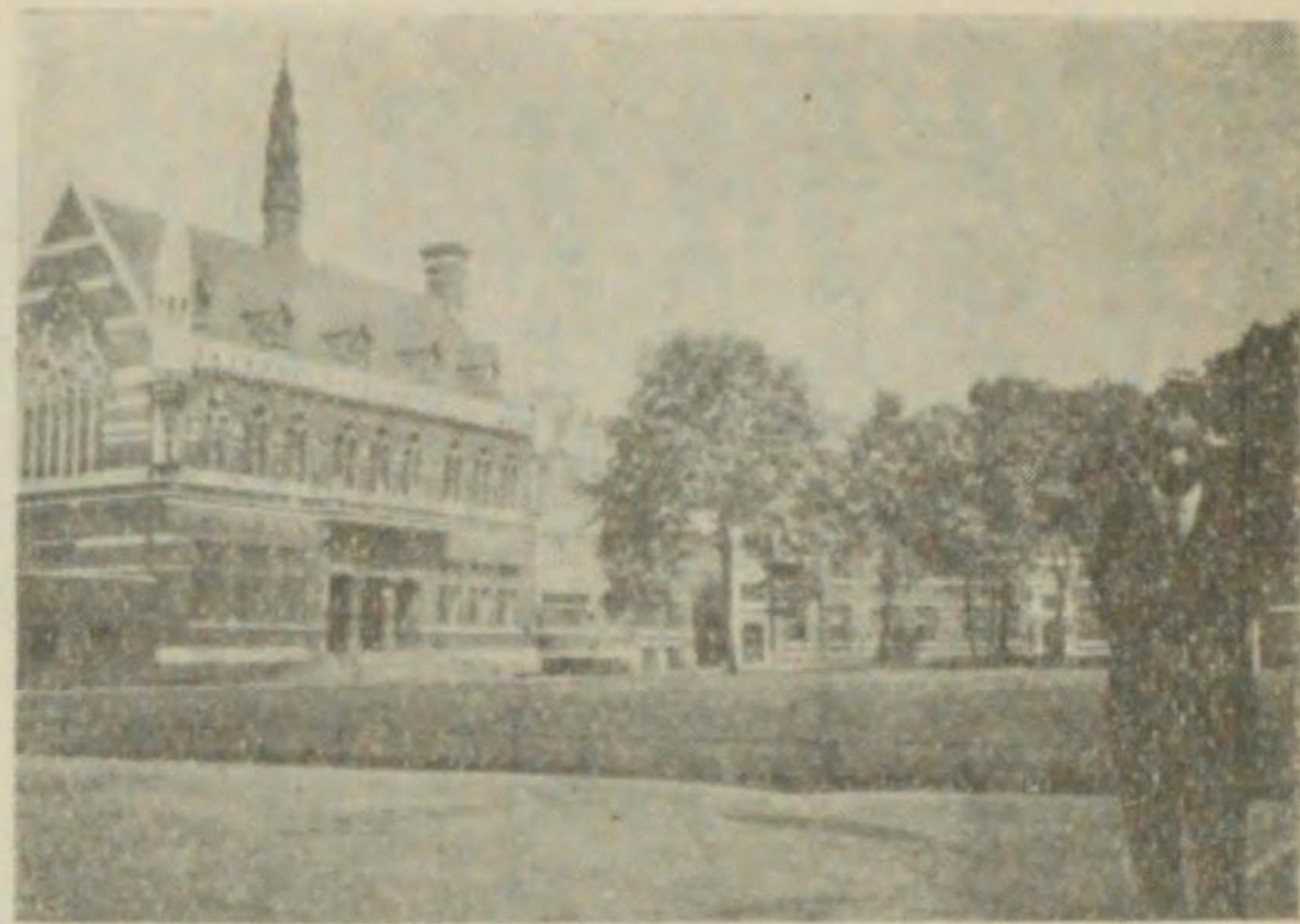
## マーチャント・テイラー學校

六月二十二日

地下線にて、チアターハウスへ行き、マーチャントテイラー學校へゆく。古い大きな公堂其の他凡ての建物が寺の様にそびえてゐる。一生徒が近處の校長の宅へつれていつて呉れた。校長リソン氏は朴訥で少し吃音ではあるが親切である。

色々話したが、本校には責任を重んずること、勤勉であること、精神を確固とせしめることに力をそそぎたい。校訓は「神は殖し給ふ」といふので、此の學校を設立した洋服商同志會は「一致すれ





マーチヤントテラー學校と校長

ば、少しのものも大になる」といふ主義を校訓として與へてゐるぞうだ。  
こゝは、そんなに金持の子弟ばかりではなく、中流或は以下の階級の子弟の爲に一五六一年開校したそうである。仲々古い由緒のある學校である。

校長の案内で校舎を見る。中央は芝生で五六百坪あるが狭いので別に大分離れた所に十二英加の廣さのものを有してゐるぞうだ。先に入つた公堂は五十年前の建築であるが、仲々がつしりした建物である。下の圖書室には一間の高さの書棚が中二階と兩方に十八箇あるのが一目に見える。それに古い書物がぎつしりある。

一室教授を見ると、セキスピアの「マクベス」を臺本の通り講議してゐた。二階は大公堂で、天井裏を見せた建物で、演説には都合わるいが、堂々たるものである。こゝにも本校卒業生の戦死者の名前が立派な板に刻みつけて祀つてある。

それから横の新築理科室を見る。階段式で仲々廣い。大分金をかけてゐるらしい。本校へ入學は十歳より十一歳迄の者である。

入學試験は三月、六月、十一月。

毎年上級生には八つのスカラシップがある。

又卒業生には牛津劍橋大學への入學資格を與へる。本校は文科、現代科、數學科學科の三つに分けられてゐる。

文學科 神學、英語、ラテン、グreek、フレンチ、數學、科學、地、歴、圖畫。  
現代科 神學、英語、フレンチ、ドイツ、ラテン、數學、科學、歴、地、圖(簿記、速記も)

希望者に教へる)

數學科學科 本科にては大學及病院又は實業を目的とする者を收容す。

學科、神學、歴、英、ラテン、フレンチ、ドイツ、數學科學、(後の二者に全力をつくす)

上級を除く外体操を課す。

學校の朝會は午前九時十分、終業は午後三時四十分、水曜土曜は正午限りとす。

授業料 平均一年三百三十圓(但書籍文具品代は別とす)

入學料 五十二圓五十錢

教師の宅に生徒の希望者を止宿せしむ。

軍事訓練所があつて、軍隊と共に演習することがあり、運動場の一角に射撃場もある。



病氣缺席規則

- 一、生徒にして病氣の爲欠席したるときは全快して登校する第一日に病氣の性質等を記したる父兄よりの届書を校長に差出すべし。
- 二、四日間病氣欠席したる後は(日曜祭日もふくむ)病狀と登校差支なきことの醫師証明書を校醫の許に持参し、校醫の承諾を得て校庭に入るを要す。
- 三、生徒にして傳染的病氣にかゝるか、斯る所に出入したる際は直に校醫に届出づべし。
- 四、休暇後は學校より授業料請取と共に渡せし、用紙に休暇中少しも傳染病にかゝらず、又該病者の許に出入せざりし旨を記入して提出せざれば、登校することを得ず。

獎學金制度

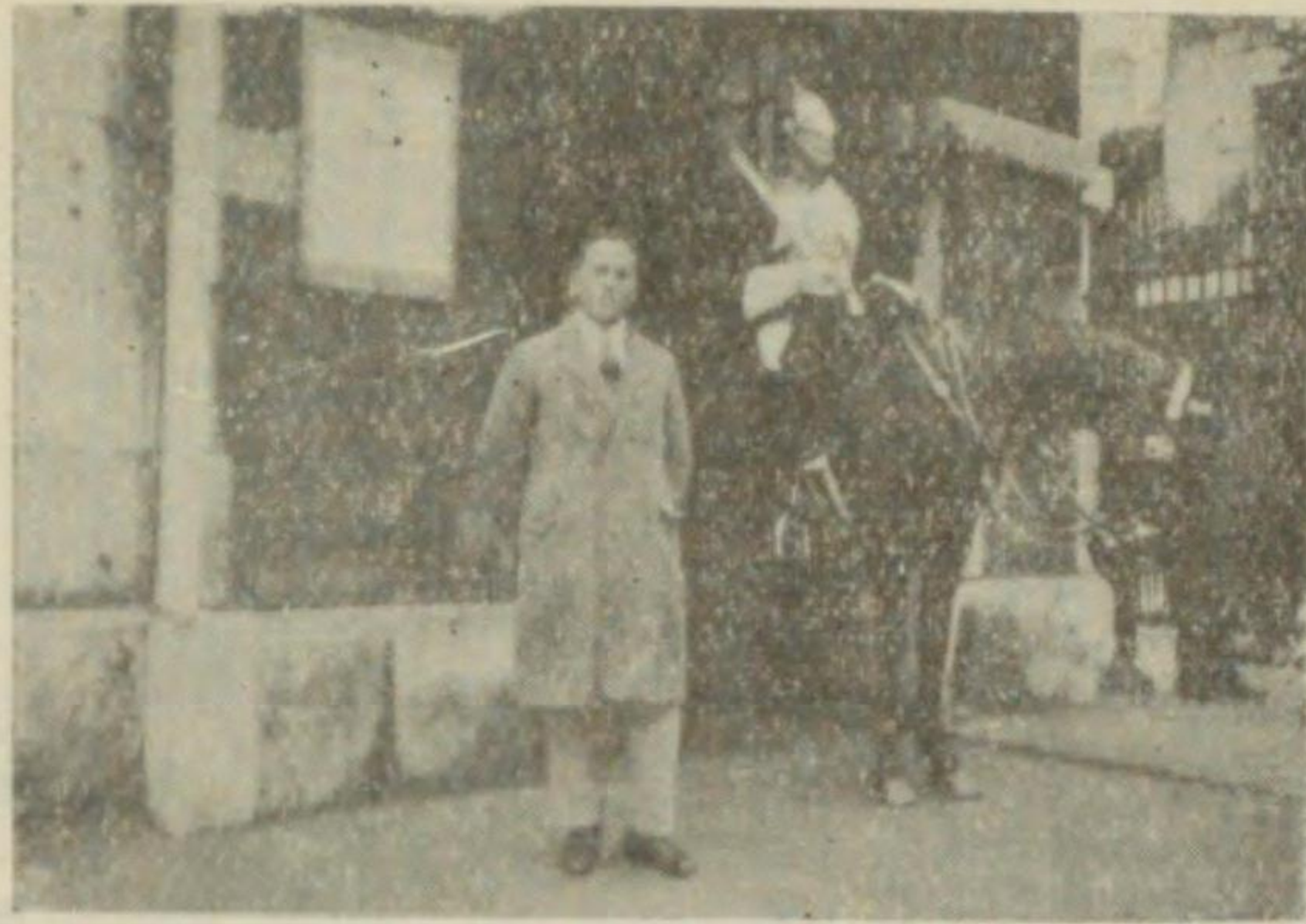
本校自身の財團より生徒に與へるものも澤山あるが、其他、數十件、校友、卒業生篤志家、本校教師、校長等より、種々の名目にて種々の場合に、各種の學科に於ける優秀者に對して與へられてある。一々それを書くとも一日かゝつても書ききれないから止める。實に羨しい。篤志家もかうすると立派な人物の養成が出来る。又その人の徳は永く敬慕出来る。日本には獎學金の制度が行はれない。大に此の例に従ふ必要がある。

本校入學試驗項目

年令	組	英語	數學	ラテン	フレンチ	ギリク又はサヤマン
10-11	第一		加減乗除 金錢重量 長さ	Va Latina 第一より二十迄	Denti 第一 フレンチ書 一より十二迄	ナシ
11-12	第二	凡てかん たんなる 方 書取 凡てかん たんなる 方 書取	Vulgar Fraction	new Latin Primer 41迄	同上十八迄 書取、讀方	ナシ
12-13	第三	方 書取 凡てかん たんなる 方 書取 凡てかん たんなる 方 書取	同上D及ecimal Fraction 初等代數と幾何な も課すことあり	同上55迄 練習41迄	同上三十迄 書取、讀方	ナシ
13-14	第四		損益、利子 割引 初等代數及幾何	同上127迄 練習50迄	同上五十一迄 口頭及筆記練習 讀方、書取	自由 ギリク又はサヤマン 文法23 第一 五章迄 讀方 及書取



校長の厚意を謝して今度はキヤムパーウエルのチャーレス、エドワード、ブルツクスクールを訪ふ。門から入り込むと普通の住宅の様である。これは市立でなく私立で市の補助をうけてゐるらしい。女校長コットン氏に會うて色々と話したが格別利益になる話もなくホールや理科室を案内してくれた。たゞ相当高價な名畫の複製を澤山各室にかゝけてあるのが自慢らしかった。生徒數も少く、校舎もせまい。



ホーレス・グ

こゝを辭して、ホワイトホールストリートの戦争記念館へゆく。第一に武器が澤山ある、戦利品は餘りない。聯隊旗がある。ネルソンとウエリントンのものが一番多い。ネルソンは戦死の前日の日曜迄航海日誌をかいてゐる。彼は左手であつたから、たれか彼に贈つた黄金のナイフの附いた、フォークを並べてあつた。ネルソンが妹の結婚の時に贈つた時計、信號旗帖、ミアチウア、寫眞などは美しい。所持品も澤山出てゐる。ネルソン戦死の時の新聞も三枚ならべてある。トラファルガルの戦の模型を見ると、ネルソンの船は先頭に立つてフランスの船に兩方から射撃せられてゐる。そのビクトリー號の檣の實物も陳列してある。弾痕が多い。ネルソンの葬式

の時の海軍旗もある。ウヲーターロー戦の模型、弓、矢、大砲、勳章兵器が夫々英國の戦を物語つてゐる。又一方にチャーレス一世が斷頭臺にたつた時の家の模型などもならべてある。何の意味か分らぬ。

土人の武器や太鼓も澤山ある。怖しいことである。いつ迄たつたら、戦争が止むことか。窓から目を放せば近衛騎兵隊の門衛が乗馬で金色の帽で劍を捧げてゐる。ゼネバでは口角泡を飛ばして、どうして他の國の軍備を減らして自國の軍備をそつと充實さそうかと權謀をめぐらしてゐる。まさしくと昔からのこの悲酸な人生の縮圖を見てまだ、さめない人間はあはれではないか。早く戦争といふものを根絶したいものである。

六月二十三日

午前中引籠つて書類の整理と翻譯をする。午後セルフリツヂへ行つて狀紙などを買ふ。オクスフォード、ストリートのバムパスの書店で「學校を出て」といふ新刊を買ふ。之は前ロンドン市長が少年少女の爲に書いたのであるが、中に、英國教育の理想がうかゞはれる節が多いので、今朝新刊紹介で見たから買ひに行つたのである。市中到る處にある安料理屋のライオンで一寸茶を飲む。パン二切と茶とで晝飯にしたのである。夕方此の書物をよむ。



夕食後、皆、シツチングルームで話がはずみ、ドイツの娘がドイツの學校の話をするやら、デーといふ、電信會社へ通勤の青年の話、日本の話、ペルウ人の話などあつて、ゲームになり、指相撲や、床板の一枚の上からの落とし合ひなどがあつて、大笑をする。英國へ来て初めて大聲に笑ふ。いつも九時半頃に茶が出る。夕食には、ビールの小瓶を一本宛つけてくれる。それを佐々川君と分けて飲む。

倫敦の視察も大方すみかけた。大分様子が分つて地下線なども利用出来る様になつた。

六月二十四日

今日は加輪上君に案内してもらつて、劍橋へゆく日であるが、雨がひどい。電話帖を調べても分らない。用意して、朝食の卓につくと、同君から電報が来て止めようといふ。恰度幸である。こんな日に行つても仕方がない。配達夫は返電があれば持つて行くと待つてゐる。此れは便利である。朝刊を見ると、昨日、リゼント、ストリートの新裝竣功祝にキングとクインが行列で通過になり、ロンドン大學の女學部の記念式に行啓なつて「本校は女子教育の大學のバイオニアとして盡した。今後共女子の大學を大に發展せしめて、女子が最高の學理を研究するに努力せねばならん」と演説せられた。常には、キングの演説中は拍手の出来ない慣例であつたが、昨日は途中で二回も

拍手が破れる様に起つたといふ。それもその筈、先日来、牛津大學では近時女子が大學へ大勢入つて来て次第に男子の定員に差支へてくるので、女子の大學入學數を制限しようといふ案が可決なつて、新聞にも色々反對意見が出たりした矢先であるから、陛下の御主旨は婦人連には鬼の首をとつた様に嬉しかつたのであらう。此の問題も漸次、英國計りでなく世界的の問題となるであらう。大雨で仕方がないので記録の整理をしてゐると主婦は不在であるのに女中が、室へバタ附のパンを三切と、トマトとチースの大切れとコーヒーを持つて来てくれた。初め来た時チップをやつた効能ではあるが、それは三週間以前で時効にかゝつたのであらうと思つて、又一フロリンやつたら喜んでゐた。此の女中は時間をきめて來るので一時間一志(五十錢)であるそらだ。

午後天氣になつたので地下線で、ライムストリートの三井へ行き四ポンド信用狀で拂出してもらふ。五分間もかゝらぬ。初めシンガポールで二時間も待たされたのと大ちがひである。

それから本屋にロンドンの畫帖があるので百部丈日本へ送つてもらふことにする。郵税を全部向ふに拂はそうとしたが押問答の末八志文は承諾してくれた。それから、ヒストリカル、モニウメントへ上る。燈臺の如く町の中に立つてゐるのを三片拂つて上るのに足は疲れた。上つて見ると仲々高い。直ぐ下に、ロンドン、ブリツヂがあつて濁つた水が流れてゐる。兩側は倉庫でガントリ、クレーンが川の兩側に幾十とあつて貨物が船から直ぐ倉庫へつみこまれる。倉庫の上部にも、起重機



があつて便利である。成程これではなければならん。

然し倉庫も船も樂なものである、居ながらにして何階目からでも船のハッチの中へ貨物を吞吐するのである。人を馬鹿にしてゐる。此の邊には大きな汽船が見え、ロンドンの塔橋が見えるがこゝから見ると低い。あれで仲々高いのである。ロンドン塔も青葉の中に見える。川下の左右は工場で煙が澤山出てゐる。ずつと遠く南西は丘になつて、キウガーデンの植物館らしいの見える。

川上の方には議會とウエストミンスター寺、近くは、キャノストリートの驛の大屋根と、セントポールのドーム、英蘭銀行の屋根が見える。北西の方遙に小高いのは、ハムステッドであらうか。東の方も工場や色々の建築がある。

人間の裾は足許が汚いものだが、ロンドンの建築は上から見ると實に汚い。一軒の建物に煙突が幾十と出てゐる。着物を干してある。高く低くがさ／＼して、嫌になる。此れでも街路を通つてゐて見上げると前面は立派に裝飾して、大理石張りやら彫刻で美しいのだが、扱上から見ると、貧民窟の様だ。まさか此んな高いものを建て、見下されるとは思はなかつたであらう。



英國國會議事堂

う。今後百年の建築をする者はちつと、家のてつぺんの仕末をよくすることだ。これでは飛行家もろんざりする事だらう。

それから當市第一の古本屋フライリーへ行く。度々行くので店員も知つてゐる。何階もあつて各科の書物が何千冊といふ程ある。そして女店員がついてゐて書名を言へば直ぐ出してくれる。地下室の部などへ行つて書物を見てゐても誰も來ぬ。此の様な處へ萬引が來ないのを知つてゐるのか、信用したものである。その横の部屋に八尺位の高さの書棚にぎつしり七八間の長さに於てコンミニズムの古本がある。私は日本に於て共産主義の本を一冊さへ見たこともないのにこれは又何千冊といふので而もそれが古本である。全く驚いてしまつた。如何にもロンドンはいらい處じやと感心してしまふ。この店で買ひたい書物を十五冊選び出したが安くはない。明日送つてくれる様に五ポンド札の新しいのを出すと、宛名を裏へかいてくれといふ。英國の札には算用數字や心覺などがよくかいてある。日本人と紙幣に對する考が違ふ。日本人は札を大切にすべきに折つて紙入に入れる。西洋人は皺くやちにしてポケットに捻ぢ込んだり、粗末にする。その癖札を粗末にせぬ日本人が貧乏で、西洋人には罰の當りが少いのは變だ。

今日は又金を澤山費つたので腹が減つたが、急いで歸つて主婦に前拂で下宿料を拂ふ。初め拂つた時、一週二ポンド十五志であつたので、チップ一割のつもりで、つり錢をくれたがまあ宜しい



と呉れてやつたが、下宿ではチップはなくてもよいと同宿の人がいふのでやらぬ積りにしてゐた所、三ポンド Received with many thanks. と書いて、早やお先に頂いて御座る。仕方がない。安い宿だからよいわいと思ふ。そのかはり食事の時は私丈よいナプキンをくれ食事は私に一番にくれる。名譽税にしても安いものだが、名譽にもならぬ。

## 牛津大學

六月二十五日

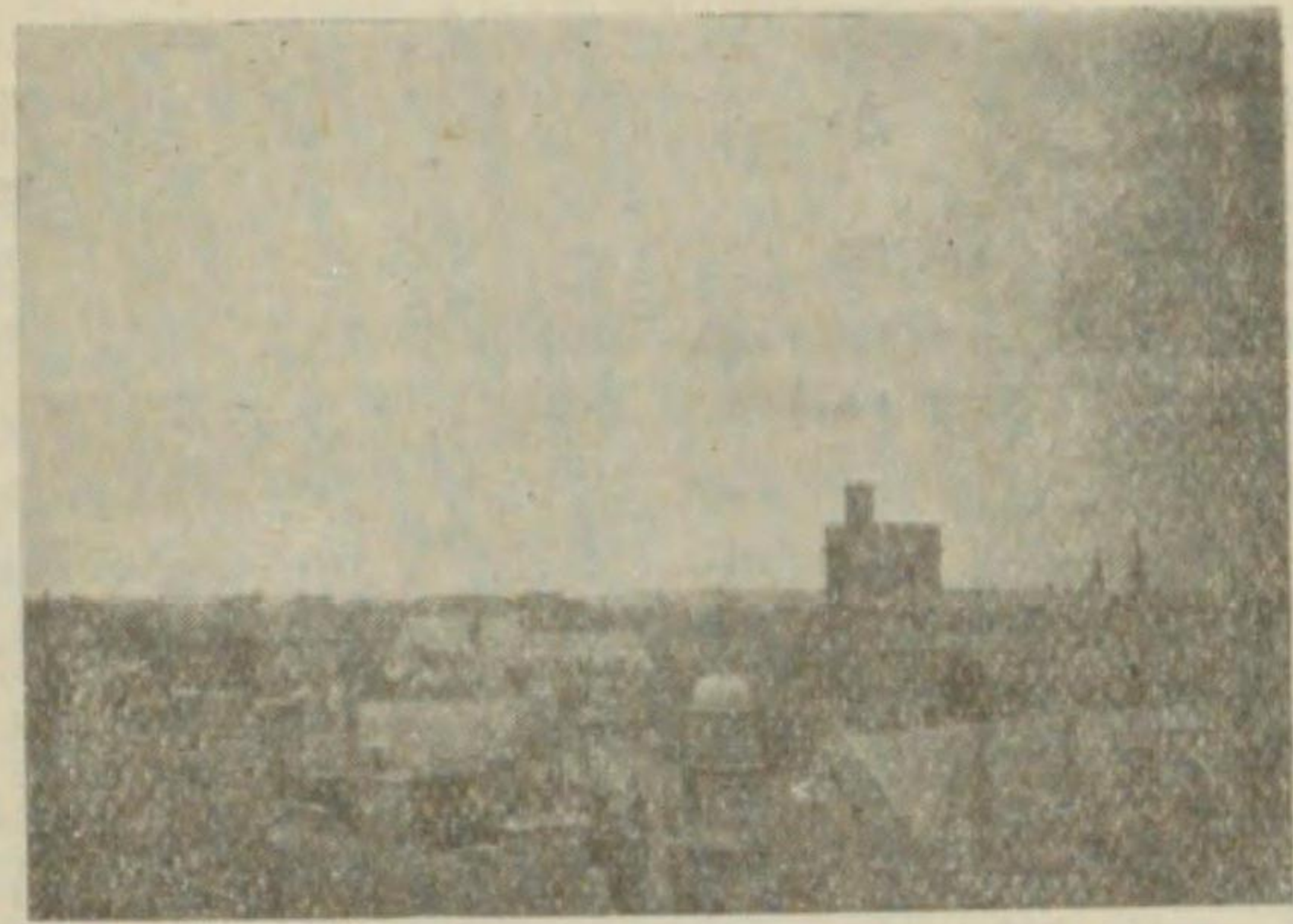
今日は牛津見物のつもりで、パチントンの驛へ行つた。往復の三等切符は十五志である。ウィーク、エンドは安いのでないかと尋ねると「君はあちらで泊つて明日歸るか」と聞くから「否今日歸る」といふと、それなら通常の日と變りはないと答へる。後で考へると、これなら、いつそあちらで一泊する位の金が餘つて差引同じだから往復にして一泊したらよかつたと思つたが、扱行つて見ると一泊するにも及ばないと後で思つた。第三プラットへ行くと同時に汽車が出た、情なかつた。徐行しかけてゐたから日本なら充分乗れたのだが、勝手が分らんので、馬鹿らしい事をした。何でもない事だがこんなことが異國に旅をしてゐる者に非常な不愉快を與へる。其一日がスポイルせられ

た様な氣になる。ウィークエンドで値段は安いと思つたしみつたれた豫算は外れ、汽車は乗遅れになるし嫌な日だ。一時間半待たねばならん。

それから、スタンドで、牛津案内を二志で買つて讀む。これで一汽車後れたのは幸であつた。この豫備智識が充分な参考資料を興へたのであるから。十一時十五分發車、八人乗の箱には自分一人である。極めて呑氣に煙草を喫んだり詩をつくつたりする。兩側は平原でどこも同じ景色である。

折々牧場があり、生垣で境した芝草の廣い地面と、工場が所々にあつたり、麥畑に赤いけしの花が咲いてゐる位である。

一時前につく。圖面によつて驛から東へ行つてクライスト、チャーチを見る。仲々大きな古い建物で中央の芝生の中に池がある。チャペルの上り段の構造など一寸よい。外に澤山の見物人がぞろ／＼行く。これから裏へ出て道を誤つて川端の森の中を行く。仲々本街道へ出られぬ。然し御蔭で牛津大學の船を澤山おいてある所に出た。この船は十數艘つないであつて、中にはテーブルをおいて、社交室の様にしてあるものもある。これでポート遊びを見たり茶を飲んだりするのであらう。川幅は十間位の堀といつてもよい位である。



牛津市街



川に添うて大きな木の下をゆく。静である。幽邃の感がある。こゝから街の方を見ると、大學の尖塔が牧場をへだてて見える。牧場には馬が草を食つてゐる。遂に東の方の、モウダレン、カレッジに出た。塔が立派である。チャペルの正面には澤山の彫刻がある。ステインドグラスは非常に美しい。「最後の審判の日」の繪である、構内は静かなものである。秩父宮殿下が御在學になつた所である。その御部屋もある。こゝを出てオール、ソール、チャーチへ行く。一人の子供が居て入口を教へてくれる。こゝにも仲々よい彫刻がある。今日は土曜である。精が、又は休暇になりかけてゐるか、学生は見えない。

次に、圓形の圖書館の建物へ行く。こゝで二片と屋根へ上るのに二片拂つて、見渡すとこの牛津は眼下にある。

東には、オール、ソール、カレッジ。クイーンズ、カレッジ。モントゴメリー、カレッジ。ユニバーシティ、カレッジ。南にはセント、メリー、ザ、バージン、チャーチ。トムタアー、クライスト、チャーチ。タウンホール、マートンカレッジがあり、西には、リンコン、カレッジ。ウエズレー、メモリアル。ジーサス、カレッジ。エキスターカレッジ。ツリニチー、カレッジ等があり、北にはマンズフィールド、カレッジ。マンチエスターカレッジ。ワダムカレッジ。ボドリアン、ライブラリー。タアー、ミウジウム。ケベルカレッジ。シエリヂアン、シアター等が指呼出来、西北の街外れに丘が長く盛り上

つてゐる。然し大きな街ではない。

それから私は、ぶら／＼と、寫眞を寫したり、構内へ行つたりした。ペリオルカレッジの中には、チャペルで集會が終つた時である。ガウンをつけた學生が數人出て來た。芝生で菓子を食つてゐるもの、ベンチで話してゐる者もある。

一体牛津に於ける私の感じは、寺町の感である。カレッジといふが立派なチャペルがあつて、それに四角形四字形に二階建の古い建築が附いてゐる。日本の大學とか専門學校などの考へとはすつかり違ふ。初めの一時間程私は何の氣もなしに、牛津の大學はあちらにあつて此處は寺丈だと早合点したのである。所が、その寺院に引ついてゐる、陰氣な古びた僧院の様なのが、カレッジであり、大學であるのだ。日本では専門學校はおろか、一つの縣立の中等學校を一つ視察するのも構内が廣く、建物も多く、疲れるのであるがこゝのは、こじんまりとして、そう大した建物ではない。

無論、年代の古いこと、部分的に建築上非常に参考になる所の多いのは勿論だが、こゝの大學は、昔から、この土地にいはれた通り法衣の街であつたのであつて、寺町と僧院との大學街とでもいふべきであらうか。無論今日は學生のゐない日で眞に此の土地の味は分らないけれども、數百年の昔から、寺と學校が一緒にあり、代々の英國の立派な人々を出した丈あつて英國教育の中心地には違ひない。古い時代おくれの寺小屋へ行つた様な感じのする所で、彼等の傳統がエンバイロメン







其他女子の、カレジとして、左記のものがある、

レデー、マガレット、ホール

ソマービル、カレジ

セント、ヒヴス、カレジ

セント、ヒルダス、ホール

七百年の昔から、寺と學校と市民との争闘が絶え間なかつたにせよ、學問と文化の根は次第に堅く張つて英國今日の大文明の源流をなしたこの牛津は實に深い感激なしには去れない。私は色々の空想にふけりながら、雨の中を去り行く汽車の窓から、川と木と尖頭と森と丘とを見送つた。下宿の晩飯におそいので、フィンチエリロードで二志の定食を食ふ。となりの中年の婦人が何角と世話をやいてくれて、私はヨウカンが好きだといふ。京都に友達があるらしい。少し寒氣を覺えたので急いで歸つて茶をのんでゐる。大分疲れた様だ。

六月二十六日

昨日歸りの汽車の中で風をひいたらしい、頭がじか／＼する。冬服を着て、レインコートを着て此の六月の末に風をひいてはたまらない。新聞にも今年、市内の樹木が例年になく美しく緑であ

る、これは五月六月が寒かつたから毛虫を殺したからであるとかいてある。ねてゐると、ベルウの學生が、朝飯を小机にのせ三階迄持つて来てくれた。そして直ぐ後に來て月末迄ニポンドかしてくれまいかといふ。仕方ないから貸してやつた。

じつとねる。ねてゐるとよい。午食は、林檎とバナナとネーブルを食べる。

夕方になつて無理に起き郵便局へ行き、一寸ある。虹が出た。又雨だ。降つたり止んだりする。氣がくしやく／＼して仕方がない神經衰弱になりかけたのかしらん。夕飯は下の臺處で食べる。

食後ドイツの娘が歸つて來る。主婦と色々話をする。つい話はカイゼルや、ヒンデンブルグのことになる。「戦争の時に此邊へもドイツの飛行機が來ましたか」と聞く、主婦は妙な顔をした。

「英國のも行きましたか」など聞く。妙なハメになつた。先日主婦はあれが三十以上のドイツ人ならとてもここに泊めることは辛棒出來ませんが、あの娘はよい家の娘であるし、まだ十代だからといつて居た。主婦があちらへ行つた後で、ドイツは世界中が皆敵になつたから敗けたが、どんなにかして復讐をしないでおくものか、と中々氣焰を吐く。身の廻りもよくプラチナの時計、腕輪などをはめ、よい家の娘らしい。語學研究に來てゐるといふ。

スイスの學校で、フランスの娘伊太利其他北歐の娘がドイツの娘と味方になり一方アメリカの娘が英國の娘の味方になつて、同じ家に住み乍ら少しも話をしなかつた。そして學科の勉強のときに



なると誰も行かなかつたといふてゐる。ベルリンの立派なホテルでドイツの国歌を奏した時英國の學生が立たなかつたので口論の末大喧嘩になりましたといふ。いや仲々國際的敵愾心は猛烈であるわいと思つた。

六月二十七日

無理に起きて大使館へ行き、次に大英博物館内の圖書館へ行つて數ヶ月間の入場券をもらう。署名して、スイス、コテジの住所を書くと言記が「スイス、コテジ、僕は五十年前あしこに住んだ、善い處だつた、戀しいね」と話す。教育に關する書物をかり出して讀む。

大勢入場してゐる。仲々本が分り難い。著者の名前が分らんと、本の名前丈では都合わるい。つまりどんな面白そうな本があるかしらんと思ふて探すとさがしにくい。

この國技館の様な廣い圓形の室内には先日書いた様に大英國の文毫の名前を周圍にかいてある。皆不朽の名著を残した人である。その人々は

ワーヅワース	ギボン	ポープ
スイフト	アチソン	ロツク
ミルトン	ベーコン	シエクスピア

スペンサー	チンダル	カクストン
チョウサー	ブローニング	テニスン
マコウレー	カーライル	バイロン
スコット		

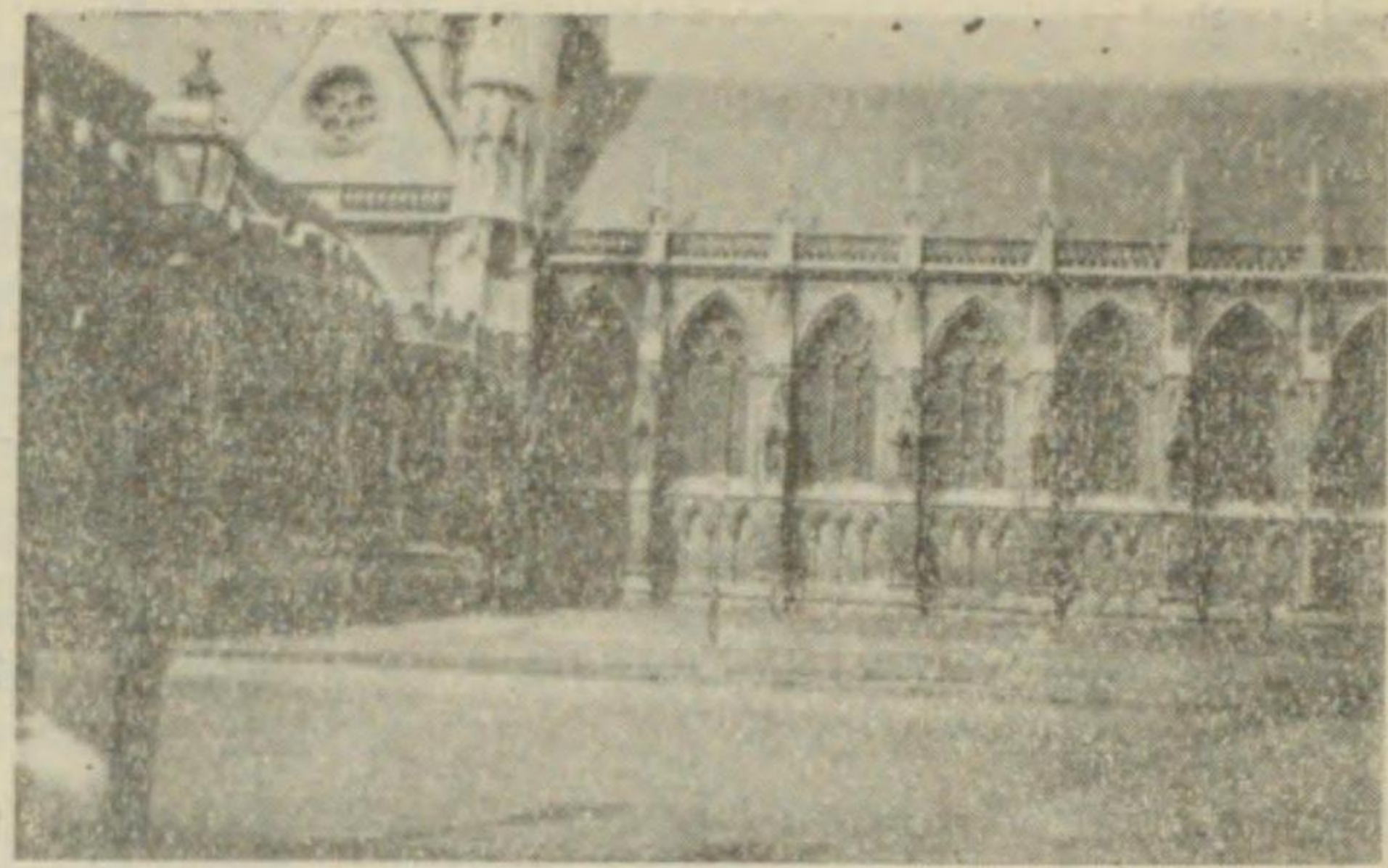
三時頃出てライオンで、晝飯を食ひ、フォイルの本屋へゆき、書庫を片つ端から調べて必要な本をかひ音樂の本を注文する。頭がくしゃく／＼するので活動寫眞にゆく。親切な奮闘的の爺さんが友人の遺兒の娘を育て、ゆく慈愛とユーモアに氣持よくなつた。出てから冬の毛ジャツを買ふ。歸つて書名を一々寫しとる。

### ケンブリツヂ見物

六月二十八日

今日は劍橋大學へ參觀にゆく豫定なので汽車に遅れまいと早く起きて地下で、リバプール、ストリートへ行き、直ぐ乗込む。十時五分發車。今日も八人乗の箱に一人限りで落付いて窓外の景色を見る。牛津へ行つたときよりも一層田舎らしく見えた。沿道には丘が多い。二十數間の長い温室





デツカレーニツ

を數百も經營してゐる所があつた。中には、トマトやキウリなどをつくつてゐるのが見えた。食卓に上るサラダの材料であらう。十二時前に着いたが生憎雨になつた。かまはず、レインコートの際をたてゝすたくと歩く。この町には牛津の様に澤山の尖頭がそびえず外見は立派でないかも知れん。人口も少くて大抵の人は牛津が好きだといふ。私も牛津大學が何となく善いと思つて居たが、劍橋は静かな点、人馬の通りの少くて大學の門前の街の物寂びてゐるのは仲々好かつた。先づ左手の角にロマンカソリツク、チャーチがある。この尖頭は此町で一番高いもので二百十六尺ある。中へ入つて見たが、ステンドグラスもよく内外の彫刻もみな善い。落付いた寺である。

これを左に折れて少し行くと、トランピントン、ロードへ行く。これが大學町の幹線である。そして、エンヂニアリングラバラトリを樹の間に見ながら進むと、フィッツウキリアム博物館の前に出る。

一寸ロンドンの大英博物館を小さくした様な形で、寫眞に寫したかつたがフィルムがない。前の

藥屋にいふと今直ぐとりよせるといふ。其の間に館内を見る。二階は重に繪である。陶器も少々ある。ペンワの「ピナスとキウピッド」は善いものである。ルーベンの作もある。階下にはエジプトのもの等種々の古器物がある。二階は採光がよいので氣持がよい。

これは百年前フィッツウキリアム伯が百萬圓の蒐集物と建築とを寄附し、次で近年ブツムレー氏が八十萬圓のものを寄附したり、又建築費を別に出した人があつて、漸次に大きくなつたのであるといふ。此所を出て藥屋へよつたがフィルムは大きすぎたから止めた。

ピーターカレッジは少し先の左手にあつて、十三世紀の建築も少し残つており、劍橋では一番古い大學である。面白い形の門を抜けて中へ入る。もう休暇になつて學生はゐない。これは、エリーのピシヨップ、バルシャム氏が十四人の學生を教育する爲に一二八一年に建てたのであるが、五年後氏が死亡するときに三百マークを残しておいたので、それを基にしてホールを建てたのである。今は仲々大きいよい學校である。この大學を建設した當時は、學生が勉強したり寝起する室と、食堂と、祈禱するチャペルがあればよかつたのであるが、近代になつてはそうゆかない。漸次増築が必要になつたのである。

それから、ペブロク大學へ行つた。古色蒼然として、こじんまりした大學である。こゝの古い方のチャペルは千三百五年に建つたのであるが、有名な、クリストファー、レンが又別に一棟建て、



ゐる。こゝには、詩人スベンサー、トマスグレイトもゐた。大宰相ピットもこゝで勉強し、カンタベリ大僧正ホイットギフトも本校の出身である。

然しこゝの、書記は急しいから、門番に案内してもらつてくれといつて、大使館の紹介状を素氣なく断つたので、むつとして出て来た。實は他にいくらでも見るべき大學が多いからである。本校は一三四年ペブ洛克伯夫人の設立したものであるといふ。それから、クリスチカレッジや、セントベネクトチャーチの前を通つて、セント、カザリンス、カレッジの新しい建物を見る。こゝの後にクインスカレッジがあるが畧して、ニユハムカレッジとセルウィンカレッジを瞥見してキングスカレッジに來る。こゝの門は仲々美麗な門である。

恰度、英國の田舎の爺さんと、ドイツの青年と三人づれで、チャペルへ入つた。天井のカーブが仲々美事で随分廣いものである。但ステンドグラスは餘りごた／＼してゐる。校庭の中央にあるキングヘンリー第六世の像は立派である。これは十九世紀に造られたものであるといふ。建物の後は小高くなつて、樹木茂り、牧場の様になつて實に廣々として善い。こゝは、イトン學校に格別關係が深く、イトンの生徒は此學校へ入學の優先權があつたのであるといふ。

此處のチャペルの、合唱は有名なもので、ロンドンから態々見に來る人もあるといふ。校庭も廣く建物もゆつたりとして立派な學校である。それから、セントメリーカレッジや、ユニバンチ、ライ

ブラリを見た。この圖書館も、大英博物館内の圖書館及牛津大學圖書館と同じく、大英國内の新刊書籍は必ず此處に一冊を納品する規則になつてゐるといふ。

シネタハウスといつて此處で劍橋の學生に學位を授與することになつてゐるのがある。劍橋の學生は一生に四度はこゝへ來れる。三度は只喝采と羨望する爲であつて一度は御本人、デグリーを頂戴の爲である。

次にツリニチーカレッジへ來る。これは初め一五四年ヘンリー王によつて建設せられたもので、こゝもキングスカレッジ以上に立派である。門を入ると廣い前庭には大きな噴水塔がある。恰度雨が降り出したので、大勢の婦人の團體と一緒にチャペルへ入る。オークのパネルは高くがつしりして天井は日本の寺の様に組格子で本願寺かなにかの様だ。非常に日本の寺の趣がある。椅子が七八百もある。學生はこゝで祈るのである。聖書臺の大きな聖書を見た。長い年月の間校長が此れを讀んだのである。恰度、ヨハネ傳を開けてあつた「キリストは自分の罪の爲ならず總ての人々の罪を負ひ給ふ」といふ聖句が出てゐた。この様な大きな寺では私は必ず祈る、日本と學院と吾知己友人の爲に。

こゝには大理石像が多い。マコーレー、テニソン、ベーコン、ニュートン、バローなどの像がある。皆此學校の關係者である。



これから食堂へ行く。ポーターが大勢の団体には見むきもせず私一人をひつばつて、此学校の卒業生の大きな油繪を見せる。百何十坪の食堂の天井裏を見る。がつしりした建物である。生徒の大きな食卓、長い厚い腰掛、正面に先生の白布のかゝつた食卓、右側は関係者の等身大の油繪、左側は代々の校長の大きな油繪である。この様な所に起臥するのであるから、人格的修養も出来るのである。二階の學生談話室なども見せてくれる。日本人黒澤といふ人の部屋もある。大勢寄宿してゐるのである。

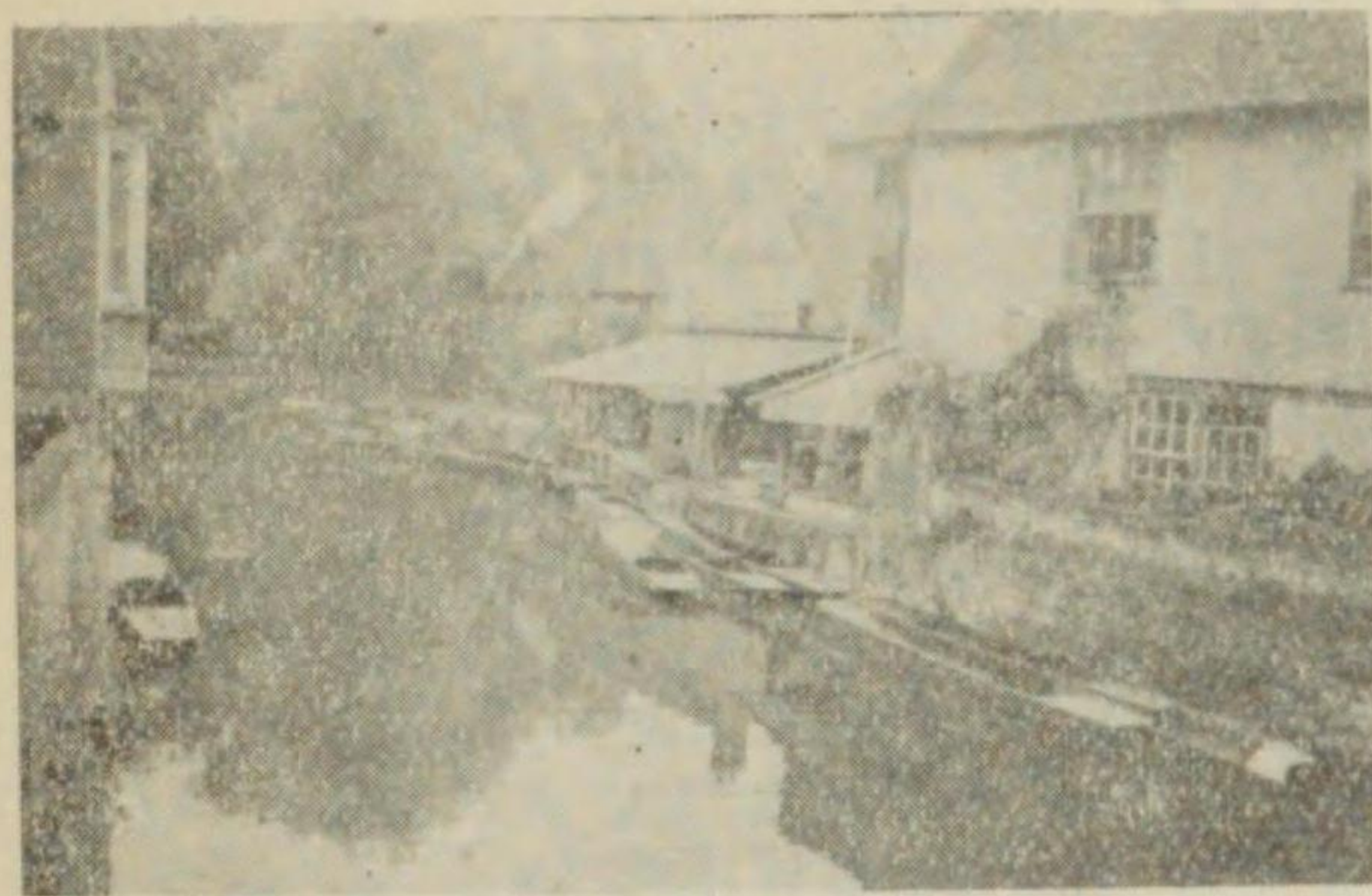
この臺所を見せてもらつたが、大きな寺の臺所と同様、巖丈なかまど、大きな板の料理臺、大きなやかん、何だか歴史的に古い、由緒のある所へ来たといふ感じがする。この臺所を見た丈でも英國の教育が語れると思ふ。高野山の本山の庫裡へ行つた様に、古い傳統と習慣と歴史と重厚と素朴との氣が搖曳して居る。

ポーターに一志やらうか、六片にしようかと、がま口の中で交互につまんだ後やつぱり六片にした。それでも有難がつて禮をいつた。こゝで寫眞を數枚とつて、遅々午飯をたべる。それから、圓形の寺を見て、とぼくと堀の橋を渡る。そここゝに古い劍橋がのぞく。川の横手の古い家と木立がよいので寫眞にとる。後で知つたが、こゝはフィツシヤース、レーンといつて古い所である。だらく坂を上る。古い田舎の建築が見える。慕はしい。坂を上ると、キヤスル、ヒルに出る。

これは又帝塚山と同じ形である。よくも似た山があるものである。高さも眺望も帝塚山と同じである。この山へ上つて感は深かつた。灰色の空の下に、劍橋の町が森と尖頭と建物とをならべてゐる。善い町である。しばらく眺めてその景色の印象を胸底におさめる。こゝから下りると、降りみ降らずみの空は又雨を降す。まだ見ないカレッジに、セント、ジョンスカイアスカレッジ、チーシヤントカレッジ、ドレーニングカレッジ、インマヌエルカレッジ、ガートンカレッジ、ジーサスカレッジ、モーダレンカレッジ、リドレイカレッジ、カザリンスカレッジ、シドニーサゼクスカレッジ、ウエストコットハウス、等があるが、目ぼしいものは見なし、大同小異であらうからと、バスにのつて驛へ歸つた。

然ば此處でどんなに學生は勉強して居るか、教授法とか設備とかを問はれるなれば、それは日本の大學とか専門學校を頭において尋ねるのは誤つてゐる。牛津も同様こゝのカレッジといつても設備や何かは見るべきものは何もないといつてもよい無論圖書館はよいのである。大學といつてもチャペルが誇の一つであると云ふべきである。

日本の中等學校の一つを見るといつでも疲れる程廣いが、こゝのカレッジは一所にあつて、そこに寄宿舎も食堂もみな一かたまりに、



フィツシヤースレーン



小じんまりとあるのであるから割合に簡單である。外見上の校舎設備、器具、標本、雨天体操場、特別室、などといふと、それは餘りこゝにはないといつてもよい。只學生が大勢ゐるときの氣分が味へなかつたのは残念である。六月の末にはなつたものゝ私は昨日から毛ジャツを着てレーンコートを着て寒い位であるが、學校は休みで猫の子一疋ゐない。一年中の半分は休みである。それでも偉人が出るのだからこゝの教育法は驚くべきである。

五時の汽車にのることにした。私は古本屋を數軒尋ねたのであつた。然しそれも神田に見るが如き和漢東西に涉つての澤山の本があるのに比しては極めて少い。日本はえらいものだ。ことによれば、劍橋にない本が神田に澤山あるかも知れん。無論劍橋にあつて神田にないものもあるであらう。神田の古本屋には随分色々な諸外國の書物が種類多くある。これは何を物語るか。

私は劍橋の本屋を數軒みた。然し私はその何れもが神田の小さい本屋と比較し得られる程度のものだと思ふ。私は淺學である。本を量で計らうとする不料見を叱られるかも知れないが、私はそう感じた。但、劍橋の驛のプラットに古本を賣つてゐたのはさすがだと感心して二三冊買った。何萬の英國の學生が、否世界から笈を負ふて來る若い青年の理想郷を再び車窓から惜しく眺めて歸つた。

七時半の夕食にはも一人、ドイツの娘が來た。食後、一人が室の外へ出てその間に一語で二つの

意味ある文字をえらんで、外へ出た者がかへると How do you like it? When do you like it? Why do you like it? の三問を皆に交互に尋ねて歸納する遊びを度々繰りかへした。Son, Bank, Bow などいふ字がえらばれた。それから私は立つて、それでは私が外へ出てゐるから其間に、私の知つてゐる「物の名前」地球上でも地球外でもよろしいからえらんで下さい。そして私はこゝへ來て尋ねるとき、yes か no でのみ答へて下さいと大膽に言つて外へ出た。

よろしいといふので中へ來ると、主婦と英人青年、ドイツの娘、オランダの娘、日本學生、ペルウ學生に各問ひ試みた。

英國にあるか、然り、ロンドンにあるか「然り」此家にあるか「然り」、色や重さから食し得るか、等を尋ね遂に臺所にあることが分つて來た。それから、バターか肉か、牛乳か等尋ねて遂に卵子といふことになつて言ひあてた。一同非常に感心した。

明朝は日蝕であるので新聞もさわぐ。話もそれになる。今夜は所により料理店は夜通しで汽車は北部の方へ見物にゆく人の爲に滿載であり、バスも動き、日蝕になる迄ダンスをする所などがある様だ。新聞にも、「成程、日蝕を見たからといつて物質的に直接の利益はあるまい。然し、數十年の間稀にしか見られないものを見ることはやがて、何かを發見する基になるから、この科學的興味は必要である。」と説く。

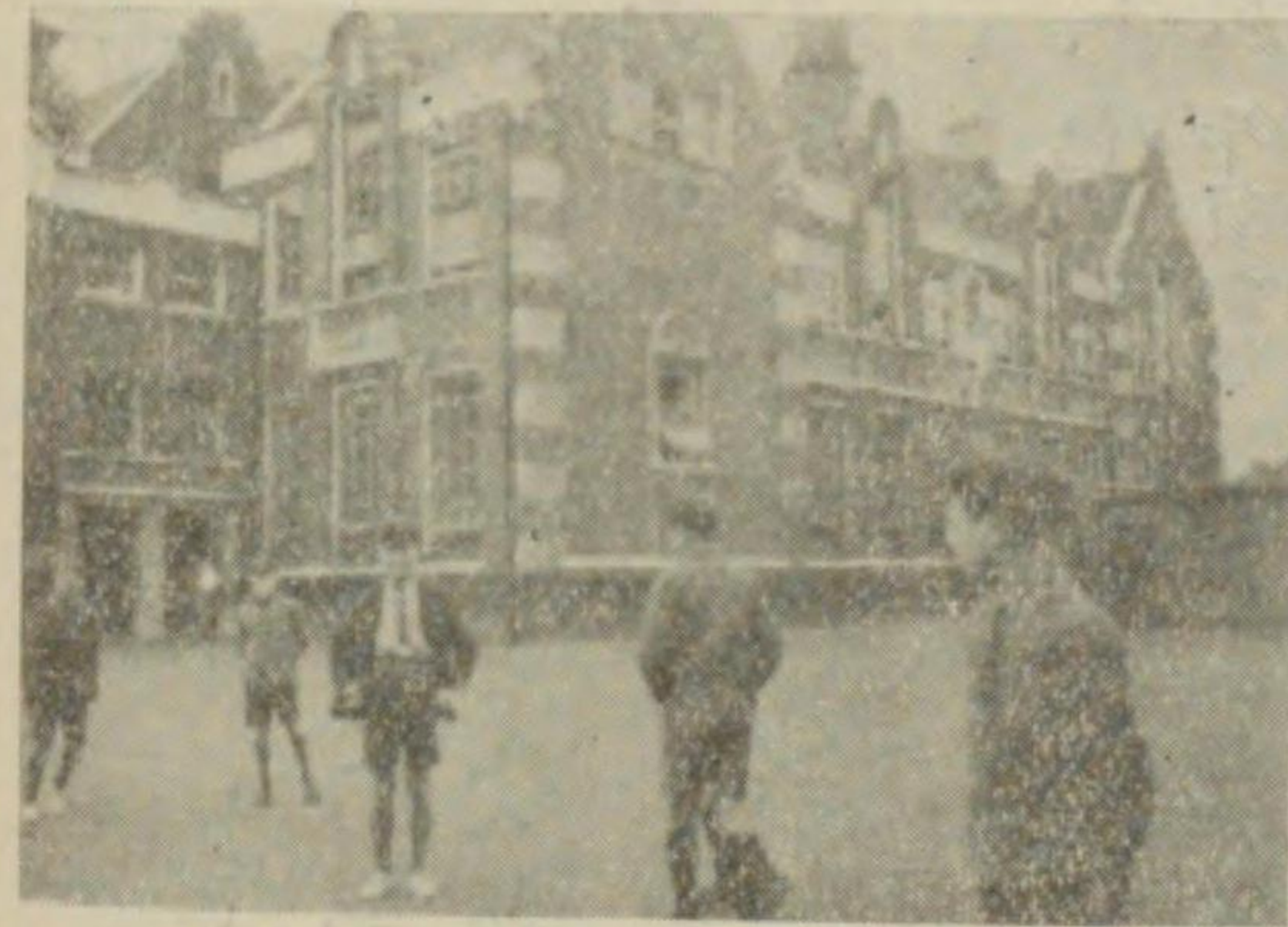


日本あたりよりも餘計にがやくいふ。此れは國民がこの方面に興味を有してゐる証據であると思ふ。

六月二十九日

午前四時頃から雨でロンドンの日蝕は駄目であつた。ギツグルウィックでは充分觀察出來た由。午前中劍橋視察記をかいて、堀教授などと、オクスホードストリート迄同伴、分れて、トキワへ寄り、トランクを日本へ送ることを相談し、三吉野運送店に一任することにした。近處の古手屋で、木のわくをはめたケビントランクをひやかす。

只書物を送る丈だから中古でよいと思つて、きたないおかみさんに話すと今日は初めての客だから、二十志で賣るといふ。十四志にせよといふと、運賃こちらもちで十九志呉れといふ。結極十五志にまけた。その時、思ひ違ひして二ポンド渡した。すると、二圓五十錢つりをくれた。何やら違つた氣がして、之れは足らんことはないかと言ふと、一寸待つて下さい、今のは何の札だつたのですかと言



ロンドン小學校生徒

つて、調べて、おや見ないで受取つて失禮したとて一ポンドかへして呉れた。いやこれでまだ足らぬよといふと、二圓五十錢渡してくれて結極七圓五十錢(十五志)でよいことになつた。初めこちらに十五志といつたとき、ふいと十五圓と感違ひしたのが誤りの初めで、二ポンド渡したのだ。どうも英國へ來て金の勘定を間違へて困ることがある。

又料理店で飯を食つて、一割のチップをおくときにもふいと感違ひをすることがある。尤も一ヶ月中にチップをやつたことは數回で、テーブルクロスのかゝつてゐない食堂、つまり勘定は出口で切符と一緒に拂ふときにはやらない。それから都合上今夜このトランクへ荷物を入れねばならんから自分で持つて歸らうとした。長さ約三呎横二呎に近いので新しいのと變りはない。立派で安く買ったのではあるが持つてかへりにくい。この貧乏な古道具屋で値切つた手腕はよかつたが、その災が來た。

オクスホードのクック社へ行つて、エヂンバラへ行くのにサンダランドへ寄り、それからマンチエスター、リバープール、ストラトホードを経て歸つてくる切符を頼む。五十圓おいてくれといふから渡す。切符は明日午後來てくれとのことであつた。

それから古道具屋の近くの地下鐵道の荷物一時預所に六片拂つて預けてあつたトランクを受とつて、プラットへ下りると、スイス、コツテジへ行くプラットと異ふ。然し矢張り近處のベルサイズ



驛へ行けるプラットであるから、線は違ふが乗込む。大分行で、ひよつとすると乗替ねばならんかも知れんと思ひ、トランクを車の中の入口においたまゝ、ついと、プラットへ下りて直ぐ傍に立つてゐた驛員に之はベルサイズ驛へ行けるかと尋ねかけると、自動的にドアが締つて、電車は發車した。あれつと云ふ間もなかつたが、驛員が後部の車掌に指して、トランクと言つてくれた。そして驛員は先の驛に電話をかけてくれた。

それで二片やつて、次の電車に乗つた。無論なくなつても七圓五十錢のトランクだ。中には何も入つてゐない、心配はないが氣持が悪い、滑稽の様に思ふ。あの婆さんに「ユー、アール、ハード」と言はせ、ロンドンの商賣人の舌をまかしたのはよかつたが、天罰觀面だ。電車に乗つて、停車の驛々で窓から見ることがプラットフォームにトランクは見えぬ。遂にベルサイズ驛について、外へ出てもないので終点迄行けといふ、早速乗込んでゆく。郊外になると、驛と驛との間が遠く地下八十尺の暗い中を面白がつて、餘計スピードをかけて駛る様に思ふ。おまけに二三の驛は停車しないで走つて、先日日曜に遊びに來た、ハムステッド、ヒルなど突破して、ゴルダースグリーンへ來た。下りて見ると開札口の處にトランクがある。それをもらふと、驛員が電車を横斷さしてくれた。これは親切であつた。すぐ引かへし線のプラットに出て乗込む。漸くベルサイズ驛に出ると、雨が車軸を流す様に降つてゐる。

このトランクの爲にえらい目に合はされた。暫く雨の小ぶりになるのを待つて大汗かいて下宿にかへつた。安いトランクの失敗の巻であつた。頗る滑稽であつた。願くば此のトランクよ、今度書物をつめて日本宛に送るときはボルネオや、アフリカへ行かないで大阪迄着いてくれ。

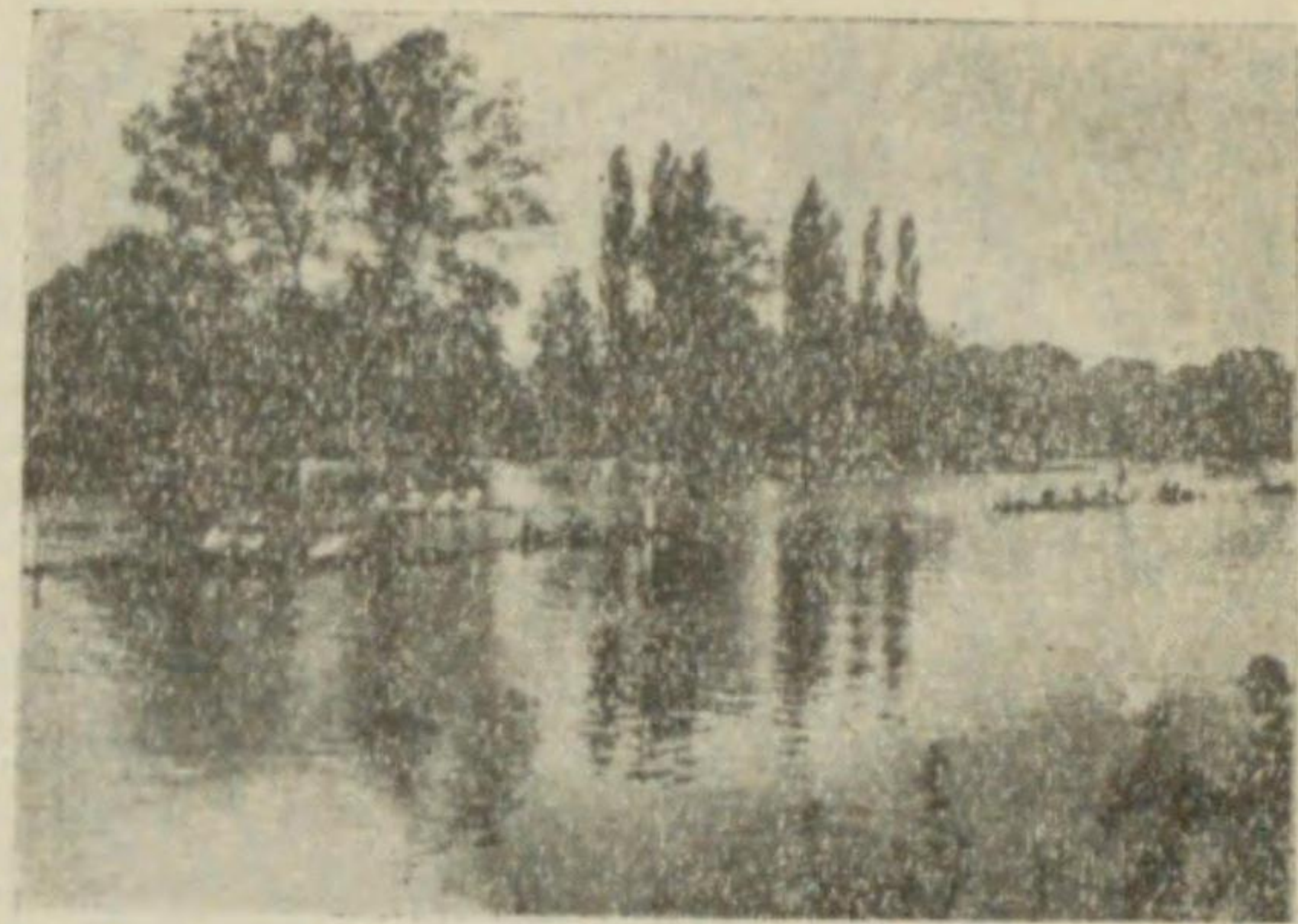
夕方荷物の段どりをする。サンダーランドへ電報とはがきを出す。ドイツ大使館の大村少將にドイツ學校視察の手續を御願する。

今日から英國各パブリックスクールのボート競漕が初まつた。今晚が、ハーローのスピーチデーで、合唱がラヂオで放送されるのであるが一時間おくれたのできけなかつた。

#### 六月三十日

午前中は荷物片附と獨逸の方の學校視察の手續とに費し、午後佐々川君とヘンリーの全英國パブリックスクール、ボート競漕を見物にゆく。パチントン驛へゆくと發車までに一時間程ある。恰度構内に、キング、ジョージ五世型の汽罐車が留まつてゐたので見物する。仲々立派なもので、大勢見物してゐる。この會社即ちグレートウエスタン、レイルウエー、カムパニーは、キャスル型とかキング型とかスター型、グレートベアー型とかがあつて此れは最新式を誇るものらしい。高くはないが長さ六十八呎、牽引力は四〇三〇〇ポンドある。従來のに比すると大威力を有する譯である。





競漕 - レンヘ

横にはその繪葉書を賣つてゐる。

リフレツシユメントルームへ行つて大勢やつてゐる様に、サンドイツチと菓子と茶を飲んで乗込む。ヘンレーは直ぐ郊外と思ひきや殆ど、ウキンゾルキヤスル位の處にあつて、汽車は一時間程快走する。低い山の間に河が流れ、岸を浸して緑樹が茂り氣持が晴々しくなつた。それに久し振りに雨が晴れて夏雲が湧く。

四五十軒の家は靜かに河の畔にあつて、氣持のよい橋の上へ行く澤山のボートを浮べて見物してゐる。兩側に天幕を張つて見物席がある。東側の方にはジプシイのキヤラバンが澤山來てゐる。女易

者、メリーゴーラウンド、スベリ塔、香具師などが大勢來てゐる。此様な上品な學生や紳士淑女の來るボートレースに、この様な店の出るのがおかし。大きなメリーゴーラウンドは極彩色をして自動車を兼ねた形の車から動力を送つてゐるのも英國式だ。

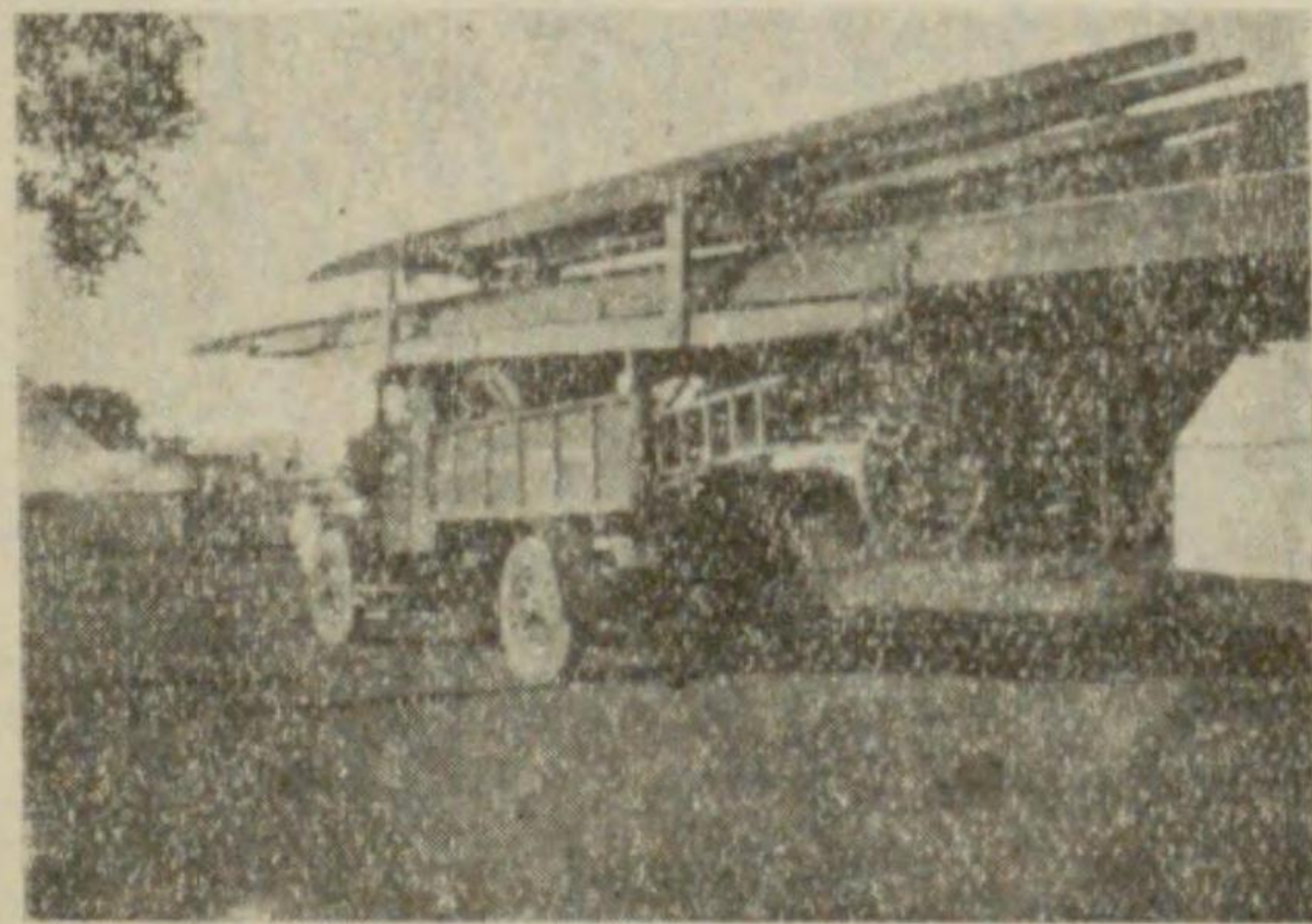
川の兩側に二三列人が立つて見てゐるのは、特別席以外のところから充分見られる。コースは一哩位あつて所々に杭が立つてそこに信號手が居る。そのコースの兩側に輕艇を浮べて、本を讀んだり、マンドリンをひいたり、靜に見てゐる。八人漕、四人漕交互競争がある。見物は餘り熱

狂しない。新緑のかけから靜に見てゐるものもある。二階建の茶館から茶をのみ乍ら見下してゐるものもある。大方は樹木と芝草のみで閑寂の氣分がする。

これが、英國第一流の學校からの選手の競技デーである。どこかの學生が赤と白のネクタイと同じリボンの麥藁帽に白ズボンで三々五々見物してゐる。船夫が一人一志コース御案内とボートを勧める。人一人居ない所もある。横の百姓屋みた様な所に茶店があつたので茶を飲む。

卒業生の頑強なのが激勵してゐるのもみえる。歸りに見たが、イートンなどは特別製の自動車にボートを大小四艘積んで運んで來てゐた。各艇庫は天幕で臨時に出來たもので中は立派に整頓してある。テームス河保存會のランチが上下する。川幅は三十間あるなしで、水は清く川の中にまで杭を立て、屑紙籠を吊つてある。

目に黒いマスクをした娘と學生の一群が、ピアノ、バンジョーなどで奏樂しつゝ寄附金を集めに來る。竿の先に袋をつけて岸へつき出す。私が面白がつてその寫眞をとると娘は「ウイ、チャージ、フォア、ザット」と竿をつき出す。華やかな樂の音に流れを上下する。鳥の鳴き聲がきこえる。白雲が湧く。



イートン學校ボート用自動車



六時汽車で歸つた。英國の學生々活の一面が分つて嬉しかった。驛から下宿へ電話をかけておいたからコールものを夕飯に残しておいてくれた。毎朝必ず今夜夕飯に歸るかときくから、歸らないときとか、おそくなるときは電話をかけねばならん。

岸低し緑樹のかげのレースかな

丘ひくしボートレースに夏の雲

流れゆるきボートレースや青嵐

見物の舟浮べたる青葉かな

川下に煙火あがり夏木立

### スコットランド

七月一日

早く起きてトランクを隣室の佐々川君の室に頼み、部屋を明けた。其儘にして旅行をすると宿料が二重になる。昨日ヘンレーへ行つたので、クツク社へ行けなかつた。主婦が牛津街のクツク社へ電話をかけて、切符をキングスクロス驛へ持参してくれといったが、人手がないといふ。大雨の中

を時間も残り少いのに、カバンを一つさげて會社へ行き、急いでエヂンバラ行のクーポン帳をもらひ自動車で驛へゆく。

十時十分發の列車に辛じて間に合つた。ドンカスターで乗替へた時に食事を簡単にすませ、ヨークで乗替へた。盛な所である。

次に又、ダーラムで乗替へた。城と大學と街とが見え繪の様な所である。窓外は依然として牧場が多かつたが、大分炭坑地らしくなつた。空は曇つて時々雨をふらし妙な天氣で寒い。六時過サンダランド驛へ着き馬車で、ミス、リツン氏を訪ね、待かまへた食卓につき四方山の話をする。

先生は私の來るのを待つてゐられた。ワールンさんは頭痛で臥床せられてゐる。明日のダーラム見物や色々とは日本の徳島のことに移る。私が八九歳の時初めて、リツンさんからキリストの話聞き、爾來先生の人格と指導がどれ程私の生涯に深い感化を與へたことか、何百回私は先生を訪ねて教をうけたか分らない。それにも係らず私は此の十年程御無沙汰をしてゐた。こゝで久し振りにお目にかゝつて御話出来るのは英國へ來て第一に満足に思ふ次第である。先生も仲々達者であるのは喜ばしい。

九時過日記をかくと、ポビルと菓子を持つて來て明朝は八時に湯を持つて行つてドアをノックする。半時間の中にドレスして八時半に朝食を下さい、寢室は温い様にしてありますといふてくれ



る。土産にはチリメンの重懸とゆかたを仕立た着物、京人形、學院アルバムなどを贈つて色々話す。寢室へ行くと、ベットの横のたんすの上に聖書が置いてある。ベットの頭元に額があつてその文句に

We wish you in this quiet room rest ; If dreams come, may they pleasant be  
Dear guest,  
When you awake,  
Then may the sunshine clear  
Greet you and tell how glad we are to have you here.

久し振りに聖書を読んで床に入る。今日は車中で、リードの人類の犠牲を大分讀んだ。その續きをよむ。

七月二日

朝は眠かつた。八時に下女がノックして湯を部屋の入口においてくれること下宿と同じである。毛剃して服を着替へ食卓につく。食後病床にあるワーレンさんの所へゆき久潤を叙す。大に喜んでくれた。ゆかたもリッソンの身丈に合ふ様に仕立が出来てゐたといふ。



シッソリスミス師恩

こゝで御別れをして、リッソさんが是非ダーラムへ案内してあげるといふので入口で記念寫真をとり、公園をぬけて記念碑の前を通るサンダランドは海岸の大きな街である。嘗てこの海岸に日本の船が難破して病院に三名の船員が入院した事がある。英語が話せないので、リッソさんを呼びに来たので行つて通譯をして上げたといふ。何にも希望はないが、第一に感謝と第二に日本飯を食べさせてくれそしてそれに魚がほしいと言つたそうだ。それからパンの話になつて、リッソさんが徳島へ初めて赴任したときその町の病院長が、入院患者に是非パン食をさせたいからパンと一緒に焼いてくれまいかと頼まれたので、二ヶ月間パンを供給して上げたからその病人は非常に喜んだといふ。その時分徳島では何處にも食パンを賣つてゐなかつたのである。それから徳島の或紳士は、此の町の一流の菓子屋のパンは黄色ですが、あなたのパンは白いから悪いのでないかといふ。問はれたから、いやパンは白いのが善いのですと笑つたといふ昔話もあつた。

クツク社へ寄つて切符の事を一寸相談して、バスにのつてダーラムに逆もどりする。丘の上の善い道をよく走る、田舎道でも大阪の町の道よりも善い。ダーラムに着くと子供がカバンを持たして



呉れといふ。三片の約束で十町もある驛へ行き一時預にしてダーラムのカシードラルへ行く。川の傍、丘の上の森の中にあつて要害堅固、仲々景勝の地である。英國へ来て初めてよい所だと思つた。尤も町には工夫が多い。

カシードラルは圓塔でなく方塔で、堂内の柱の太いこと、豪壯の構へは英國へ来て一番感心した。それから隣りの城の中を見る。十世紀頃から出来たそうで大ホール、ビショップの室等順次に一覽した。こゝには大學がある。裏手のセント、ジョンズ、カレッジを訪ねて校長の宅へ行き部屋で色々話を聞いた。仲々親切に話してくれる。

こゝを出てリッスンさんに晝餐を供し、こゝで厚意を謝して分れた。恐らくこれが最後の分れであらう。このダーラムは桃山中學校長ローリングス氏や恩師である東京のビショップ ヒーズレット氏の出身校で私にも間接に縁の深い所である。

ダーラムから汽車に乗り、ニウカスルで乗替へる。この市は實に大きな都會であると思つた。驛の高い所から見ると廣い町が見渡される。それから、ツイードなどの海岸の實に壯快な景を見つゝエデンバラに着く。構内にある鐵道社長ジョン、ウアーカー氏の銅像の姿勢がよいから山本前理事長の銅像の参考に寫真をとる。

待合室で聞くと、明朝は日曜だから當社の汽車は無いといふ。スコットランドは格別日曜を守る

エデンバラは二時間半で見物出来るそうだが、今夜九時四十九分の汽車で、レークヂストリクトへ行つてもペンリスは午前二時半になるから何うしようかと迷うたが、矢張こゝに一泊するのがよいと思ひ、ホテルへ一二軒行つたが満員だ。そこで、驛に近いローヤル、ブリチツシュ、ホテルへ行くとシングル、ベッドの室が空いてゐた。

部屋へ手さげカバンをおいて、直ぐ外へ出た。ウルウワースといふ店は米國の支店か知らんが三片と六片の日用品を色々賣つてゐたが、實に大勢の買ひ手でよく賣れてゐた。米國式商策である。それから陸橋を渡つて、フィルムを買ひに或店へ入つたが無い。實はフィルムを巻きそこなつたのだがといふと、暗室で直せと態々地下室に連れて行つてくれた。親切な店だ、仲々大きなのだが、ガ城へ上る前の廣場で子供が、あれはエデンバラ大學、これはドイツ人が爆彈を落した所とか、ガイドの芽生でよくしゃべる。又子供が來た。そして一片くれといふ。私が啞の眞似をすると一片出して見せてこんなのをくれといふ。否といふと、モンキーといつて去つた。

午後八時であるが九時迄は入門出来るといふ。城の一番上から見下すと下の公園の所に何千人と圓形に腰かけて土曜の夕の音楽をきいてゐる。東には低い山があつて一寸カイローへ行つた氣持である。此處の眺望は實によろしい。十哩四方を見晴すことが出来る。一千四百年代に出来た大砲をおいてある。巖の上の城砦は仲々堅い。兵士が女子と戯れてゐる。見物が三々五々來る。まだ夕陽



は明るい。城から下りてくると貧民が多い。酒を飲んでゐる。大きな手風琴をひいて歌つてゐる。艷歌師を二三百人の人がとりまいて聞いてゐる。貧民部落でも静である。宿へ歸る。

部屋で日記をつけてゐると、ノックして日本人が入つて來た。帳場で日本人が來泊してゐる由聞いたので來ましたといふ。マニラで自轉車商をしてゐる人であるが、工場視察に來たそうで色々と話して、レークヂストリクトのことなどを聞いた。

七月三日

初めロンドンのクック社へスコットランド行はレークヂストリクト見物も含めておいてくれと言つたのにサンダランドで聞くとそれは私の買つたクーボンに入つてゐない。レークヂストリクトは何處から下車するかと聞くと、ペンリスで降りて別に湖水を渡る賃銀と馬車賃などの金を拂つて下さいといふ。どうもペンリスといへば、リバプールに近い處であつたわいと思つて昨夕の日本人毛利氏に聞くと、否それは、エヂンバラから一日がけで行くので、グラスゴーへ廻れるし、グラスゴーからも來られるのですが、まあ英國だから美しいとか景色が善いとかいつて感心するので、日本人には左程にありませんといふ。それでよく分つた。昨日は土曜で此地のクック社も店を閉して居たので相談も出來ず、それにそこへ行くと一日おくれるし、強ひて見なければならぬとも思はず

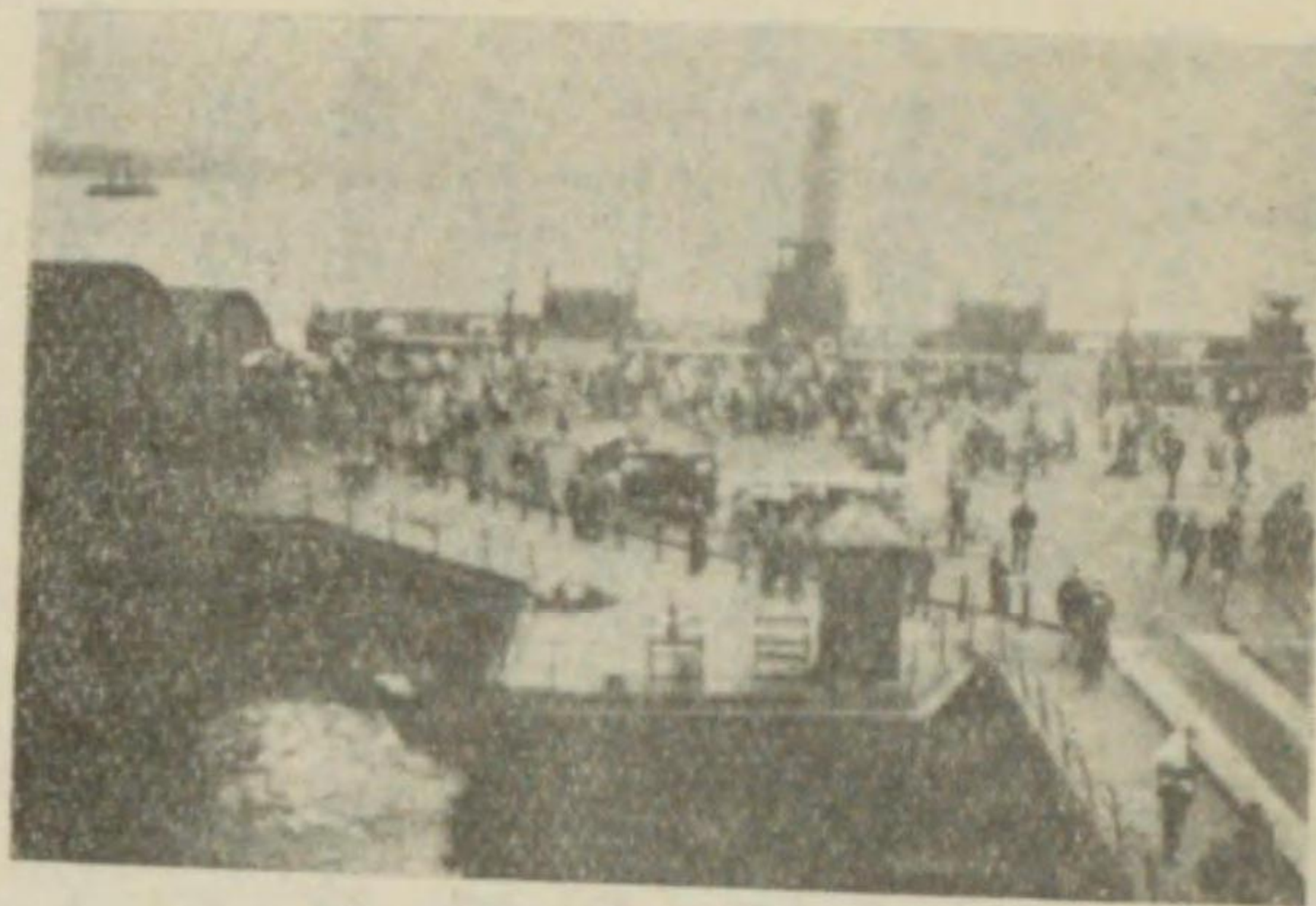
スコットやバーンズなどの詩の聯想からも一日の清遊には値するが、まだく伊太利やスイスでそれ以上の處へゆけるから割愛して食堂へ行く。ポリジと魚とエグ、カツレツなどを少々食べて勘定を持つて來さす。朝飯付の十二志六片であつた。それにチップを二志やつた。又リフトのボーイに三片やつた。昨夕ボーイにも六片やつた。それからカバンを提げカレドニアン驛へ電車で行く。昨夕の賑にひきかへ今朝の静かであること。城が目の前に切り立てた様にそびえて靄がかゝつてゐる。墓場、カンドラル、こゝは仲々善い所だ。

車中は三十四五のオールドミスと二人である。汽車は高原を走る。湖水が見えたり、眼界が十里も廣い丘の上を走つたり、牧場には羊、牛、馬が草を食んでをり雑木は穩かなカーブをした山に續いてゐる。山といつても丘である。我等には珍らしく美しく何處もが公園に見える。

カーライルで停車中、窓の下のプラットで茶(四片)とバナナ二房(三片)とで晝飯にする。車中へは老人四人乗込む。タイムスをあげると喜んで讀む。淋しい山の間を抜けて汽車は走る。ランカスターを抜けると海岸で景色仲々善く、測候所と城が丘の上に美しく見える。

プレストンで乗替る。この列車はマンチエスター行であつたのである。赤帽にリバプール行を尋ねるとカバンをひつたくる様にして、ブリヂを越えその列車につれて行つてくれる。四片やる。此邊から畑が多くなり、羊よりも雞をかつてゐる所が多い。





港　　ル　　グ　　バ　　リ

四時リバブル着、ひよろ／＼と出て行くと、驛に近いデールストリートに余り大きくはないが、天使ホテルといふのがある。入つて聞くと、シングルがありますといふ。見せてくれといつて見ると、まずい部屋ではあるが辛棒してカバンを置いて帖場へ下り、年齢、姓名、国籍、旅行先、今朝出發地などを記入する、朝飯附で九志六片風呂は一志(五十錢)であるといふ。

顔を洗つて、電車で埠頭へ出る。高い建物があり、向ひの島との間に數百人乗れる渡船が澤山往來してゐる。仲々大きな港である。こゝで一番よい公園はどこかと聞いて電車で目抜の通をぬけてウールトンの公園へ行く。オールド、イングリッシュ、ガーズンとしてある所へ行く間は樹木生ひ茂つて暗い位である。門を入ると、澤山の人である。せまい所に古風な草花を植ゑ、中央に長針と短針とがあつてこれも草花である。電氣仕懸で針が動くので面白いのである。針は桶の形のものゝ上に花をうゑてあるので、菊人形の出し物と違ひ地面その儘を利用してある所に味があるといふのであらう。

折から傍の森から「カツコー」と杜鵑の聲がした。此れも大勢の興をひいたが、老木の上に電氣仕懸で杜鵑の聲を出すようにしてあるらしい。こゝを出て西南の丘から海を見晴し、腹が減つたので元來た道を電車で歸る。通る人が皆ちろ／＼と顔を見る、それもその筈此の三日間に日本人に昨夕一人逢つた丈だ。

何處の店も閉ぢて淋しい。夕の寺の鐘が鳴る。たゞ一軒、ライオンが開いてゐたので、夕食による。そこを出て取引所、銀行、市役所など目抜の處を見て、再び波止場へ行き、ジョージ、ドックや其他の港の状景を詳細に見て宿に歸る。落付いた氣持で日記をかく。日曜はひつそりしてロンドン以上に淋しい。人口七十五萬といふが馬鹿に淋しい。それから、目抜の通りで周圍を群臣の像で取巻かれた立派なビクトリア女王の像を寫眞にとつた。

七月四日

八時起床、朝食を済し支拂をする。九志六片に一志の心附をおき、汽車の時間をきくと、マンチエスター行にまだ一時間ある。今日も曇つてゐる。鞆をさげて宿を出たら、散髪屋があつたので入つて、カツチング丈してもらふ、六片であつた。

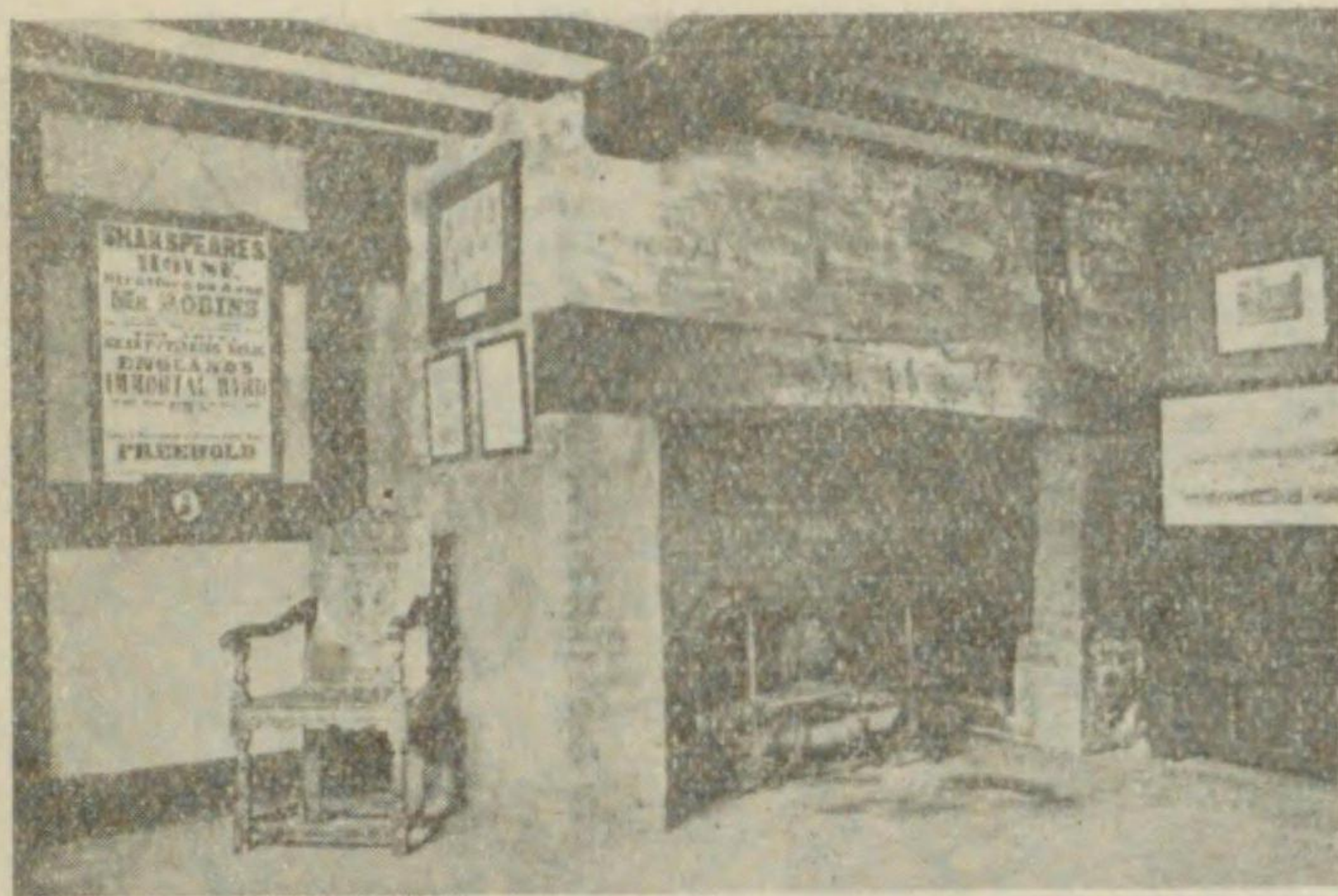
驛で新聞とデイリーメールの戯畫集を買つて乗込む。マンチエスターへ一時間程でつくと、バー



ミンガム行の驛はロンドンロード驛だといふ。そこを出て電車に乗り、ハイストリートを通る。ピールやウエリントンなどの像が立つてゐる。堂々たる建物も多い。こゝで四十五分餘り待つて、バリーミンガムへ着く。構内は雑鬧してゐる。こゝでストラトフォードオン・アボンへ行く驛を尋ねるとスノーヒル驛へ行けといふ。驛を出ると一人の男がカバンを持たせて呉れといふ。二片でよいかといふと三片呉れといふから持たす、すた／＼歩くのでついて行くと大きな寺院の庭の横を通つて直ぐ驛についた。親切であつたから四片やる。

こゝで切符を買つて四五十分待つて乗込む。バリーミンガムも中々大きい町である。今日はウルバーク・ハムプトンといふ所を通つたが今迄聞いたこともないが随分大きな町だ。沿道は矢張り工場が多い。英國の工業の盛なことが分る。

ストラトホードにつくと、今夜こゝで一泊するか否かは分らんから驛へカバンを預けて行く。明るい静かな町だ。セキスピア劇のストラトフォード座が焼けたので臨時に芝居小屋が建つてゐる。七月十一日から九月中旬迄の上場の劇名等が出てゐる。此の週は記念週とかで、驛から目覺しい所に旗を立てゝある。この間ヘンレーで見た、メリゴラウンドや塔などが町の傍に樂隊勇しく田舎の婦女子を喜ばしてゐる。そこから左折すると低い家並續きで、右折すると左にセキスピアの生れた家がある。



家のセキスピア

近處で一志の入場料を拂ひ、カタログを買つて入る。大勢見物に来てゐる。一年二十萬人は來るといふ。中は粗末で階下は石をしいてある。大きなストーブ等は極めて荒つぽいものだが趣味はある。右手の部屋には名士の書簡や古い臺本、武器等を並べてある。

セキスピアの好きな小道具も澤山あり、鼠取りなどもあつた。二階には極めて粗末な机がある。机といふより馬小屋の踏み台といつた方がよい。こゝで彼は不朽の傑作を物したのである。

二階には爐がある。元此の家は小さかつたが博物館的に少し増したのであるといふ。裏庭は仲々美しく、この家の特徴である、外側の壁に木の柱を縦横に表はしてあるのや家の内部の天井裏に梁が見えるのも面白い。

前の家で、ノツカーや眞鈕製の土産を買ふ。ポアーヘッドとか、セキスピア、ホテルなど如何にも田舎びて善い。ニウガーズンも記念すべき庭である。後から廻つて、焼けた記念館兼セキスピア劇場を見る。



庭は廣く、セキスピアの銅像が立つてアボンの清流を眺めてゐる。後の園も花と芝草とで廣く氣持がよい。近處に古びた建方の家のあるのも奥床しい。スミスといふ古本屋へ入る。家の中一杯古本計りである。もう汽車の時間がないので急いで、何か買はうと思ひ急に思ひついて、アーピングの、スケッチブックを尋ねた。すると古本を四冊出して來た。二冊ものが二部と一冊ものが二部で二十圓位である。外側は古いが中の文字も鮮明で面白いと思つたが、カツセル版の一圓五十錢のを買ふ。開いてみると、アーピングがこゝへ來た記行文の中のレッドホースホテルの現在の主人が所持してゐたと署名してあつた。

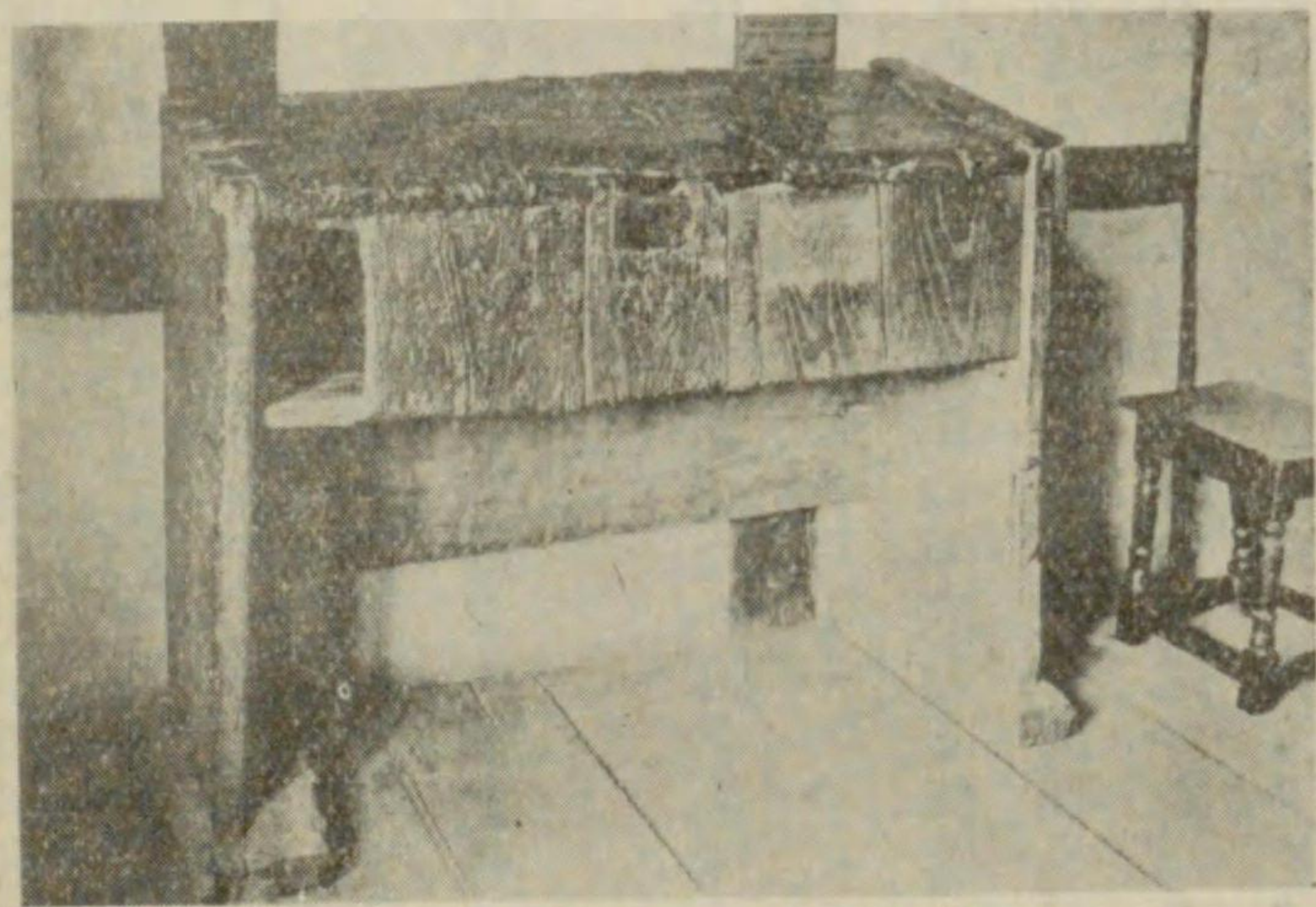
此れを記念に買ひ、餘程一泊したかつたが驛へ急いだ。惜しいことに寺院と沙翁の墓をつひ忘れてゐたのと急いだのとで訪れなかつたのは残念であつた。

然し新しい面白い寺院があつたので寫眞にとつた。汽車に乗つてから今買つたスケッチブックの中のアーピングが此地へ來た記行文をよむ。百年の昔ではあるが今と變りはない。アーピングは此處で宿つて、沙翁の生家へ行くと婆さんがべちやくちやしゃべつて、自分の詩集を買へといつたなどとかいてある。又寺男の家へ行つて、墓に詣でたとある。それからセキスピアが子供の時鹿を殺して一晩牢に入れられ庄屋さんに取調べられ、腹立まぎれに悪口を詩にかいてしかられ、ロンドンへ逃げ出して、芝居の下廻になつてゐるうちに大作を初め、再び故郷のストラトホードに歸

り骨を故山に埋めて、此骨は他へ移すなどと言ひ残したことを詳しくかいてゐる。そのアーピングがセキスピアの家の窓ガラスに名前をほつてから早百年の年月が流れてゐる。それを讀むと一晩とまつたらよかつたのに、ことに、セキスピアホテルなどよい所があつたのに、尙それに、アニハウソニーの家にも澤山遺物があるし、この河の畔をあるいたり、野外劇などもあるらしいので一泊に値する所であつたのにドイツへの旅を急いだので無理をして、レミントン迄切符をかつて汽車に乗つたのは返すくも残念である。

こゝで八時半の發車であるから又一時間待つた。その間にサドイッチとビール一杯で腹を大きくし、近處にラグビースタールがあるが此れも訪れる間もなく乗車した。所が次の驛で切符を集めに來た。大体ストラトホードや、レークヂストリクトの切符も含めておいてくれと、クツク社へ頼んであつたのに、クツク社ではレークヂストリクトの方面を入れてなかつた。

それから、マンチエスターからロンドン迄の切符になつてゐたから、バーミンガムから、ストラトホードへ、ストラトホー



シェキスピアの机



ドから、レミントンへの切符を自分で買ふと、クック社の呉れた切符には大分乗らない所が出来。それを多少不平に思つてゐた所へ、車掌が私のクック社から呉れた切符を見て、これは、ロンドン、ミドランド、スコチツシユ、レールウエー即ちLMS線の切符だからこの線即ちグレート、ウエスターン社の線には通用出来ませんから十志十一片くれといふ。非常に親切な言葉つきだから、では受取りをくれといつて、かいてもらつて後でクック社から拂戻してもらはうと意氣込んだ。この爲四五分は急行列車が長く停車した様に思つた。

日本であつたら皆どうしたのかと思つて見に来るが、幸ひ車中には私一人であつたから何ともなかつた。英國には汽車會社が澤山あつて複雑であるから間違ひ易い。私は今日の行程も一々、インクワイアリー、オフィスや驛員に聞いて一々その差圖の通りしたのである。汽車の圖表などでも一會社のだけを持つて、英國の汽車の線路圖は此れ又だと思ふと、とんだ間違を起す。誠に面倒くさいことである。統一がとりにくい。これは日本のやうに官營で統一してあるのが善いと思つた。まあ損をしても六圓のことだが、クック社が今少し入念にしておいてくれたらと思つた。尤もクック社へは切符を買つてもらつた丈のことであるから大した理窟も言へぬ。

汽車は急行で田圃の間を突破する。如何にも田舎は家が少い。都會は随分澤山あるが、田舎は道が縦横にあつて牧場ばかりだ。英國全体が牧場といつてもよい。その牧場の一つは大抵一町以上の

廣さである。一町乃至二三町が普通である。これが單位かも知れない。そして羊や馬は割合少い。數十疋居るのは多い方で一區劃内に十疋位しか見えない。少しもゐない所もある。日本は要所々々の間の鐵道の沿線にはぼつ／＼家が續いて多少賑やかな様に思ふが、この國では都會と都會との間は晩など如何に淋しいであらうかと思ふ。

それに雑木が多いから格別そう思はれるのかも知れない。十時十五分パヂントン着、地下で乗替て下宿へ歸る。部屋へ引こんでゐた連中が飛下りて来て、早かつたねとか、面白かつたかと聞く。御茶を飲んでまた元の部屋へ陣取り、四日の旅の疲れを休めるべくベッドに入り、アーピングの作をよんで再び英國を味ひ直す。松島、山本君より來信。

七月五日

午前に入浴して、トランクに荷物を片付ける。スーツケース二個と手携バッグの可成大きいのを一つ持つて來たが、大陸旅行には、スーツケース一つと手携丈に入れてしまつて一つは空にした。先日買った、ケビントランクに書物や色々の物を詰め込んで日本へ送ることにする。

クック社へ行つて理窟を言つた。湖水地方を入れてなかつたが爲、見られなかつたこと、ストラトフォードをも入れてなかつた事等をならべる。所が賃金は御返し出來ると思ふが、理由を書いてく



れといふから一筆認めて宛名と共に渡し、是非返金してくれとしつこく頼んだ。金は少しであるけれども、世界のクツク社といはれる者が、客に對する仕事に手落がある事はいけないことであり、旅客が此様なことで迷惑を蒙つたことを黙視することは御互にいけないと思つたからである。

一方の係の人に白耳義より和蘭を経て獨逸ベルリンへ行く切符を頼んで明日來ることにする。それから古本屋廻りをする。チャリンクロス迄の間の古本屋は大抵這入つて古い様な本ばかり調べたが、此れと思ふのではない。ギボンのローマ史、スコットの詩集、コムトの社會哲學、ホレースのものなど大抵百年以上古い版のを探し出して求めた。

それから三井物産會社へ行つて中西氏に面會今度の旅行の相談をしたり、信用狀で金を二百圓もらつて出て茶を飲み宿に歸る。

七月六日

午前電話をかけて三吉野運送業の三原君に來てもらひトランクを日本に送る様頼む。金目のものは少しもない、保険にかける要もない、書類も凡て依頼して四志は安いから一志餘計に拂つて注意をよく頼む。但し日本郵船の方では日本迄十六圓位要るらしい。面倒だから鍵も預けておく。

午後外へ出ると、近處のローヅで恒例の牛津大學對劍橋大學のクリケットマツチが一昨日から初

まつてゐるのをバスの上から瞥見する。這入るまでのこともない。ハーロー對イトンも二三日中にあるらしい。どうも、吾々にクリケットの妙味は分らん、英國人は仲々熱中してゐるけれども。クツク社へ行つて昨日の男に又念を押す。約一ヶ月はかゝるといふ。それから伯林行の切符一切を求めて食事をし本屋廻りをする。活動寫眞を一寸見て外に出ると、清水夫婦が一昨日巴里から來たのに出合つて奇遇を笑ふ。

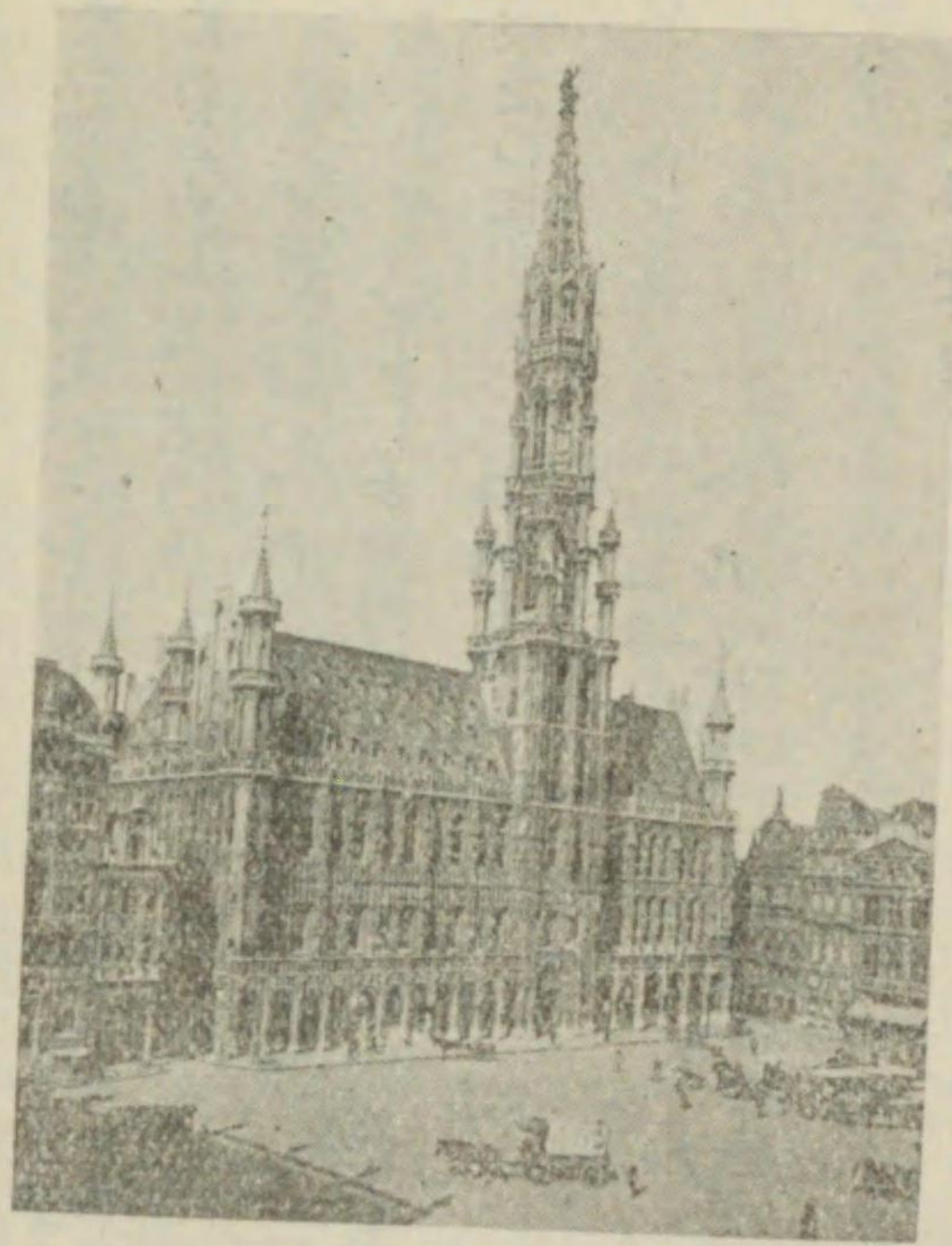
### ベルギー　ブラツセルへ

七月七日

朝食後直に荷物を整へ電話でタキシードを呼び、スーツケース一個とハンドバッグを持ち一同に別れる。四十日居つた家であるから別れを惜しむ。佐々川君が見送つてくれるので同乗、ピクトリア驛に至る。仲々の雜鬧で二等室に入る。新聞一枚買ひ兼ねる間に發車。曇れる空は降りみ降らずみの天氣である。二時間足らずで、ドーバーに出る。皆甲板に上つて椅子に靜かに腰かけてゐる。ポーターには六片やる。暫くして上陸券をくれるが、私は二等であつたが船は一等にして四志割増を出す。二等の食堂へゆくと、ボーイ一人でサーヴィスが遅く、室も汚い。船客も割合に尠い。



甲板に出るとパイロット萬年筆の英米出張所の日本人と、今一人の日本人吉野氏とに出遭ひ一緒に話す。ドーバーは静かで船足も早く三時間半でベルジウムオステンドにつく。海岸の街が美しい。砂濱にキヤラバンの様な車付の小家が多い。海水浴に用ひるのであらう。この税關は至極樂で、手さげを開けて一寸見た丈でスーツケースも調べず、安々通過。旅券調べも一分もかゝらない。汽車に乗込む。やがて吉野君と一緒に食堂へ行つて茶を飲む。イギリス金で支拂ふ。



タウンホール

畑はよく耕され、農作の状況が日本とよく似てゐる。農家もボツ／＼散在して英國の様に牧場計りではない。風光溫和で氣持よい青空が見える。色々と話して七時過ブラッセルノルド驛につく。下車する人は割合少い。同君はノルド驛の前の廣場に面したホテル、セシルに電報を打つてあつたので同伴してポーターにカバンを持たせて行く。シングルの空室があり部屋代は四十五フランである。(換算は一ポンド百七〇フラン)安いものである。但し食事は別。

室に入り顔を洗つて、吉野君と散歩し、地圖を買ひ共に夕食をする。二〇フランである。イギリスでは、ブレイアース、ネビカットといつて丸いブイの中に水兵の像のある煙草をいつも喫んでゐた。十一片半であつたのが、こゝでは四フランである。宿に歸り日記をつけてゐる。大通りであるのに人の往來も少く、一体に服装も地味で、乞食も多い。ホテルの部屋はエヂンバラのなどより數倍上等で安い。

七月八日

朝食は宿の食堂です。吉野君と同伴、電車で日本領事館を尋ねる。いくら、ベルを押しても十時といふに戸が閉つて誰も起きて來ない。近處の雜貨屋の内儀さん手まねで寝てゐる風をする。仕方がないから、街路樹の多い通りのベンチに腰をかけてゐる婦人に英語で、此の町の新式の學校を知つてゐるか聞くと、新式といふと知らぬが此の近處に私立のよい學校があると、英語で親切に話してくれる。そこで、その校名を

Le Cours de la Cole, du Bailly.

と書いてくれた。直ぐに分つて之を尋ねる。學校といつても街路に面し、普通の家と少しも異らぬ長く續いた家の中の一軒である。女書記が出て來る。英國大使館からの紹介状でも出さなければ



仕方がない。英語が分らぬ。二三人先生が出て来る。遂に女校長が来て、校長室へ行つた。この人は温厚な善い人らしいが英語が分らぬ。次の先生が来た、この人に來意を告げると、今日は學期末で非常に忙しいといふ。まあ遠方から來たのだから少しでも見せてくれといふ。その中に英國から來てゐる十五六歳の少女を通譯に連れて來た。頗る淡白なよい娘で通辯をしてくれる。この學校は寄宿生と通學生と二通りあつて、少年部と少女部と女學部とである。英、佛、和、獨などから來てゐて仲々の評判の學校らしい。可愛らしい卒業生の寫眞を校長室にかけてある。教室を見せてもらふ。狭い學校である。中庭をへだて、後に一棟あつて狭い教室が階上階下にある。割烹室もせまい、テニスをする所もない。掛圖が少々ある。理科學の器具が日本の田舎の小學校だけのものもない。僅に戸棚に一つ丈である。然し一組の生徒は少い。尋常生から女學校まである譯で教師も十人位見えた。授業料は一ケ年二百五十圓であるといふ。

來々週の金曜日に免狀授與式があるから來ないかといはれたが到底來られないと答へる。ざつと一通案内してもらつたが、とに角ブラツセル市の私立のよい學校といふものゝ觀念を得たから此處を出る。校長に絹のハンケチを呈すると、その案内の娘にやつた。娘は満面に笑をふくんで感謝した。

それから國立裁判所の建物を見物にゆく。これは一千七百萬圓を投じて建てたもので、ローマの



マ ネ ケ ン ビ ス

セントポール寺院よりも廣いそうである。兩翼が出て中央にドウムがあり、太い柱と大理石の床、實に堂々たる偉觀を呈してゐる。

中に入り、刑事室に入る。随分廣くて、色々刑についての歴史畫の立派なのがある。恰度囚人が四五人掃除をしてゐた。大審院は立派なもので大理石のパネル、天井、壁掛、各法官の油繪等燦然と光つてゐる。こゝは大戦當時ドイツの士官の食堂になつてゐたそうで、床に敷いてあつたカーペット其他が紛失してしまつたと案内人はこぼしてゐた。位置が恰度丘の上にあるから此の建築は此の市にとつて大なる誇りとなつてゐるのである。

こゝで此の町の繪ハガキを買つて、其中訪問したい處を十ヶ所程えらんで、タキシ一の運轉手に相談する。結局二人で六十フラン宛二時間で案内しようといふので、それに乗る。

レオポルド二世の銅像のある王宮の横を通つて、Musee Wienzに入る。裸体畫など氣分本位の繪の多い一種風變りの博物館である。前の博物館へは入らないで、レオポルド二世が建てた凱旋

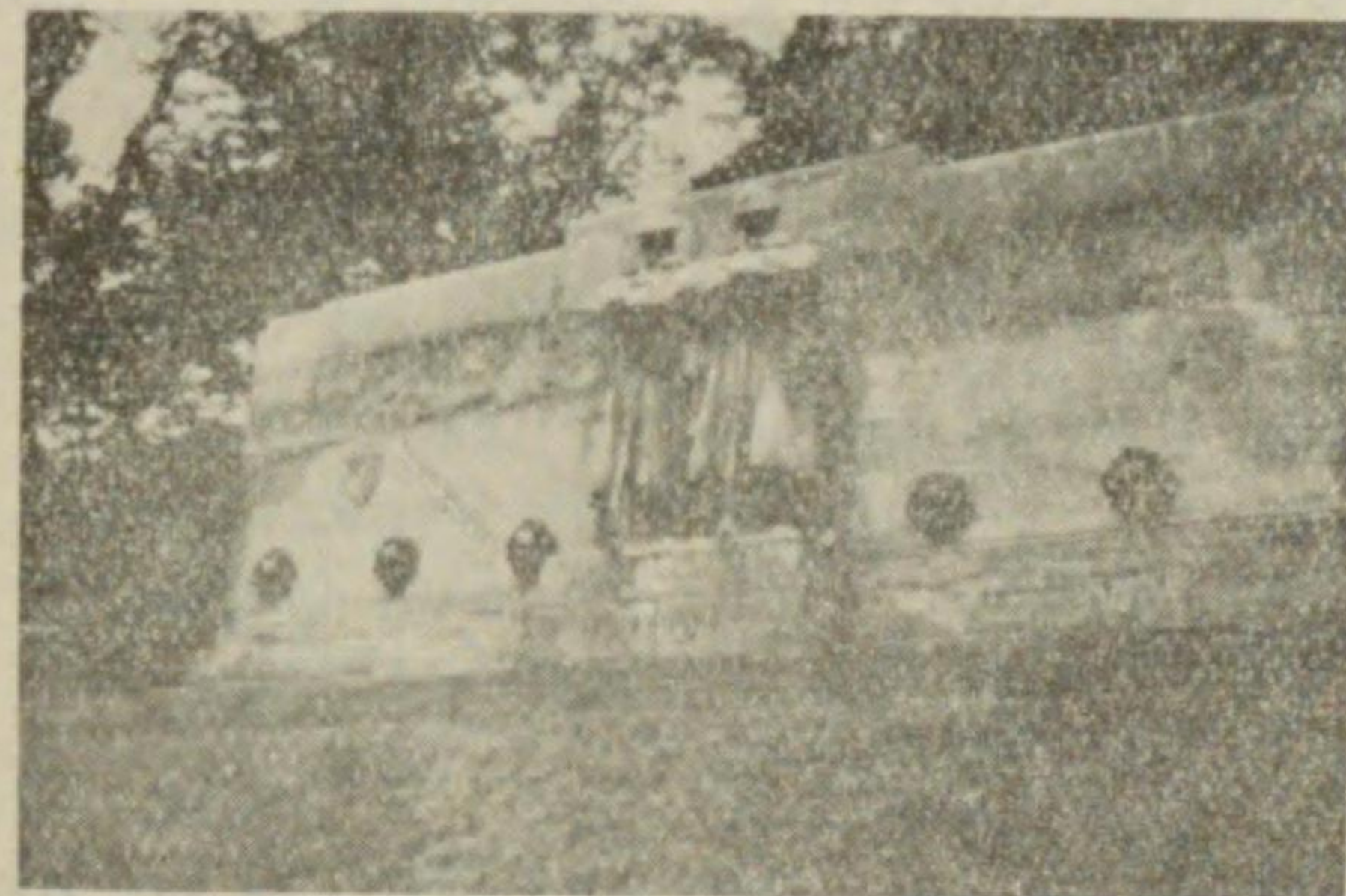


門を見る。前面に廣い街路樹があつてその向の高い所にあるアーチの雄大で、その上彫刻の奔放なる門の兩側に弧を畫いた畫廊等實に、すつきりした景色である。凡ての調和がよくとれて立派である。こゝの博物館には、レース類東西の古銅像、銀銅、ガラス器等が多いのである。

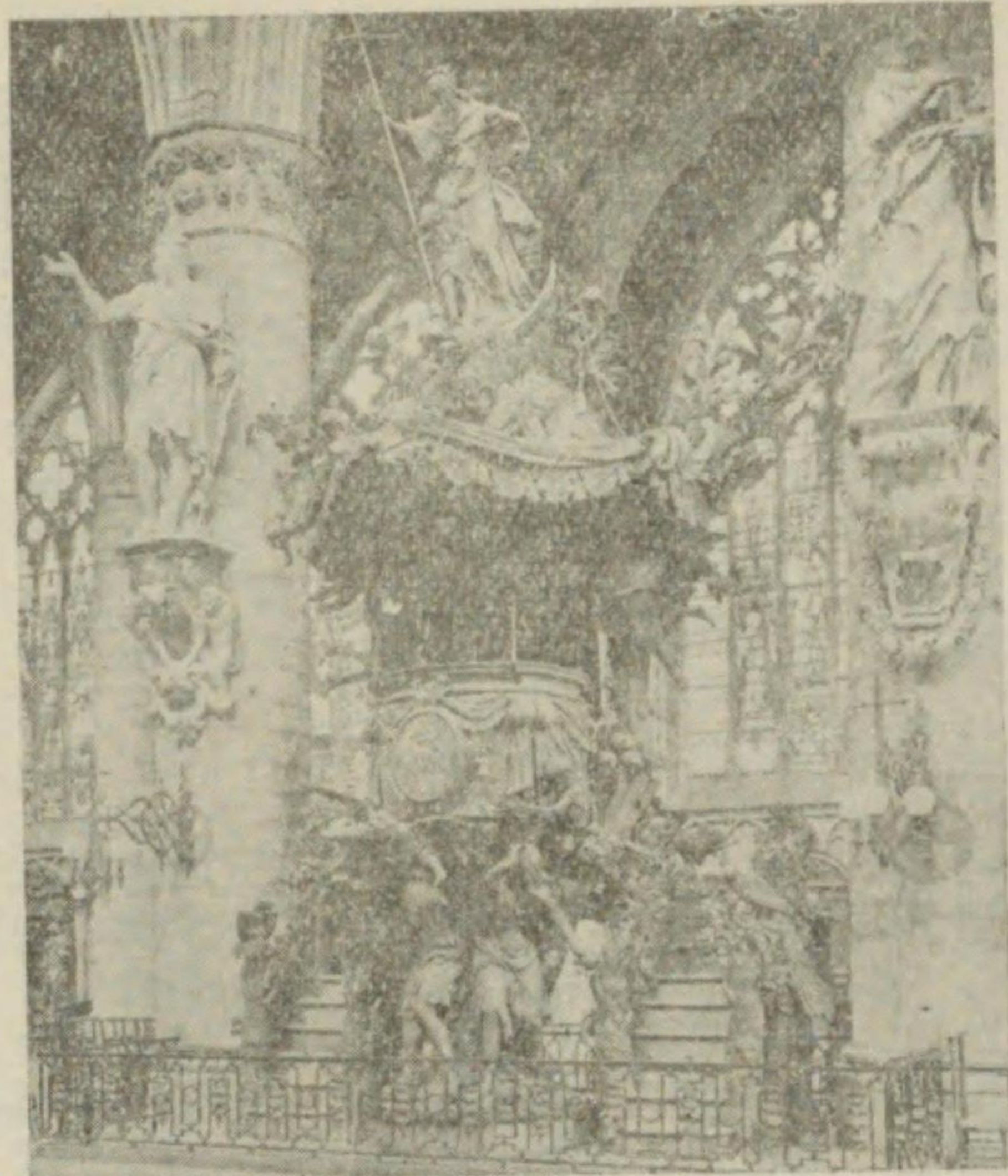
こゝを逆戻りして王宮の前へ行く。門前に衛兵が立つてゐる。寫眞をうつしかけると、捧げ銃をして、ニヤ／＼笑ふ。英國の衛兵などと趣が違ふ。今日は王が外出にならないから、國旗が立つてゐる。御不在の時は旗がなく、一部を公開されるといふ。門前をすぐ電車が音をたてゝ走つてゐるのも妙である。次に無名戦死の紀念柱に詣でる。この柱塔の上には一八三〇年ベルジウム獨立の紀念としてレホボルド一世の像を建て前面の二正の獅子の間にある墓石の上に花輪が捧げられ香煙が立上つてゐる。

こゝも丘の上で大へん眺望がよい。

Ste. Gudule のゴシック式寺院は十一世紀に建設せられ十四世紀に全部出来上つたのである。一六九九年に竣工した説教壇は天國追放の彫刻であつて、此れ程精密な彫刻は今迄あまり見なかつた。仲々精巧なもので古色を帯びてはゐるが、ステンドグラスや圓塔より



記念碑



Ste. Gudule 寺院の教壇

もこゝの参拜の價は之を見るにあると思ふ。こゝから、繪畫彫刻館へ入る。階下中央には新しい彫刻が澤山ある。向つて左の室には繪畫があるが二階は略して、マネキン、ビスといふ子供が小便してゐる像を見る。これは有名な像で、この國の戦勝の報をもたらして陣中へ参ると小ブリンスは立小便をして御座つたといふ話から、無邪氣で天真爛漫な像として世界に有名になつてゐる。大きいものかと思つたら、狭い町の四ツ角の店と店との間の凹んだ所に鐵柵をめぐらし、形の如く春雨一條蕭々として落ちてゐるのであつた。その前に土産物屋が二三軒あつて、この銅像の各種の模倣品を賣つてゐる。此の市中では何處にでもこの像の模型の立賣をしてゐる。それが大抵御叮嚀に背部からゴム管のスポイトに水を入れ、其水を押し出して見せて賣つてゐるのである。それからホテルダビルに行く。中央に廣場があつて花賣が花を澤山ならべてゐる。一方には四百何十階ある尖塔のある建物がある。これは昔の市民の集會所であつたのを、現在は結婚の式場に



てゐるらしい。外部の彫刻も見事である。その一つ一つを見ても古色の中に掬すべきものが多い。内部にはタペストリーが澤山あるとの事である。その前面にユーゴーハウスといふのがある。ローレン大侯の家と稱するもの、キングスハウスといふ家など何百年の由緒のある所である。こゝで暫く見物をする。餘程疲れるし二時近くになつたので、取引所の建物、アンスパク記念柱を見て晝食する。

食後同伴の人はウォーターローへ行き、私は宿に歸り、買物を置いて、タキシードをやとひ、大使館へゆく。二階へ上るとロンドンで御目にかゝつた山内大佐が居られた。こゝで

Ecole D'ecoly

Ecole No 13

の二校が善うといふので明日參觀の都合を電話で交渉してもらふ。前者は明日から夏休であるが構はなければ来てくれといふ。後者には市の學務課長も来るから来てくれとの返事である。厚意を謝して、壁間の日本浮世繪のタペストリーを見て、電車で元來た街を歸る。こゝは小巴里といはれる丈あつて街路樹が多く、諸處の廣場には種々の彫刻が程よくあしらつてあり氣持がよい。人の通りも恰度よろし。

植物園へ行つてその建物と丘を利用した花壇、彫刻の變化と林間の池、動物園等を見ると宿の近く

である。ロンドンと比べて非常に暑いので疲れて、ベッドで一寝入りする。目がさめて近處へゆきサンドウイツチとビールと、茶で夕飯にする。物賣が多い。ロンドンと同じくせむしと格別背の低い人間が折々見える。エハガキ賣りマツチ賣りの乞食も多い。何だか貧しい様である。電車も上等と下等とがあり二輛聯結が多い。兵士の服装も拙い、店頭も淋しい、宿に歸り日記をかく。

## デクロリー學校

七月九日

朝食を部屋で済し急ぎタキシードで昨日大使館紹介の私立小學校へゆく。大きな公園の朝は人通りもなく池の水、茂れる木、静かなものである。

郊外の村落に入るとき木の中に、Ecole D'ecoly と小さな門にかいてある。これか知らんと運轉手を従へ、グラ／＼坂を上ると、上の方に立派な大きい別荘風の家が見える。左手の芝生の向ふの垣根にかけて畑があり四五人の子供が耕してゐる。大きな芝草の二三千坪の斜面の急角度の上に學校があり、右手側には温室の大きいがある。そしてこの斜面の兩側は大きな栗の木の密生で自ら他と境をなしてこゝ丈の天地を作つてゐる。道は約一丁半程上つて、大きな花台の上に赤い草花が



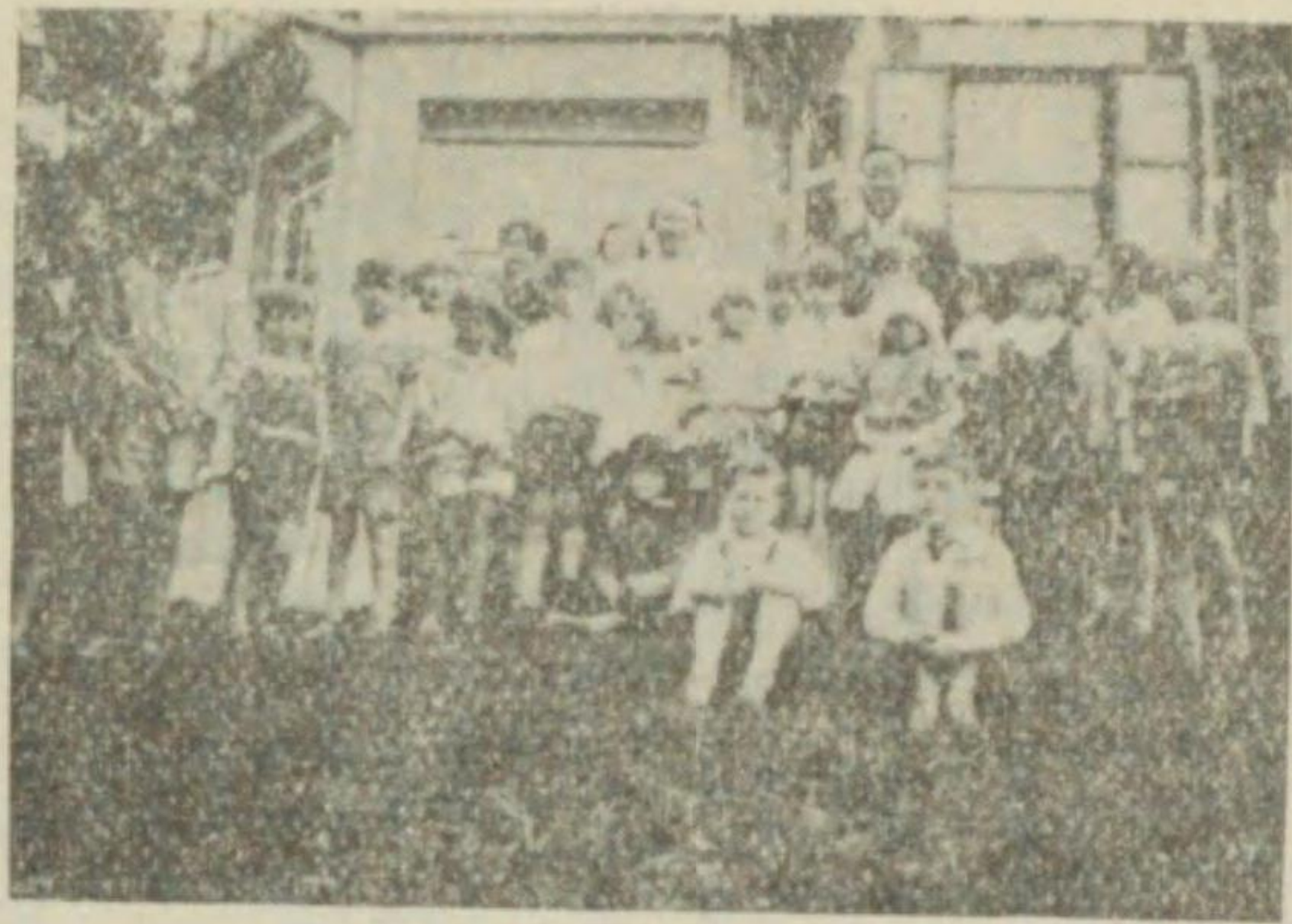
咲いてゐる所の、バルコニーに行く譯である。そのバルコニーにゐた先生は右へ廻つてくれといふ。右の方から裏へ廻ると、裏手は三十坪位の自動車置場みた様な所で子供が暮を吊つたりしてゐる。その前を通つて本館の裏口へ行くと校長ミスアメリーハメード先生が出て来た。四十歳位の如才のない人で早速二階の校長室へ誘はれる。

この學校はブラツセル市の醫學博士で心理學者であるデクロリー氏が寄附してこゝの本館へ移

轉してまだ間がながすが、“School to life, for life, through life”を標榜してこの二十年間私學の經營に力め、仲々新學校として評判のよい學校で一般にプロジェクト、メソッド式であるが「デクロリー、クラス」式として著書もあり仲々研究してゐるのである。

兒童は四歳以上十四歳迄男女共學である。案内に従つて裏庭へ出ると、物置の横に小動物園があり。兎、雞、鳩、小鳥類を大きな金網の中で飼育してゐる。その横の五六坪の部屋には女生徒が四五人印刷器で立派な二十頁位のパンフレットを印刷してゐた。カットも手際よく入れて玄人以上の出来栄である。

この部屋にも大きな圖を澤山かけて、各年級に配當して、觀察し



デクロリー小學校兒童と校長

たり採集したものを掛圖にかけてある。各年級共に同一教材を用ひるのである。

次に先程通つた温室へ行くと高さ二十尺もあり頗る大きいものである。中には専ら兒童が手作でトマトや菜、ブドーなどを栽培してゐる。先生はその菜の一つをとつて雞小屋へ入れてやつた。

こゝには寄宿はないのであるが、授業料は幼年部は一年七百法、高年部は一千法であるから、此國としては随分法外に高い授業料である。目下百五十人の兒童、十人の教師と七人の専科の先生が來て居るといふ。

地下室の食堂では料理をしてゐる。食事は二回に分け幼年部が食後午睡にかゝると高年部が一つの食卓に先生一人づゝついて食事をするといふ。幼兒は森、町、山、海などどとつてきたもの、又は繪などもはりつけたり、砂箱、感覺練習のもの、數を取扱ふ玩具、自然物を誠に子供らしく澤山集めてゐる。金で買ったものでなく、ありあはせのものを甘く利用してゐる所に妙味がある。學校の幼稚園へ行つたといふ氣持より、子供が御座敷で家庭にあるものを寄せ集めて遊んだり學んだりしてゐるといふ趣である。

八組中の下から第二組は七八歳の子供で、これも教室の周圍には、ねずみ、作品、着物、圖畫戸棚、標本、天氣圖、方位圖、砂箱、數學の問題の入つた紙袋などが處せまき迄置きならべてある。子供は明日の午後の夏休前の演藝會のため鳥の羽根に着色しに冠をこしらへたり、色々のスカ



トなどをこしらへてゐる。

校長の話に、此の學校では佛語讀本は別として一般に教科書を用ひません、教科書は子供と一緒に作るのです。子供が作るのですといふ。

七組へ行くと、天秤、理科器具、個人觀察帖、(地、歴、理)繪ハガキ、實驗道具等がおいである。圓卓によつて個人々々が別々に作業してゐる。×<sub>1</sub> ×<sub>2</sub> ×<sub>3</sub> ×<sub>4</sub> ×<sub>5</sub> などいふ問題をしてゐた。

四組には貝、鑛物、水草等が澤山おいてあつた。理科帖には、草花見取圖、切抜の繪などを貼りつけて自分に理科の帖を題目に従ひ持ちらへていくのである。

六組の子供は立方体の摸型と公式を書いたものを比較して運算してゐた。自己編纂の歴史帖には繪本から切り抜いたもの銅像をみてかいたものなどに説明を附してこしらへてゐた。

三組の若い女の先生は校長より英語が甘いので色々説明を聞く事が出来た。

日本でも此の式は非常によいと思ふが中等學校の入學試験などがあるから、此の通りではどうも困る。こゝでは入學試験に困りはしないかと尋ねると、矢張その積りで鹽梅をしていきます。ですから、アテネ、とか、リツシーへ入學は出来ませんといふ。

この學校に對し世間の批評はどうかときくと、市は非常に好意を持ち經費の補助をしてくれ、ブ

ラツセル市の低學年に此の學校の式が大分採用されました。參觀人も、ニュージランド、アメリカ支那、日本、英國、南米等から來ますといつて地圖に此の學校を中心として、參觀者の國から赤糸をひいて子供に示してある。

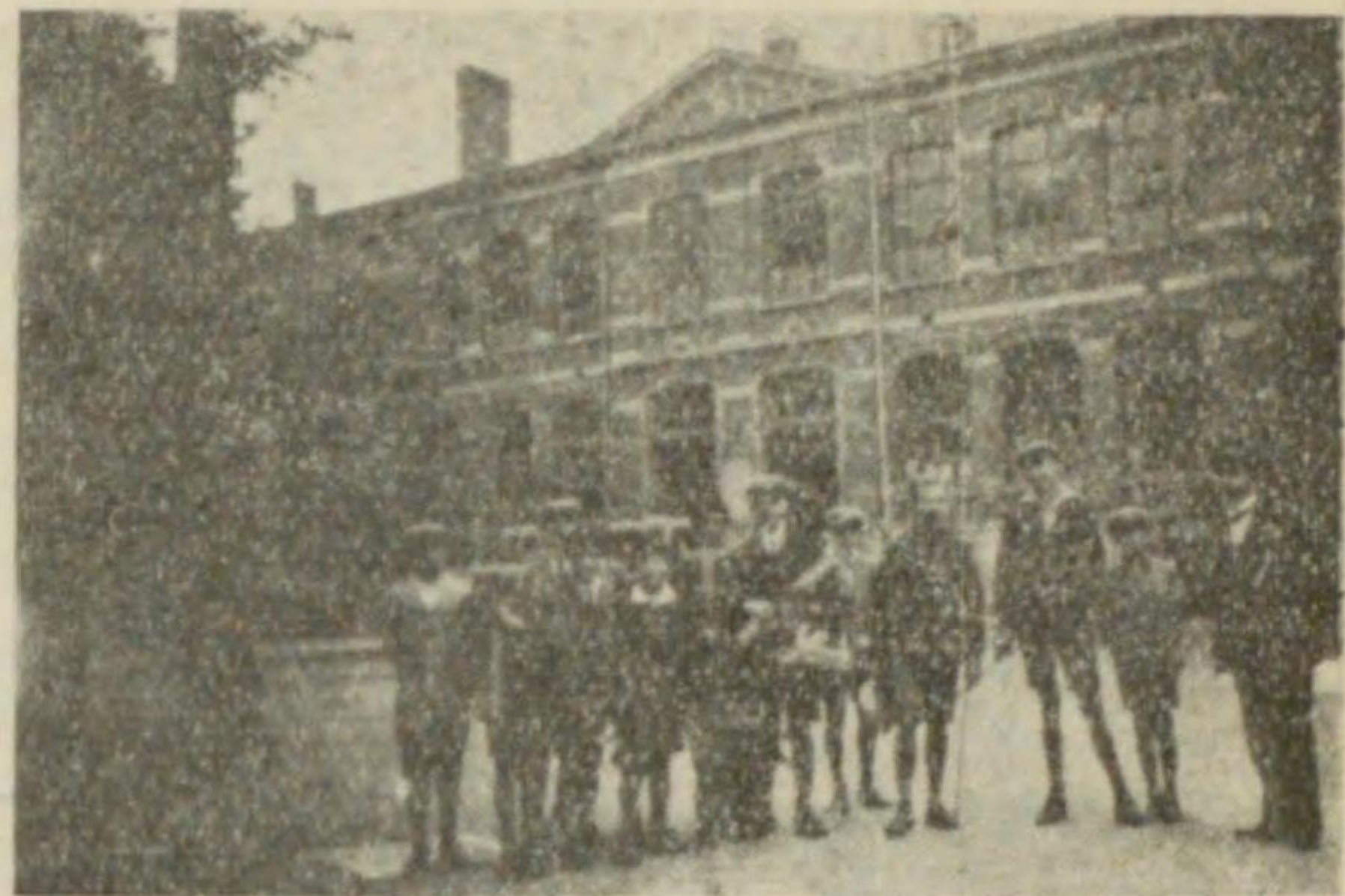
勿論誤解もありますが、毎學期一回父兄會をひらいて色々意見を交換します。クロリー博士が非常に熱心ですからやりよいのですと答へる。一週間に午後四時迄は三日で後三日は午前中の授業である。

再び校長が來たので、一口にいふと、どういふ主義かと尋ねると、「自由、個性尊重、興味中心」の主義であるといふ。詳しくは拙著を見てくれといふ。この本を譯しても善いかと尋ねると、私は宜しいが一度本屋へ聞いて見てくれといふ。

兎に角丘と山と森の學校で、閑靜な所である。少數の子供を教育するのに理想郷といふべきである。寫眞を寫さしてくれといふと幼兒と一緒に、バルコニーの前の芝草へ喜んで出て、私も一緒に寫す。道が分らんから送りませうと、子供を連れ、坂道を門の所まで送り出して握手をして分れた。

それから、電車にのつて行く中に、タキシードを見付けたから飛下りて、十三區の小學校へ走らす。運轉手何と間違へたか、大使館の前で車を止めた。いや違ふといふ譯で、そこらの子供に聞合





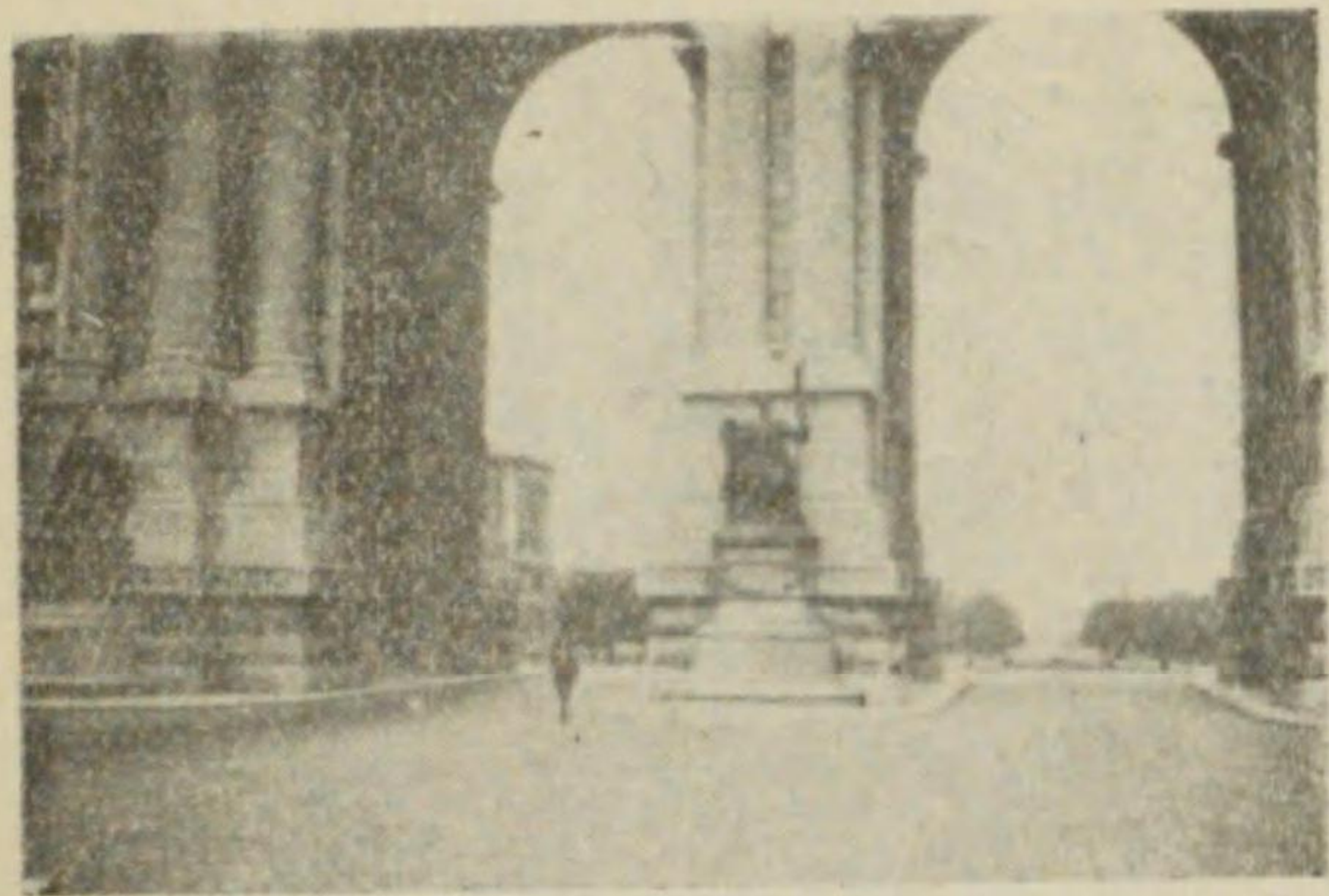
ブラッセル第十三小學校

せ、近處の學校へゆく。門から入ると校庭も廣い、大きなホールは七十坪位あつて、ベルギー兵士の大理石像がある。

校長室へ入ると、この市の教育課長も来てくれ共に案内してくれる。もう今日は午前中で授業が終るのである。一体に習字が巧であると思つた。雨天体操場と、講演室などは別館で又別館には幼稚園がある。こゝで、遊戯をして見せてもらった。大きな風車をこしらへ遊戯も風車の曲であり、花籠をもつた遊戯などはかはらしい。

それから本館の下の寫眞室、病室、手工室などを見る。三棟平行に並んで中央に夫々運動場があり、樹木も多く、ロンドンの小學校よりも、ゆつたりして日本の小學校に似た感が多い。但し戦後の爲か建物は善いが、器具標本類は殆どないといつてよい。手工室も二室あつたが手工器具はなかつた。

それから料理室へゆく。菜を小さく切つて米粒を入れた様な、スープを作つてゐた。課長の言付で大きな皿に一杯スープを入れてもらつて、此の髯の黒い、一寸氣取り家であるが人好きのする課長とスープを一杯宛馳走になる。愛嬌のある料理長の女に二法與へる。課長はその様なことをしなくて宜しいといつたが邦貨の十二錢である。その女は、馬齡薯と何かと煮つぶしたのを食べよとい



ブラッセル紀念門

つたが辭して食堂へ行くと子供が廿人位、アルミのコップに湯を入れ皿をおいて待つてゐた。晝食は無料で給するのであるといふ。

課長と校長に絹ハンケチと繪ハガキを呈し、此處を出てタキシードで宿に歸る。吉野君も一時一分發で、アントワープに向ふといふので驛へ荷物をかつがし二等車に乗る。これでも日本の一等よりは宜い。田圃の圃を走つて一時間でアントワープに着く。驛の横の、ホテル、ターミナスに行く。

室があるかといふと七〇法だといふ。安いのではないかといふと五十法もあるといふ。そこで行つて見ると第一階の立派な部屋で、ダブルベッドである。如何にも安い。ステージ付の食堂もありヴライチングルーム、大理石の大きな階段にカーペット等勿体ない程立派である。

荷物をおいて近處で午食を共にし、驛の横の動物園へ行く。公園らしくしてあり、樂隊が奏樂してゐる。象も、獅子も水族館も自然のまゝにして尙清潔に手際よく出来てゐる。

修學旅行の生徒が多い。水牛の前で、粘土で形をとつてゐる彫刻家を寫眞に失敬する。それから、驛前の馬車屋の山高帽の爺さんを

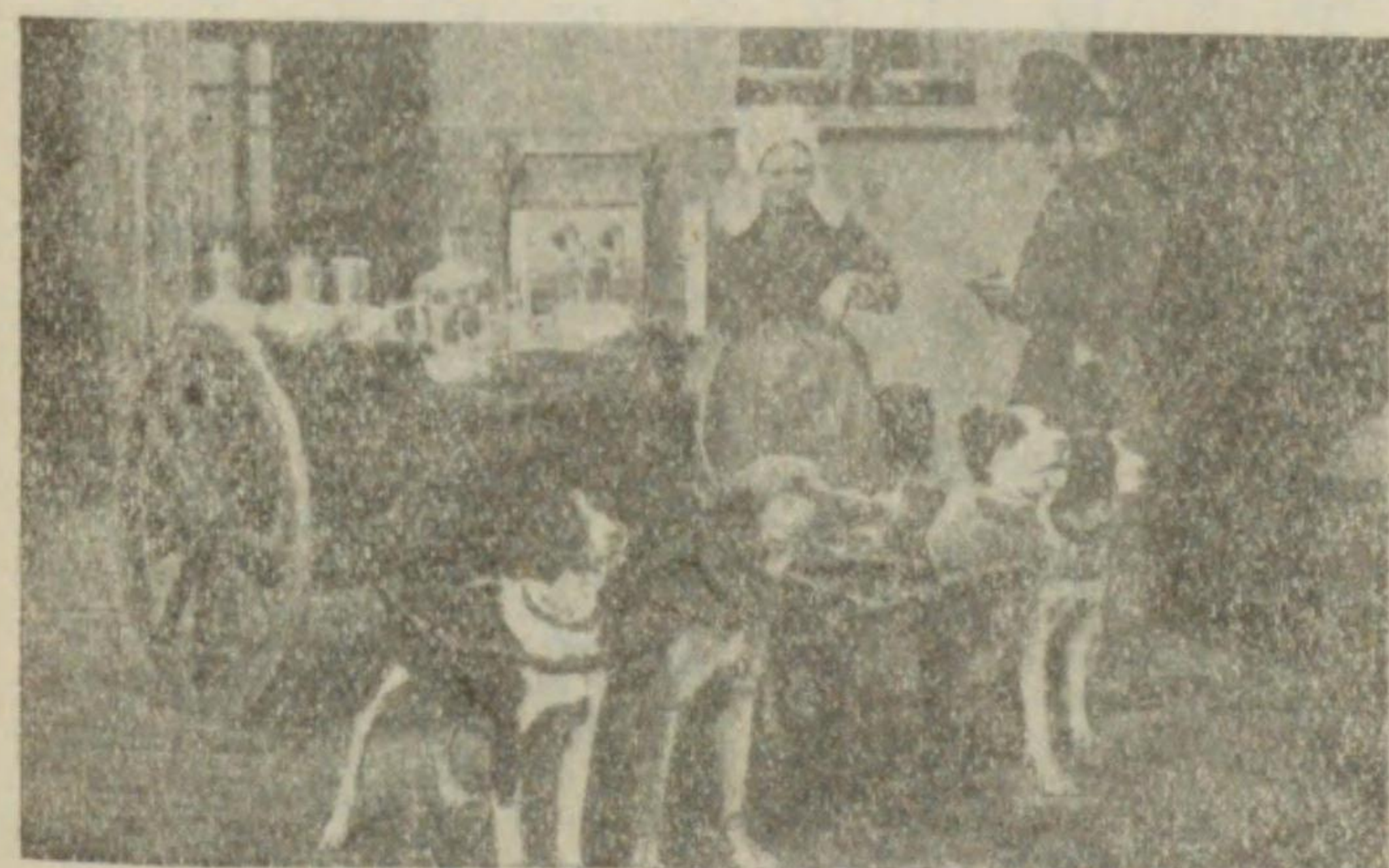


二三人順々に聞いて英語の話せるのに、この市中の案内をせよといふと、二時間三十法であるといふ。兩人馬車にのつて、かつく〜と行く。

アントワープは港町で汚い所と思つてゐたが、ブラッセルよりも街幅も廣く、銀行、オペラ、公園、並木道等スツパリしてゐる。カフェーで飲物をのみ乍ら話してゐる人も多い。ドツクへ行く。如何にも廣い、右も左も、あちらもこちらもとても、總てを見ることは出来ない。

汽車の線、荷馬車、手傳人足等あちこちしてゐる。ずつと行つて、川の堤の上から遙に、ノートルダム塔と、アメリカ通ひの大きな船を見る。引かへして、日本郵船支店の前の古い城と寺と一緒になつた様なのを見る。カフェー、バー、女、貧乏人、立飲する男、如何はしい女もあるが、晝は割合に殺氣みなぎることもなく長閑である。

それから公園をまはつて二時間半ほど経て歸る。人の善い爺さんに十法多くやる。格別有難がりもせず、につこり笑つて「メルシー」といふ。



アントワープ

顔を洗つて、「ヅー、ボデガ」といふ頗る濼い設備の家で茶と菓子喰ひ夕飯にする。それから、ノートルダム寺院へ行く。此の尖塔は實に高い。中へ入ると彫刻が多い。ルーバンの繪は日によると幕をあげるが、今日は幕がかゝつてゐた。然し聖壇の所の繪は見えた。ステインド、グラスも美しく、實に立派な寺である。

薄暗い横のチャペルを見ると、懺悔台で若い女が、懺悔をして、僧が一方から聞いてゐた。女は黒い着物に白い顔を「イーエ」と横に振つてゐた。何だか見馴れぬ光景ではあつた。このあたりの店を見る。寺の裏の木蔭の廣場の奏樂堂で又樂隊をやつてゐる。大勢労働者風の人間が聞いてゐる。一曲終つてもあまり拍手もしない。

和蘭の婦人がぼつ〜見物に来てゐる。妙な風采である。白いかつぎらしいものをつけてゐる。宿へ歸る。若い女中だが、風呂といふことが通ぜぬ。身体を洗ふ眞似をすると、石鹼や、タオルをとつて来て見せる。英人が、デスクの所に居て通譯してくれる。英語の話せぬ女中である。大笑である。

食堂のステージでは奏樂をして圓卓に大勢の人が聞いてゐるが、こちらは疲れてゐるから部屋に引こもる。ベルギーは物價が安いといふが丸二日で五十圓位要つた。これでは何にもならない。安い所では自然油斷する。物價の高い所では注意するから割合多く要らないのは妙な現象である。



久し振りで入浴して氣持がよい。

へーグへ

七月十日

早起用意を整へたが、早過ぎた。下へ行つて見ると、下女が大理石の床石を拭うて居り、大きな帖場の片隅で番人が、トーストを焼いてゐる。まだ一時間もあるので、室へ歸り靴をはいた儘半身をベッドにのせ、とろりと眠る。

今度は都合よい時間であつたので、支拂をすます。チップも含んである。ホテルのポーターに靴を持たせ驛へ行き汽車に乗込む。この驛は實に堂々たる驛で宮殿の様な外觀を呈してゐる。一時間程で和蘭國境に入る。牧場が多い。この邊の牛は白と黒のマダラで、名物の大きな風車が遠方に見える。誠に風情のあるものである。堀が多い、土地が低い、牧場にしなければ、外の作物は出来難いのだらう。雑木の並木が一直線に平野を走つてゐる。羊は少く、殆ど見當らぬ。

水郷である。農家が点々としてゐる。農家といつても日本の文化住宅風の家で格別古い家は見えない。税關吏が車中へ廻つて來た。一つの手さげを見た丈で外は見ぬ。

やがて、ロツテルダムを通過する。川に小蒸汽船が多い。家が櫛比してゐる。波止場、造船所、海運の諸機關が見える。日曜を着飾つて通つてゐる女もある。堀割が多い、水が満々と流れてゐる。

七月の上天氣である、空が明るい。やがてへーグに着く。十一時過である。クツク社の男のいふ通り、タキシードに乗つて、ハンブルグ行の驛へ行く。手荷物を預ける。構内で、白耳義の金を、和蘭のギルターにかへる。小さい銀貨がある。ほんの四五間の間運んでくれたポーターにベルジウム銀貨の残りをみなやつたらいらんといふ。それでその小さい銀貨を二つやつたら、タキシードの運轉手にこれみよと見せてゐる。もう一枚やつて、運轉手に支拂ふ。初めて金をかへたのだから分らなかつたが成程少いには違ひない。然しこの米粒程の銀貨でも郊外の海濱へ行ける電車賃になるのである。それから、平和宮を聞いて電車で行く。大きな建物である。カーネギーの寄附したものである。

然し外觀は、素朴であつて、大きいといふ丈で、今迄寺院を見つけてゐるものには少し飽き足るまい。門がしまつてゐる。案内人が四五人の人々を送り出して來た番人に見せてくれといふと日曜は午前中だから氣の毒だがいけぬといふ。そこで、鐵の門の開いたを幸ひ、二ギルターをそつとつかまして一分間丈見せてくれといふと、では簡單に見せようといふ。

門から建物迄は大分ある。廣場である。玄關を入つて右に折れると正義と平和の像がある。フラ



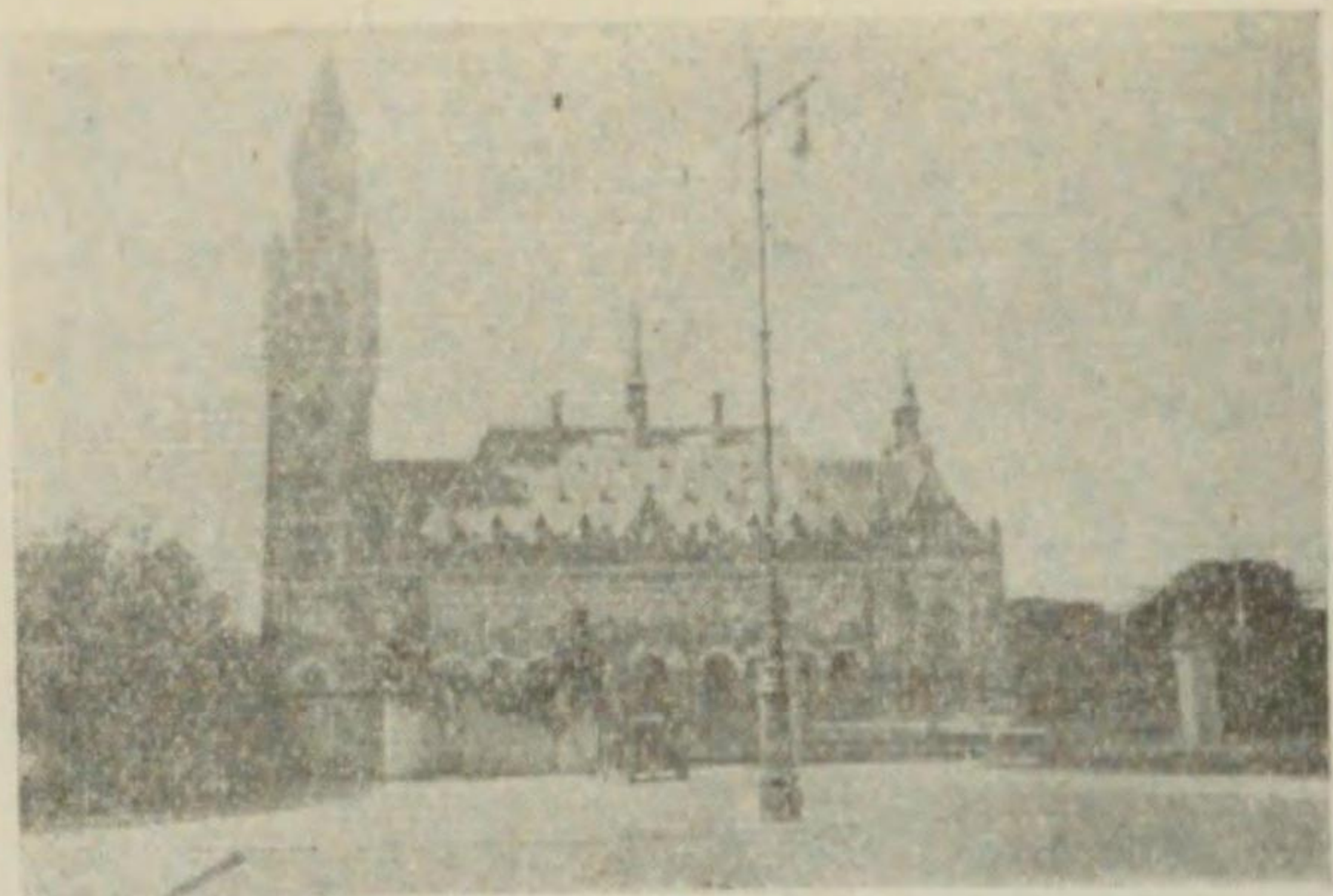
ンス國の寄附である。この國際會議室は立派である。上品で奥床しく七十坪位の間である。英國はステインドグラスと此室一杯のカーペットを寄附してゐる。窓の下は勾配になつて池がある。草花と、池の向ふの森とは静かである。高い木のパネルも落付いてゐる。

待合室はオーストリアのマーブルで飾り、ルーマニアのジャバチーク、アメリカの正義の像もある。二階へ上る段の上に、シナイ山のキリストの像に眞似た彫刻が立つてゐる。窓はオランダ國寄附といふ。日本はタペストリーである。五枚程になつて壁一杯に自然の平和を表はしてゐる。朝、晝、晩の春庭花鳥の圖柄で、しつとりと落附いた構圖である。格別目立つけばくしたものでない。心を休めるにはよい繪で、この織物も日本の誇りとなすに足るであらう。

支那は四個の花瓶で高さ七八尺もある。これもも仲々宜い。トルコのカーペットは大きなものである。夫々御國自慢を寄附したものである。

それから下へ降り、タイビストルームを通つて、國際司法裁判所を見る。この案を提出した露國皇帝ニコラスの像もある。「ブリアマン」だと案内人がいふ。國際公法の本のある部屋、國際仲裁々判所の秘書室を見る。そのドアは、ブラジルの寄附である。エレベーターで下りる。このリフトの中天井も上品に出来てゐる。このリフトで世界の外交家が上下するのである。

中庭に、デンマークが、ラツコの陶器の噴水台を泉水に配置してある。コート、オフ、ジャスチ



平和宮

スの小集會室、タペストリーも國際平和を表した派手な繪である。天井の組格子は日本式で頗る趣味がある。

露國寄附の大きな花瓶はジャスパールで作つてある。エドワード皇帝の像、こゝに出入する各國の人々の寫眞もかけてある。

こゝへ出て、有名なシュケビンゲンの森へ電車で行く。池と川と自然の低い丘と樹木の密生は晝も小暗い。大勢人が歩いてゐる。

終点へゆくと、海岸になつて、大きなホテルがある。二哩が程は海岸に沿うて、繪ハガキや、喫茶店、ホテルのベランダ等があり。

美しい歩道に添うて何萬の人が往來する。空はかつきり晴れて七月の太陽が照らす。砂濱には籐でつくつた椅子兼日覆が何千とあつてそれに眠つてゐるもの、本をよむもの、ものを喰ふもの、砂の上にねころぶ者、澤山の人である。

この海中へ三町程棧橋が出て、その端に見せ物の建物がある。海の青い波が、砂を白く噛む。泳いでゐる者は少い。女が澤山、自動車で往來する。此國獨特の妙な姿をした百姓の婦人が通る。近頃の短いスカートに斷髪の女を見馴れてゐる目には格別異國的情緒が起る。可愛い顔の娘もある。ひそかに寫眞にとりかけると笑つて逃げる。



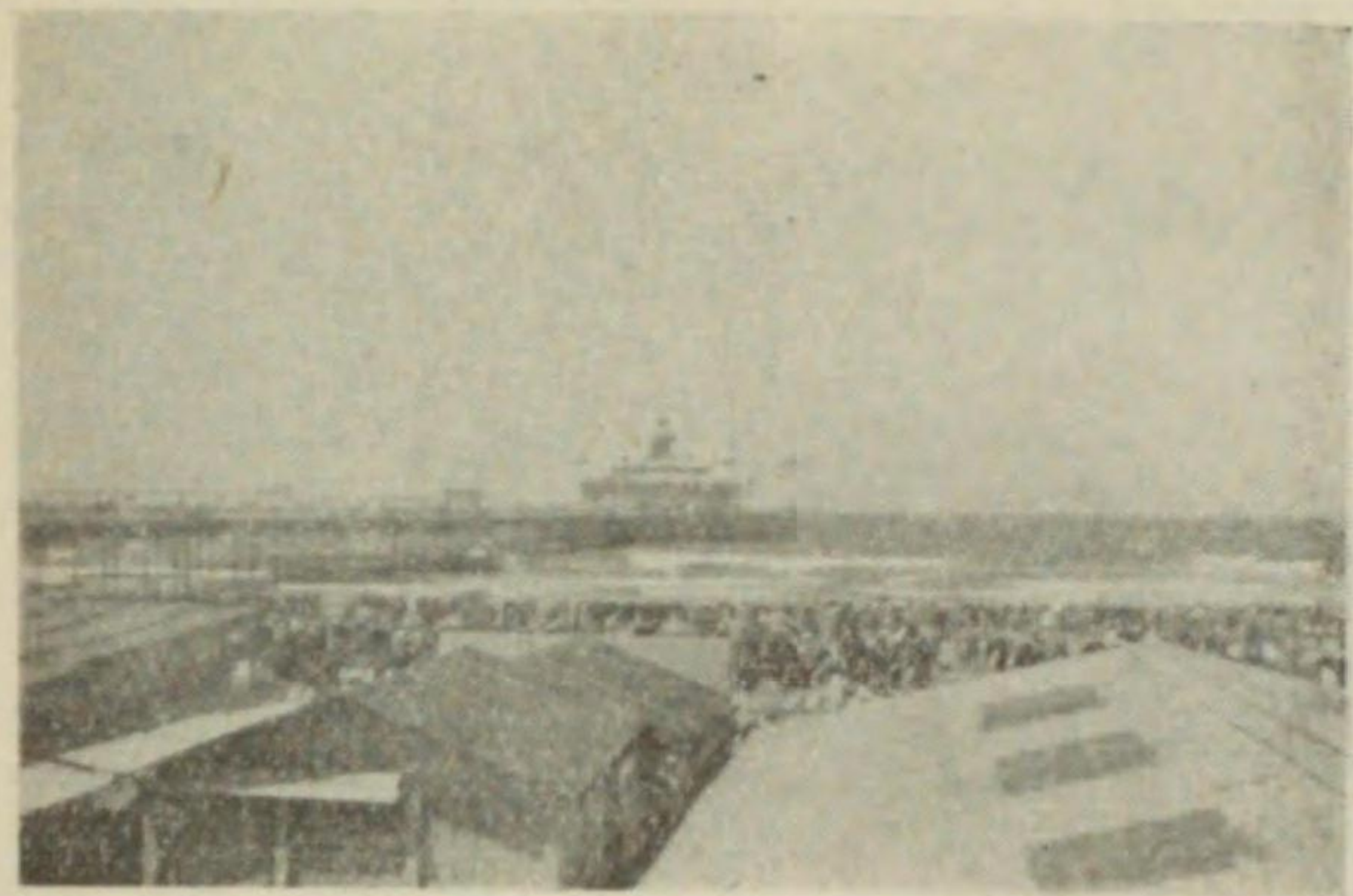
砂濱に添うた、茶店で晝飯を兼ねて茶と菓子にする。大きなホテルの上に此の國の三條線旗がなびく。

此處は北海の「寶玉」といつて、スイス、ドイツ、フランス、英國などから夏季に集る人が多いらしい。

こゝから電車にのり、「モリツハウス」繪畫館へゆく。レンブラントの人像の出品が多い。殊に醫師解剖圖が有名なのである。ポツターの牛の圖は世界的に有名で大勢のアメリカ人にガイドが説明してゐる。

古畫宗教畫、ダイクの人像、ベラスケスのもの、ルーベンの果樹園、アダム、イブなどもある。

繪ハガキを買ひ、近處で、市の地圖を買つて、此の繪畫館の裏の池と島と並木を見つゝ、王宮へ行く。ウイリアム一世乗馬の像が門前に立つてゐる。王宮といつても、二階建白塗の凹字形の小さいものでその兩側にはすぐ商家がひつついてゐるのである。それから、寺へ行つたが入られないので、廣場に救世軍が大天幕を張り壇上に二十人の樂隊と傳導師百人位居り、下には三四百人合唱してゐる所



シユケブニゲン

へ入る。歌をきいて、寄附をして出る。

目抜の通りは美しいが、日曜は恐しい程休業で、煙草屋だけが折々開いてゐる丈である。行人は不思議そうにこちらを見る。

大きな聲で年と女と喧嘩しつゝ路次から出る。澤山な人ばかり昂奮の時の様子は東西同じだ。驛へ歸つて荷物を受取り、一ポンドドイツの貨幣に代へようと思つたが、ドイツチエとグツチと先方が間違つて、後で汽車中で見ると、何んだ、オランダの金を又候もらつて來てゐた。

六時過に度々車掌に念を押して乗替の場所をきき發車。田園は稍田舎くさくなる。二三十間おきに長い堀がある。牛の牧場は同じ。ユトレヒトを通る。一寸よい町で、此處の寺院の三二一呎の高さの塔から和蘭全体が見えると誇る所である。車中、オランダの青年と色々話す。

アマースフットで乗替る。一時間位の間に驛のカフェーで食事する。一体にオランダの驛はきれいである。これから乗替ると夕陽が十時頃に沈む。私の部屋は六人の所が二人丈である。パスポールの調べがあり、十一時頃に、税關吏が来る。調べは簡單である。



ヘーグ王宮



七日月が黒い森のかなたにある。ドイツに來たなと思ふ。横になつて、入口にカーテンをひき吞氣にねる。ブレイメンで、連の男が「有難う」といつて出たが市の様子を見る元氣もなく、目をつぶつた。

## ハンブルグ

七月十一日

がや／＼音がするので目をあけると皆下車してゐる。靴をはいてきくと、ハンブルグである。急いで下りる。ポーターに頼んで荷物を預ける。所がドイツの金がない。どこかの宿引がかへてやうと親切にいふ。人の悪い様な顔付でもなし、代へてもらつた。赤帽にはオランダ金を餘計にやり食堂へ入る。服装の悪いのが大勢入つてゐる。

パンと茶で朝飯をすまし、有料便所へ入つたが、まだ七時で雨がひどい。預けたトランクの中にはレーンコートが入れてある。驛を出ると、博物館がある。そこへ行くと十時からであるといふ。石に腰かけてタバコを喫む。雨よけとどうしようかといふ思案とである。雨がふれば仕方がない。十時になつたので中に入つて見たが、極めて出品が少い。

陶器にはおどけたものゝ像が大分ある。この國の婦人の古い服装や、陶器などが珍らしい位のもの。十一時にこゝを出たがまだ雨は止まぬ。驛の近處にホテルが多い。

裏町へゆく。一軒入つてきくと、六マークであるといふ。今度の家へ行くと、爺さん媪さんが出て来て、一晚四マーク半で朝は、茶とパンだといふ。爺さんは少し英語が分る。

室を一寸見るとせまくて、リバープールの宿より劣る位だ。これにして、驛へ荷物をとりに行つてもらふ。こゝは二階丈のプラットで四五室あるらしい。一寸午睡して、三時頃出て、ビールと、ピフテキで食事一圓三十錢位要つた。

それから、レバントハウスの三井物産(ドイツ物産と改稱)の伊藤氏を尋ね、大阪赤十字社の井岡氏にあひ、總領事の來栖三郎氏に、日本のこと、各國の近狀、ドイツのこと、國際聯盟のことなどをきき、ゲマイン、シャフト、シュレーの研究の爲め市の教育課へ紹介を頼み、明朝來訪のことにし、色々話を承つて、散歩して宿に歸る。

朝、驛の兩替屋が素人下宿を電話できいてくれ、正午頃迄に調べておくといつたが行けなかつた。

夕方アルスター湖へ散策する。カッターやボートを浮べてゐるのが多い。市中に此の様な湖水のあるのは珍らしい。湖岸に燈火明るく奏樂してゐる家もある。夕飯をと思ふと、兩替をしてないの



で一マークしかない。日本であれば一マークで何でも食べられるが勝手が分らぬ。驛へ行つてピスケットでも買はうと思つて、行くと、十時過であるのに兩替屋が開いてゐる。早速五ポンド替へて危く饑餓を免れる。驛の食堂で食事をしたが、食事はどうも高い。驛の前にツワイスの大きな望遠鏡を据ゑて月を眺めさせてゐる。二十フエニヒ拂つて見物し、歸つてねる。隣室が、がた／＼して一時頃迄ねむれなかつた。

七月十二日

八時過に主婦が、パンにバタをつけ、コーヒと共に持つて来てくれた。朝食後ドイツ物産へ行き次に階下の領事館へゆく。このレバントハウスは、エレベーターが、エスカレーターの立箱になつてゐる。自働式だから、パット入つて その階で出れば善いのだが氣味が悪い。

副領事が大變親切に色々面倒を見てくれる。今日はハンブルグのフェリエンコロニー(臨海學校)を視察するが宜からうとて、教へてもらひ、タキシードでエルベ河の第七渡船場へ行く。兩岸に、渡船場が澤山あり、汽船、渡し船、ガントリクレーン倉庫等が林立してゐる。

子供が大勢待つてゐる。やがて汽船に乗込み右岸の丘の上の家、丘の下の倉庫や船を眺めつゝ進む。十四五分すると支流があり、左のマツケンダムにつく。入場券を買つて行くと、この川の岸

が砂濱で、對岸は青い草の堤と遠く造船所や、アメリカ通ひの大きな汽船等が堤のあちらに見えるので、この市としては此處は臨海學校として善い所であらう。川に添うて數丁の間、子供が裸体になつて遊んでゐる。砂遊びをする者、古い毛布で天幕をこしらへて中に入つてゐる者、フットボールをする者、旗をたてたり、木の船を浮べたりしてゐる者もある。

十數本の木もあり、中央に四五十坪の炊事場がある。兩側に平家バラック建の七間に二十間位のがつしりした食堂が二棟ある。窓もなく、机と腰掛が數列ならんでゐる。

先生が數人來て喜んで説明してくれる。こゝは臨海學校として當市二ヶ所中の一ヶ所で七月の初めから九月の初めまで開くのであつて、大部分は中流及びそれ以下の子弟である。一週三マーク半一圓七十錢納付すると、渡船及食事を給與するのである。

大抵水泳の心得のある者で六歳より十四歳迄の兒童が三千人來て、三十人につき一人の監督を附してゐる。朝食は、パンにココア、午食は肉とか芋、米などで午後は茶と牛乳を與へる。

學課は少しもやらない。七月の夏休中、小學校の先生は來ない。看護婦は三人で六歳以下の者は体格検査をして許可するのである。

赤いふんどしをした子供、帽は殆どきてゐない。全く日本のなどに比べると自由である。炊事場へ行くと十人位の女が、大きな釜で粥をたいてゐる。釜は直徑二米突位あり、蓋は發條仕掛で開





ハンブルグ臨海學校

く、立派なものである。食堂へ行くと、裸体のまゝ机の上に七八合も入る皿に粥を分けてもらつてゐる。二三回に分けて與へるらしい炊事具の堂々たるのには感心した。

水は赤濁であるが、背のたつ所を境として杭を建て針金を引いてある。

幼児は午睡をする。規則好きのドイツではあるが、餘り規律とか點呼は喧しくいはぬらしい。然しこゝへ一ヶ月以上來ることによつて身体は丈夫になる事であらう。

先生と生徒とは色々話しかける。三時間の間たてつづけに話す。

生徒の中にも英語が分り質問をする子供がある。直ぐ仲好になつて名刺をやつたり寫真をとつてやつたりする。彼等は私を砂の上で取巻いて、旅行の歌をきかせてくれる。先生には日本の繪ハガキなどを分けてやり、色々この市の教育事情を聞く。

先方も裸体のまゝで話すのだから全く打解けて、外國へ來てゐるとは思はなかつた。午後二時半迄見て歸る。その時でもまだ、續々と母親などに連れられて大勢來てゐた。嬉々として、古ぼけた帽子、汚いシャツを着た儘平氣で小蒸汽船にのつて來る。

空は青く、港口の支流の間に——腕——クールブランド——と呼ばれるこの地点は極めて靜かに、前の支流を上流の町へ通ふ汽船に乘客をつんだのが、長閑に上つて行つた丈で三千の子供は吾を忘れて太陽と水と砂とに親しむのである。

それから歸途、ハンブルグの港の活氣ある狀況を見て宿に歸る。領事館へ電話で明日の視察の打合せをした。夕食後博物館前へゆく。

こゝには此市の市立体育場があつて、女學生が五六人宛組に分れて運動してゐる。白の半シャツに黒のブラウス極めて短く股の半分位のを穿いて、盛に運動してゐる。金棒、平行棒、フットボール等である。その運動の輕快で活潑なものには感心した。毎週夕方二回來て指導をうけるのであるといふ。

それが一時間程ですむと、今度は男子の棒体操である。子供、青年、老人——頭の禿げた老人が十人位混つてゐた。半シャツに股引で教師の號令によつて体操をする。皆自發的に來るのである。如何にも体育熱の盛んなのを見て感心した。

運動場は大きな建物と、グラウンドが一千四五百坪である。周圍には樹木を植ゑその柵にもたれて大勢見物してゐる。



七月十三日

十一時頃領事館へ行く。六月廿六日迄の日本の新聞が来てゐる。大阪醫大福原博士の死を知り驚く。十二時ドイツ人テツメ氏來り同伴して市の教育課長ウムラウフ氏を訪ひ、教育上の意見をきく。殊に當市のゲマインシャフトシューレに就て説明をきく。氏は昨年度の當市の學事年報の立派なるものを一部與へられ、本年の分は伯林の方へ送るべしと約された。

ゲマイン、シャフト、シューレは新しい型の學校で、舊來の型を破り兒童本位の教育に立脚しようといふのである。そこで休暇中では非學校を見せてくれ、大休教室の模様などを見れば一斑が窺へるからと願うと視學を呼んで同伴して、ブーイツヒ町のフォーク、シューレ (Burgstrassen Schule) へつれて行つてくれた。これは新築の立派な學校で、校地は二千五百坪もあるであらう。三階建の本館と別に雨天体操場がある。

教師四〇人、兒童七百人で男女共學である。教員室、音楽室を見る。こゝには先日芝居をしたあとが大分残つてゐる。父兄會室、これは父兄の委員などの來る部屋である。

廊下は木のブロックを組んで敷き、幅も二米半位あり随分廣い。二年生の部屋には三尺に六尺位の砂箱があり、別に丈夫な本棚が各兒童の爲に作つてあつた。廊下に成績品の小さい戸棚がある。

手工室は三つある。陶器の簡單なものをやつたり、厚紙細工、各種木工などをする室と、重に金

工、即ち十能、金筆、なまこ板細工、ろうそく立、灰皿などを作る部屋とがある。金工室には足踏フイゴや丈夫な萬力八個あり、ドイツ風のがつしりした物を作るらしい。

圖畫室の机兼寫生台は餘り窮窟すぎると思つた。寫生材料には壺類が多かつた。成績は餘りよくない。女子手工室には、ビール箱などを利用して手細工で織機を十四五こしらへ、縦糸をこしらへて、機を織つてゐるらしい。これは餘り他では見なかつた。

理科の兒童實驗室は三つあつた。實驗台に電氣ガス水道等がついて居り、物理の實驗材料も相當にある。廊下の棚には天秤を二十位置いてあつた。

圖書室はなかつた。博物の標本は少い。屋内運動場は百三四十坪あつて、平行棒、梯子、アレイ肋木等がすゑてあつた。戶外運動場は一千五百坪位あり仲々廣い。英國の小學校とは比べものにならない。然し教具材料等は大阪市内の小學校にはとても及ばない。

こゝに於て日本の小學教師は大に考へる必要がある。日本は學校の建築に於て、運動場に於て、教具材料に於て決して劣つてゐないのであるが、果してどの点に於て外國に劣つてゐるかを考へる必要がある。

その視學の言ふに、日本の佐々木氏の道德教育説を読みました。ドイツも智識よりも德育を大いにやらねばならんと考へてゐます。尙當市は五ヶ年に十九校新築するのです、と大なる意氣込を示し



た。タキシードで視學を市役所へ送り届け、總領事館へより禮をのべ、デンマルク、スエーデン領事館へ査証をとりに行つたが午後二時半であつたが早閉ぢてあつた。

一旦歸つて寫眞屋へフィルムを取りにゆく。「庄野さん」と言つてフィルムに就て色々注意してやつてくれる。實に感心だと思つた。夕食後驛の前の劇場へ行く。何時の間に行つたのか二千人位の人が見物してゐた。出しものは裸体に近い位の服装をした少女が踊るのであつて、舞台の結構、幕、出し物等實に次から／＼と電氣照明で息も繼がせぬ美麗なものである。然し筋も何もなく、變化と多人數と五千着あるといふ世界各國の衣裳とダンス位のことでは芝居ではないのである。戰敗國とはいへ仲々派手に賑やかにしてゐた。ダンスのフォームに善いのがあつたが、よい歌い手はなかつた。目まぐるしさと華かさで人の目を奪ふ丈では物足りなかつた。

この近處のホテルの前の街角に大勢のストリート、ガールが立つてゐるのも異様であつた。

七月十四日

朝食後第一にアルスター湖畔のスエーデン領事館へ行く。査證をとる爲である。記入用紙の分らない所は聞いて記入する。七マーク半の料手で、寫眞を二枚出さねばならなかつた。日本から旅券下附に出したものと同じものをよく持つて來てゐたものである。それから近處のデンマルク領事館

へ行く。二階にあつて湖水に面し仲々善い處である。

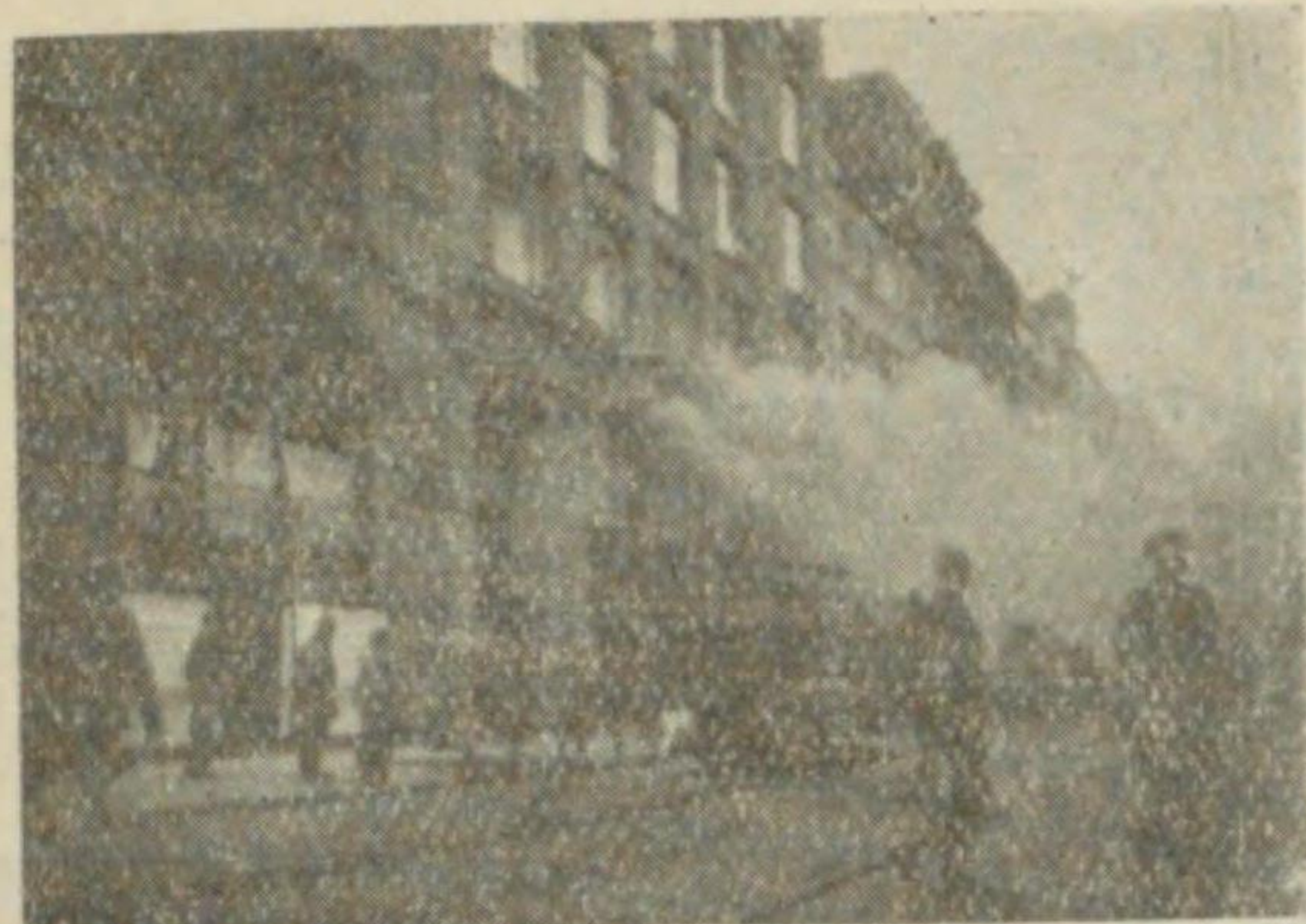
査證は通過であるから三マーク半で、寫眞は不要、親切にしてくれた。コペンハーゲンの高等農民學校の所在地を聞いた。

それから、ハーゲンベックの動物園へ行く。この動物園は個人の所有で、動物を馴らして他の動物園へ賣つたりするので可成有名なのであるといふ。仲々廣く自然の景色をとり込み善い所であつた。此の中の食堂で晝食をする。ドイツの青年がルツクサツクをつ

け、粗末な竹に三角の旗を幾旒もつけ見學に來てゐた。

毎日驛の附近で輕裝、ルツクサツクをつけた旅行隊に出遇ふ。剛健の氣象を養ふドイツ魂である。これが又他日の立派なるドイツを作る連中である。

三井物産へ行つて四〇ポンドを受取り、支店長伊藤氏と色々話して夕飯に招かれた。その足で、クツク社へ行く途中、目抜の町の第一階で出火してゐた。戸を締めてあつたが煙が盛に噴き出してゐた。直ぐ、消防ポンプ二台と梯子をのせた自動車が來て、消火にとめた。他所の火事程面白いものはないと云ふが全く現場に行合し



事火畫カアルハン



たのである。寫眞を二枚とる。所が二階以上の人は平氣で窓から下を見てゐる。随分強い煙で大分焼けたのに、二階以上の人々がさわがぬのに感心した。消防手を信賴したのであらう。それにしても娘などが見下してゐたのは不思議だ、街は黒山の人だかりになり巡査は制御に、苦心してゐた。クツク社でデンマーク、スエーデン行の切符をもらひ説明をきく。料金百七十五馬(八十五圓程)それから倫敦で買った、ハンブルグより伯林行の汽車の切符は不要になつたから、一割引でとつてくれた。宿へ歸り日記をつけ、身体を拭く。

今朝、朝日社へフエリエンコロニーの記事と寫眞フィルムを送る。夕方、スイツケースの重いのを携へて驛へゆき、ベルリン迄送る。三マーク餘り運賃をとられた。それから、徒歩でアルスター湖畔の伊藤支店長の宅を訪れ、内務省の技師の方と主人及夫人に日本食の御馳走になる。日本出發以來日本酒は初めてであるし、實に旨く頂戴した。御吸物に、松茸や筍、胡瓜、刺身、茶碗蒸し、肉等實に久し振りのことであるので嬉しかつた。御厚遇に旅愁を忘れ、十一時頃迄談笑して微酔の氣持で宿に歸り、ベッドの上で獨り歌など口誦む中に眠つた。

## コベンハーゲン

七月十五日

まだ早いと思つてゐたのに時計は八時である。大急ぎで支度し、門司以來行動を共にした博多人形の桃割の娘の像を宿の爺に渡し、伊藤さんに届けてくれと頼み驛へ行く。葉巻を買ふ。十本入りが二マークである。この國の烟草は安い。英國人はパイプで刻烟草を喫んでゐるが此の國では葉巻を吸ふ人が多い。安いからである。汽車に乗込む。

食堂で茶とパンを食べる。席へかへると同室の紳士が此の箱はコベンハーゲン迄行かぬ、それは後の方の箱だとのことで、リウベツクで停車したとき、後の二等室へかはる。

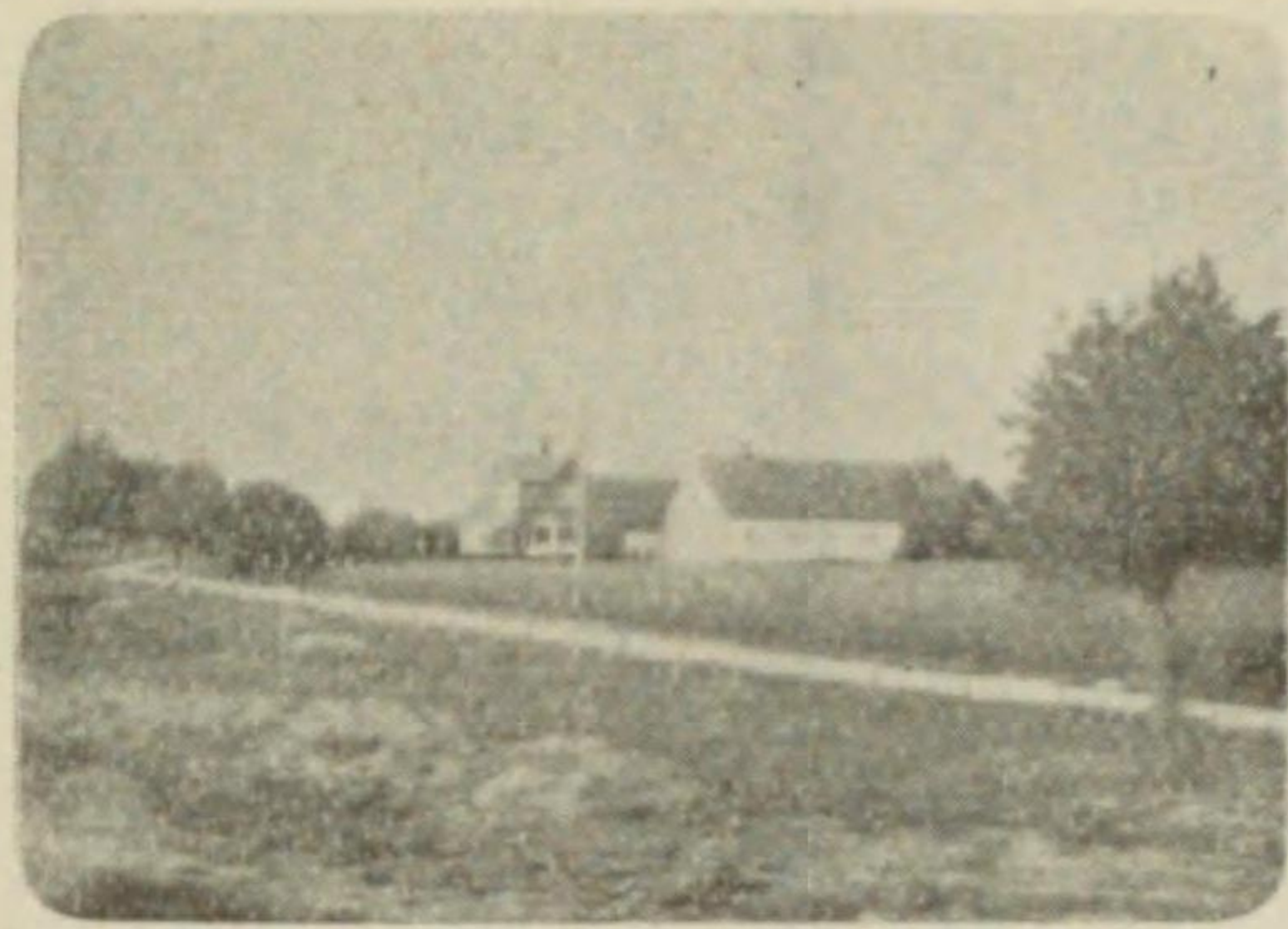
こゝで大阪市電燈會社の吉川技師にあひ色々話す。廊下で烟草を喫んでゐると、こゝではのまれなといはれた。座席券として三マークとられる。汽車は牧場や農家の間を走り、ロストツクの大きな町と海岸を眺めて、税關の検査も簡単にすみ、十二時半頃列車はその儘フェリーに乗込む。こゝでデツキへ上つて見物し、海水浴場として賑かな海岸を眺めつゝ海峡を渡る。食堂は立派で食事も高かつた。



それから、對岸へつくと汽車は又走り出す。デンマークは此の國特有の牧畜が發達し、又田園がよく耕されてゐる。草葺の家も多い。風車が多く目につく。又汽車は再びフェリーに乗り、對岸につくと六時頃であつた。村落は仲々善いと思つた。七時半コペンハーゲンに着く。

驛の近處に行つて、ブラデイトホテルに泊る。一晚三クロン半であるから二圓程である。それから市中を一寸散歩する。金曜は七時に店を閉ぢ常の日は六時、土曜は八時であるさうな。何も買へない。七時といつても夏はまだ日が高い。日本に比べると大きな差である。

料理店でピフテキを注文すると、大皿に一杯のピフテキを持つて來た。大きなものもあるものだ。食事をすまして勘定すると、ピフテキは一圓五十錢程につき、一食の代が宿料より高い譯になつてゐる。それから、チボリといふルナパークの如き所の前から新聞社の方へ散歩する。



デンマーク農家

今上天皇陛下が昨年三笠艦上で東郷元帥と御寫しになつた寫眞が新しく、シヨウウィンドーにかゝげられてあつた。これは先般大阪毎日か、發表した寫眞で、二三日前のドイツの雑誌にも轉載してあつた。宿で風呂をきく、風呂はないらしい。デンマークの紳士と此國のこと

などについて談話した。

七月十六日

朝、室でチー、コムブレをとつた、大陸ではこれに限る。格別バタとパンが多い。甘いから平げて金を拂ふ。本國人でアメリカへ行つて居た人と話す。日本の加州移民を褒めてゐた。地圖を調べ、電車で、アマリンボへ行く。こゝで日本領事館を尋ねまはると、それは、ラキシゲド街へ移つたといふことを調べてくれた。この人は會社へゆく人であつたが、自分のオフィスへ私を連れこみ電話帖を調べ、電車道へ連れて來て車掌に頼んでくれた。日本へも行つたと話して居た。親切な人である。それから、ラキシゲド街を尋ね廻つて三階へ上ると、名譽領事で日本人はゐない。然し高等農民教育に就て視察したいから紹介を頼むといふと、紹介を文部省専門學務課宛に書いてくれた。

それから、内閣の所在地へ行く。堂々たる建物でその周圍を二三回あちこち歩き廻り、漸く小使室を見附けた。その小使は、パンを食べてゐたのを止めてリフトで四階へ連れて上る。屬官がゐてこゝでないといふ。又リフトで下りて大きな建物を右曲左折して、やつと學務局へ行く。實際から書いた丈では何でもない様ではあるが、餘程氣を永くしないといやになつてしまふ。あちらを尋ねこちらを尋ね、無駄足を踏む事が多い。海外で短時日に性急に視察する事は至難な事で、えゝ止



めてしまつて公園でもぶらつかうかと、やけになることがある。室に入ると、クヌド、オクセン氏が非常に親切に話してくれた。部長は十一時に来るから、善い學校を選択して宿へ紹介状を送るといふ。それでは大變である。實は私は態々日本から來たのは高等農民教育を見たい爲で、明日瑞典へ發つつもりであるからといふ。部長の家へ電話を掛け打合せの上紹介状を二通認めてくれた。

汽車もあるけれども時間がないので、タキシ―を頼むと電話でタキシ―を呼んで門迄送つて出て、シヨフアーに言付けてくれた。やれ／＼と安神して、朝といつても正午に近い朝の街を抜けて郊外に出る。デンマークの村の様子は非常に善い。農業立國の國だけあつて手入が行届いてゐる。茅葺の家が点在する、低い建物である。

又所によると、小さな畑が澤山あつて、二三軒の家が其の中にある。市内に住する者が來てこゝを耕して休むのである。その家が色々の様式になり、カーテンをかけ、氣持のよい阿屋である。か



コペンハーゲン市

くして餘暇を土に親しむのである。小さい、アロツトメントを一家が郊外に求めて家族づれで行くので、草花や、蔬菜を澤山栽培してゐる。

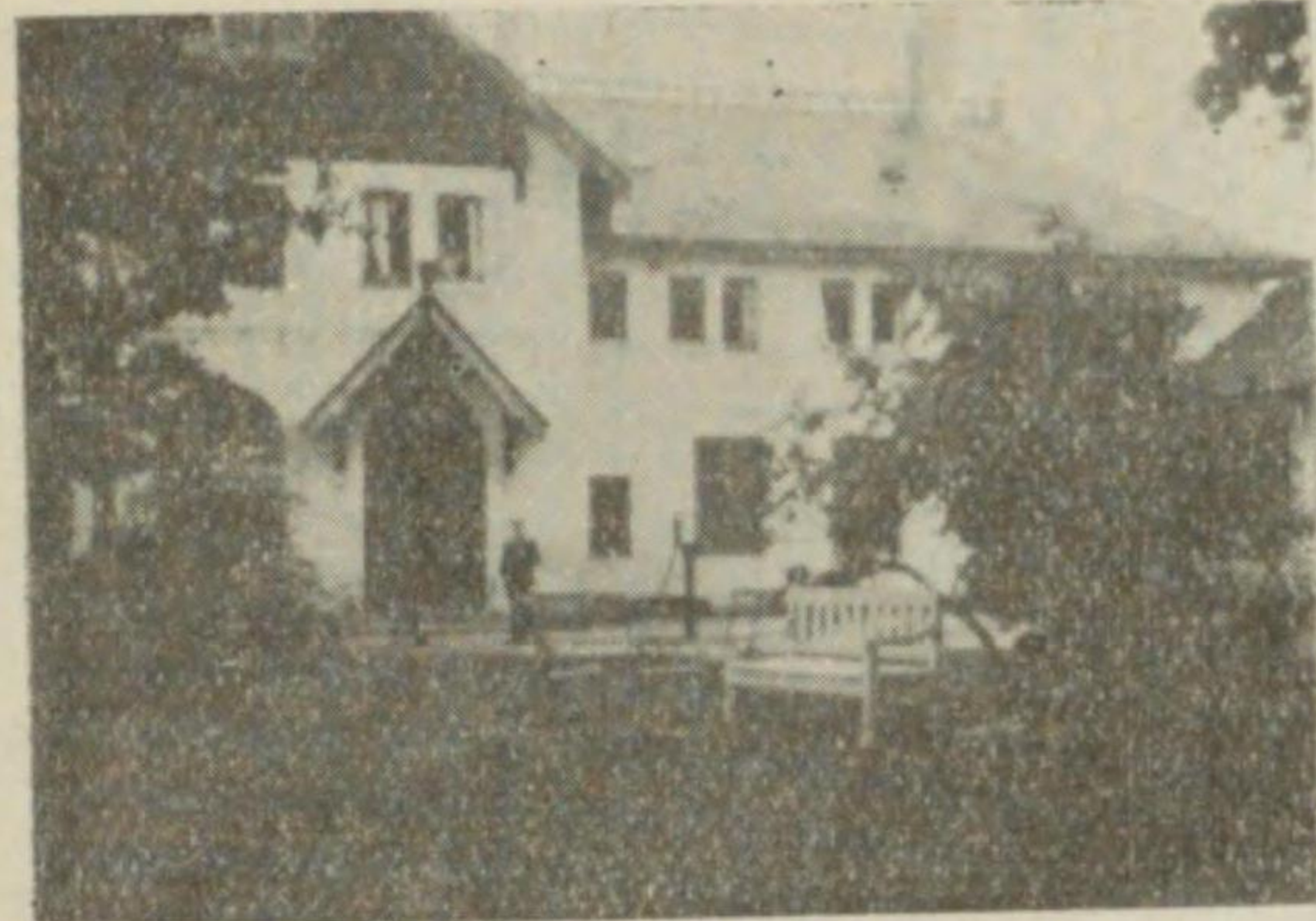
やがて街道から右に折れると、リングビーのグランドビー高等農民學校につく。生垣があつて門から校舎まで道が上つてゐる。兩側には試作地がある。タキシ―は五クロン五十であつた。

校長室へ行くと、恰度午食中であつたが出て來て説明をする。奥さんが英語が達者である。こゝ

はラ、コー氏が寄附して創設した學校で男子二十二歳より二十五歳位迄の者が入學する。必ず小學校卒業後實地の經驗のあるものなればならぬ。こゝでは色々の學課を十一月より五月に至る迄教へるので、それが済むと夫々自分の家へ歸るか、他所の農園の監督になるのである。授業料は八五クロンで、右の六ヶ月の間は大抵學校に寄宿することになつてゐる。

つまりこゝの教育は冬季百姓の閑な時丈であるが、相當の年齢に達してゐる者を教育するから、非常に有効で、デンマーク國農家の子弟を教養する機關としては宜しいのである。

それから植物室、教室、社交室等を見せてもらふ。標本などは餘



高等國民學校



りない。二階は寄宿舎である。馬丁が屋後で馬の手入をしてゐる。牛乳は町へ賣るのである。

丘の上の緑樹の間の土は肥え、相當に廣い所に實地栽培をやつて研究するのは羨しい。娘も四五人來てゐたが、午後は、卒業生の一人が農園を見物に來いといふから女連は自動車で、男連は自動車で行くのだと、わい／＼言つてゐた。

それからこの先生に案内を頼んで、近處の同じ財團の高等國民教育の學校へ行く。その途中にラ、コー氏の像がある。この學校も、實は一種の塾であつて、食堂で先生と娘が十四五人食事をしてゐた。食事をすゝめられたが遠慮し、その中に、校長と其他一二の先生が來て色々説明をしてくれる。

この學校はグロニチー氏が寄附設立したもので、一千八百年代に、この國がドイツに戰敗をとり國民思想の危機に至りしを憂へ、思想上自己の爲社會のため神のために活動する人物を養成しようとして、詩人であり、哲學者であり又宗教家であつた氏は、青年を集めて、立派なる人格を養成することの急を知り、この學校を設立したのである。

であるから、此の學校は他の學校へゆく階梯とか何とかには少しも頓着なく、只、圓滿なる人格精神の陶冶といふことに重きをおくのを以て目的とするのである。

學課は、デンマルク史、世界史、母國文學、地理、社會學、自然科學、唱歌等である。年齢は矢

張り十八歳から二十五歳迄で、冬季五ヶ月間は男子、夏季三ヶ月間は女子が入學するので試験も何もない。

その精神教育は歴史、地理、文學を通じ又偉人の傳などを語り聞かせ、短いが此の學校生活の間にインスピレーションを起さしめるのである。こゝへ入學の者には國家より補助がある。矢張り一期七〇クロンである。

夜間はフォーク、ダンスや文學談をやる。教師は數人で夏季だけ來る先生もある。校長は仲々人格者で溫厚な人である。室内にも澤山草花があり、外にも樹木が多く別天地をなしてゐる。

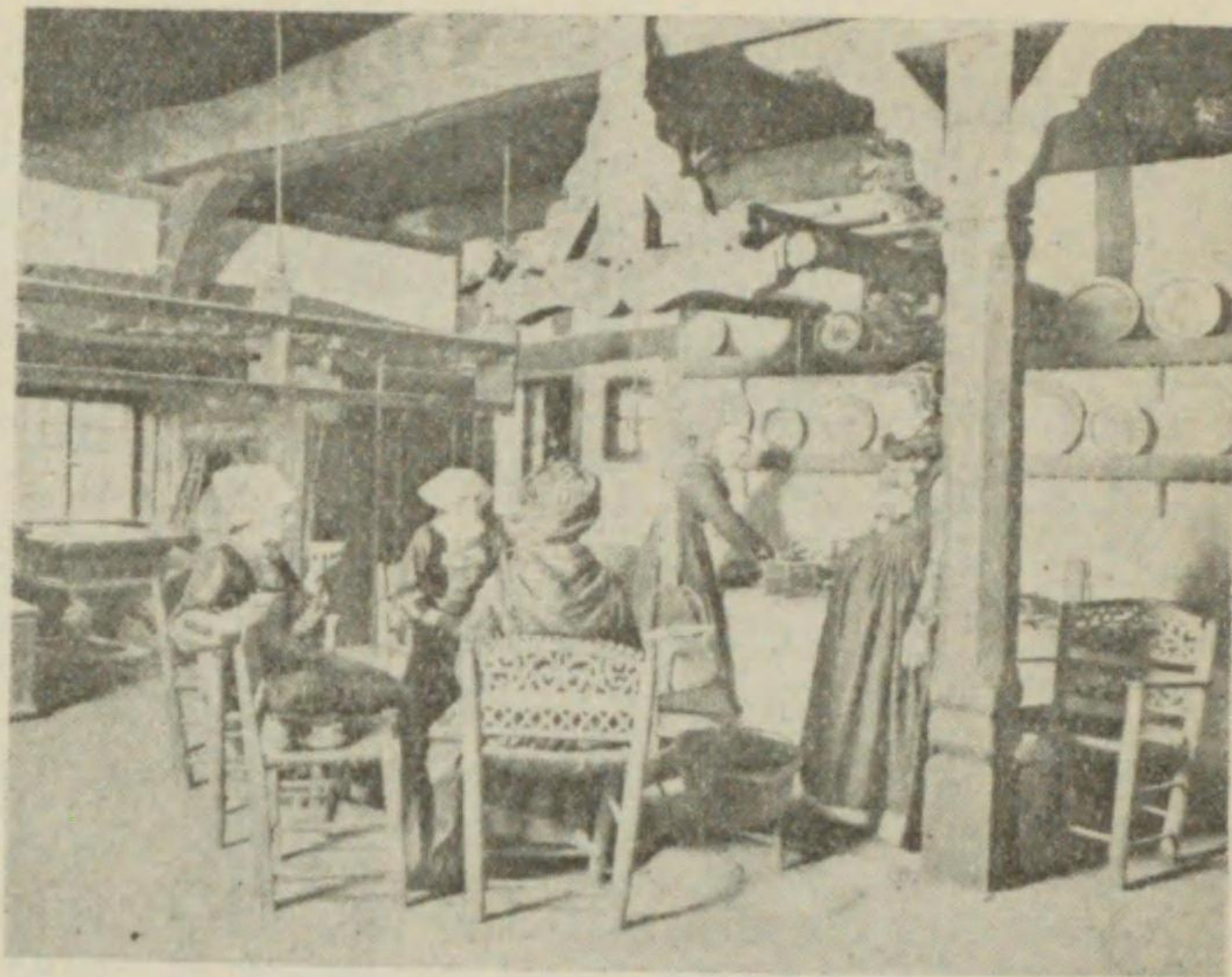
それから、食堂、体操場、社交室、教室、圖書室を見る。

二階には娘が澤山ゐた。校庭の木の下にも讀書してゐる。餘り廣くはない。教室も一つ二つである。然しよい事業である。

尙詳細は參考書を教へてくれたのでそれによることとした。こゝからボラプ先生が近處の農民博物館へつれて行つてくれる。こんな所によく建てたものである。餘程の篤志家でないと來られない。

内部には、葬儀車、櫃とか家の部分建築品など農業に關したものがあつた。それに、此國の古代からの古い家を移して建て、あるのは妙である。私は此の國の農家の内部を見たかつたのであ





農 民 博 物 館

る。段々少なくなつて行くらしい。實際此の國特有の農家は餘り見ることが出来ない。所がこゝには古いのがその儘あるのであるから嬉しかった。大抵、中には、穀物を入れる所、牛馬をつなぐ所、ストーブ等があり、寢台は壁の所に内を穿つて作つてある。

凡て土間で、椅子も櫃も、食卓も仲々趣味が深い。數棟あるのを充分見物した。

漁師の家、昔の機、昔の泉もある。風車もある。仲々よく出来てゐる。

庭にはボタンが咲き亂れてゐる。今春の盛りであらう茄子の苗も大分大きい、菜種の花も澤山見た。古の水車もある。

丘の上は雑木が茂つて鳥がなく、すぐ下の樹の間に丸く石を敷いて村民の相談する場所があるといふ。こゝで二時迄見て丘を下る。堅く握手してボラプ氏と別れる。池があつてその水の落口に水車がある。農業實驗場で青年が牛を使つてゐる。田舎の婆さんが網袋に何かと牛乳瓶を入れて私に

道をきく。

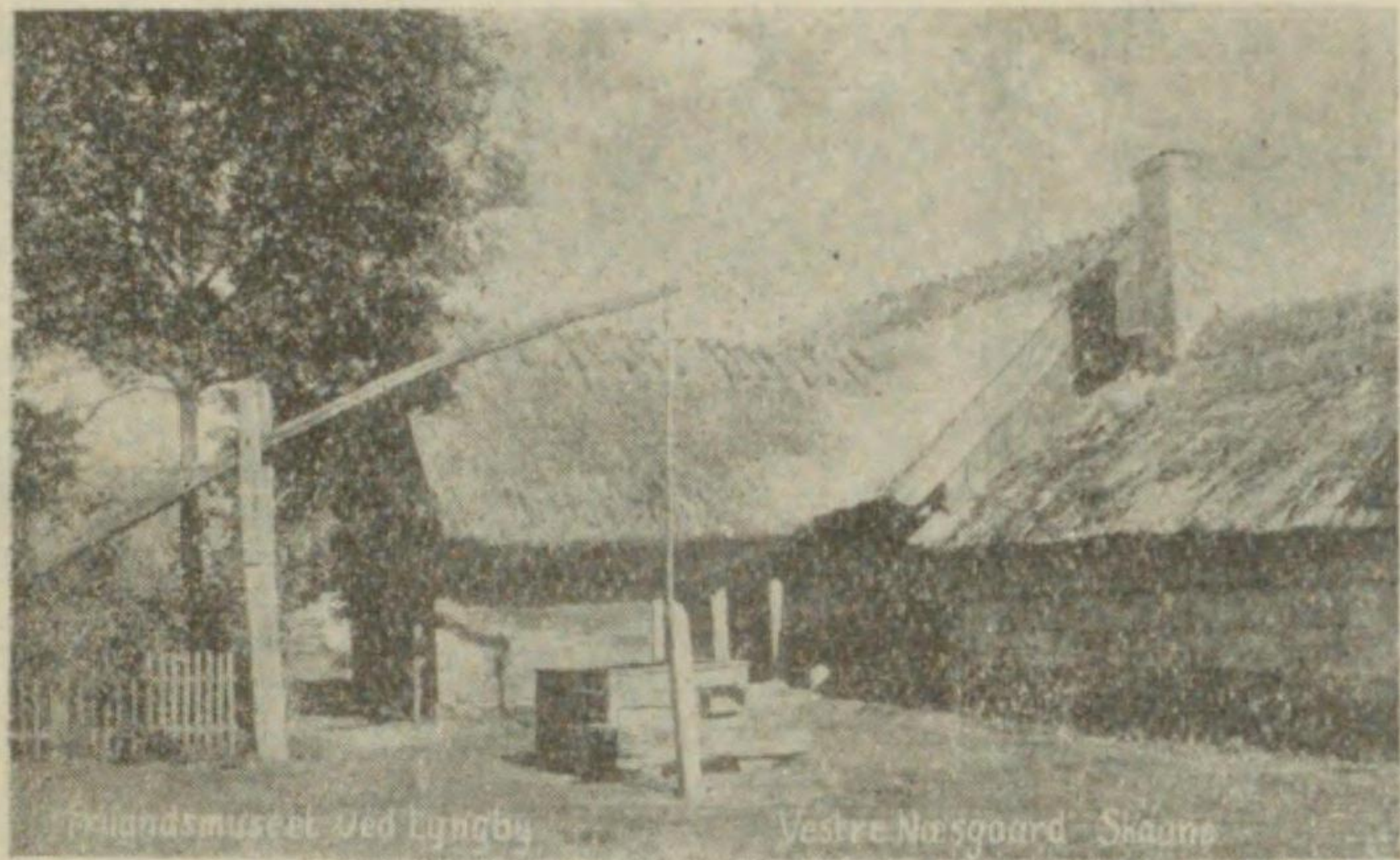
森のあちらから、老人のうたひ聲が聞える。青葉の上に風車が動かす、鳥の啼聲が、リズムを作つて何もきこえない。單線で半時間に一回、一台通る電車は來ない。軌道の上に榎の木が覆ひ茂つて、あざみやたんぼゝが物憂く息づく。

目の前には夏草が茂つて、水車のことん／＼と音するあたりまで擴がつてゆく。あちらの街道を娘が自轉車で走るのが見える。それから漸くコペンハーゲンへ歸り、三時頃に茶と菓子で午飯にして宿に歸り、日本畫を携へてボラプ氏の宿を尋ねて渡してくれ

る様頼む。

そこを出るとボラプ氏が後から肩をたゞいて是非うちへよれといふ。然し此の市の見物をしてゐないので辭して、今朝行つたが見なかつたアマリンボアの王宮を見る。廣場の周圍に六角形になり、王族其他の官衙になつてゐる。そこを見てすぐ一町もない波止場を見る。大きな船が居り水も深くよい港である。

それから散髪して公園へ行き、メリー皇后の像や、女神牛車を



Palnasmuseet ved Lyngby Vestre Næsgaard - Skåne

農 民 博 物 館



操る像などを寫真にとる。非常に善い公園である。水と、木と建物の配置がよい、城へは行かないで、タウンホール、寺院、銅像などを見て、チポリへ来る。こゝはこの市のルナパークである。入る時間がなく、驛へ行つて兩替をして、ビールと菓子で夕食にして宿に歸る。不在の間に表側のよい、ダブルベッドの部屋に代へてくれてあつた。親切な主婦である。

宿は三クロン三十で全く安い。然し食費は高い。昨日朝かへた、五十マーク(二十五圓)がなくなつた。デンマークの學校を今少し見たいが惜しいことには時間がない。

七月十七日

朝大雨の降つてゐる中を五時前に起きて用意して驛へ行く。一三人しか見えない。汽車に乗込み、コペンハーゲンの港迄半時間もかゝらずに着く。旅券の検査と税關の検査があつて聯絡船になる。一昨日の吉川君に會ふ。船中で朝飯を食べる。

一時間半で船はマルモに着く。こゝで自動車の聯絡で本驛へ五分もかゝらず着いて、ストックホルム行の汽車に乗込む。二人限りで樂である。

沿道の風物は直にスエーデンたるを思はしめる。牧場もあるが、石の有様、白樺、澤、湖水などや板葺の家が、樺太などの景色に似てゐる。冬は寒いことであらう。沿道には家が甚だ少い。驛

などにも餘り人家がない。淋しい所である。北國へ来た感がする。

牧場の周圍に石垣を築いてある。餘り草がなくて石だけゴロゴロしてゐる所もある。雪に折られた様な木なども吾々には珍らしい。小川が流れる。山裾に湖水が展開する。

スエーデン人親子が室へ来る。先方の覺束ない英語で色々話す。吉川君がその十五歳になる子に、日本の切手や繪などをやる。父なる人は驛長であるといふが立派な人格者らしかつた。歐洲へ旅行に廻つてゐたといふ。食堂で午食する。

限りなく淋しそうな山家がぼつ／＼ある。午後五時には茶をのむ。この頃から大分沿道の土地も開けた。今日は馬鹿に暑い。チョツキをぬぐ。大きな湖水があり、山の裾を走る、非常に壯快な景である。よく来たものである。然し、ノールエーのゴーテンバィグや湖水やカナルを通過出来ぬのはつらい、吉川君は歸途そちらへ廻る相である。

六時頃から、機關車は電氣に變る。疾走を続け、七時にはストックホルムに着く。マラー湖に面し丘あり、川あり、海に近い此の都は非常に美しい。

驛前のアストリアホテルへ行く。六クロネといつたが五クロネ(三圓)の室をかる。温冷の水もあり、電話もあり、善い室である。机の上に聖書をおいてある。顔を洗つて河に沿うて行く。王宮の前の橋の下は急流をなしオペラハウス、美しい流れ、白い船が澤山浮んでゐるが、極めて清潔で變



化に富む善い島である。

グランドホテルの四階の吉川君の部屋へゆく。七クロネといふが大分廣い。これはこゝ一流のホテルである。共に散歩して私のホテルの宿の食堂で話しながら共に夕食をする。

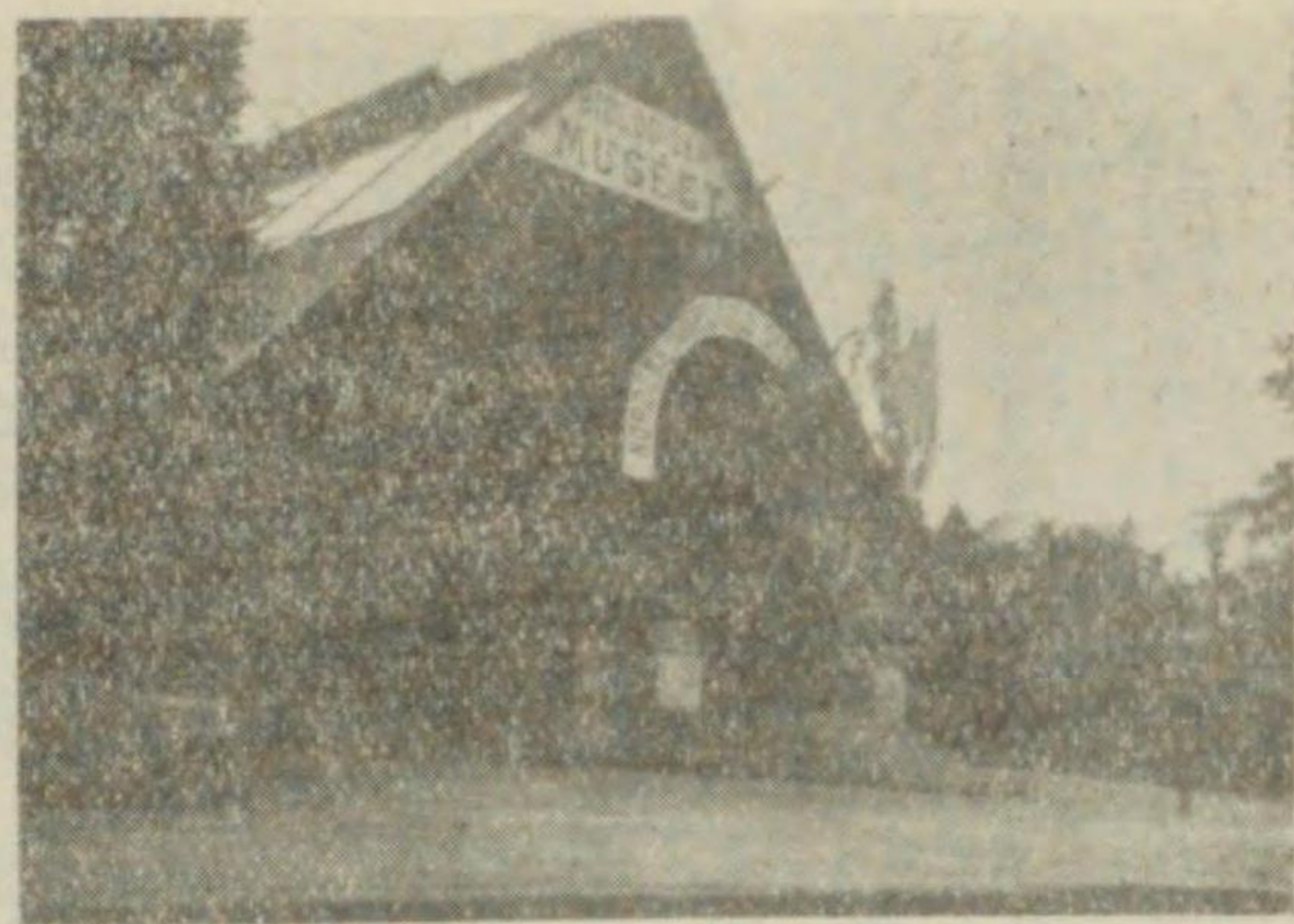
今日は暑くて仕方がない。此れ程北の方へ来たのにマルセーユ上陸以來の暑さである。温湯でからだを拭ひ朝迄、ゆかたの儘ベッドの上で窓を明けた儘何もかむらずに眠る。これで北海道の旭川が夏暑いことなどを思ひ出した。

### ストックホルム

七月十八日

八時に起き近處の自動食堂へ行く。食後グランドホテルへ行く。ストックホルムから歐大陸の各地へ飛行聯絡があるので、歸途ベルリン迄の費用を聞くと、四時間で百五十クロネ(七十圓)だといふ。既に歸りの汽車切符も求めて居るので中止にする。惜しいことである。

こゝのサイト、シリングカーに七クロネ拂つて、米、獨、佛人など十人位乗込み、島へ行く。王の離宮の小さいこと、然し水際の景色のよいこと。



ストックホルム生物博物館

島を一周して、生物學博物館へ入る。古代この國特有の家の様式にして内部は三階のパノラマで動物の生活状態を實物と繪畫であらわしてゐる。枯木にとまる、老鳥海の鳥、澤の鳥、巢あり、卵あり、山、川、海の動物の各種を網羅して非常に趣味がある。大阪にも一つほしいものである。この近くにスカンセンといふ夏の遊樂地がある。毎夕此國の風俗をした女の踊りがあるといふ。

今度は大學、オリムピツクの運動場、議會、工藝學校へゆく。こゝの彫像と傍の泉水も立派で向ふ岸の島と尖塔等も見えて實に美しい。門前の石の泉水盤と門はよろしかつた。裁判所、警察署を見てタウンホールへ行く。これは一千万圓以上費したといふ丈あつて實に美麗な所である。議事堂の立派なる、控所、廊下、宴會場の華麗を極めたる實に他國に見ることが出来ない程であると思ふ。

壁はモザイクで此の國の歴史をあらはし、床は大理石、正面には此の市を表はす女神が東西文明の融合地として君臨してゐる圖である。此の階下を外へ出ると湖水がひた／＼と波をた／＼せ詩趣を味うことが出来る。

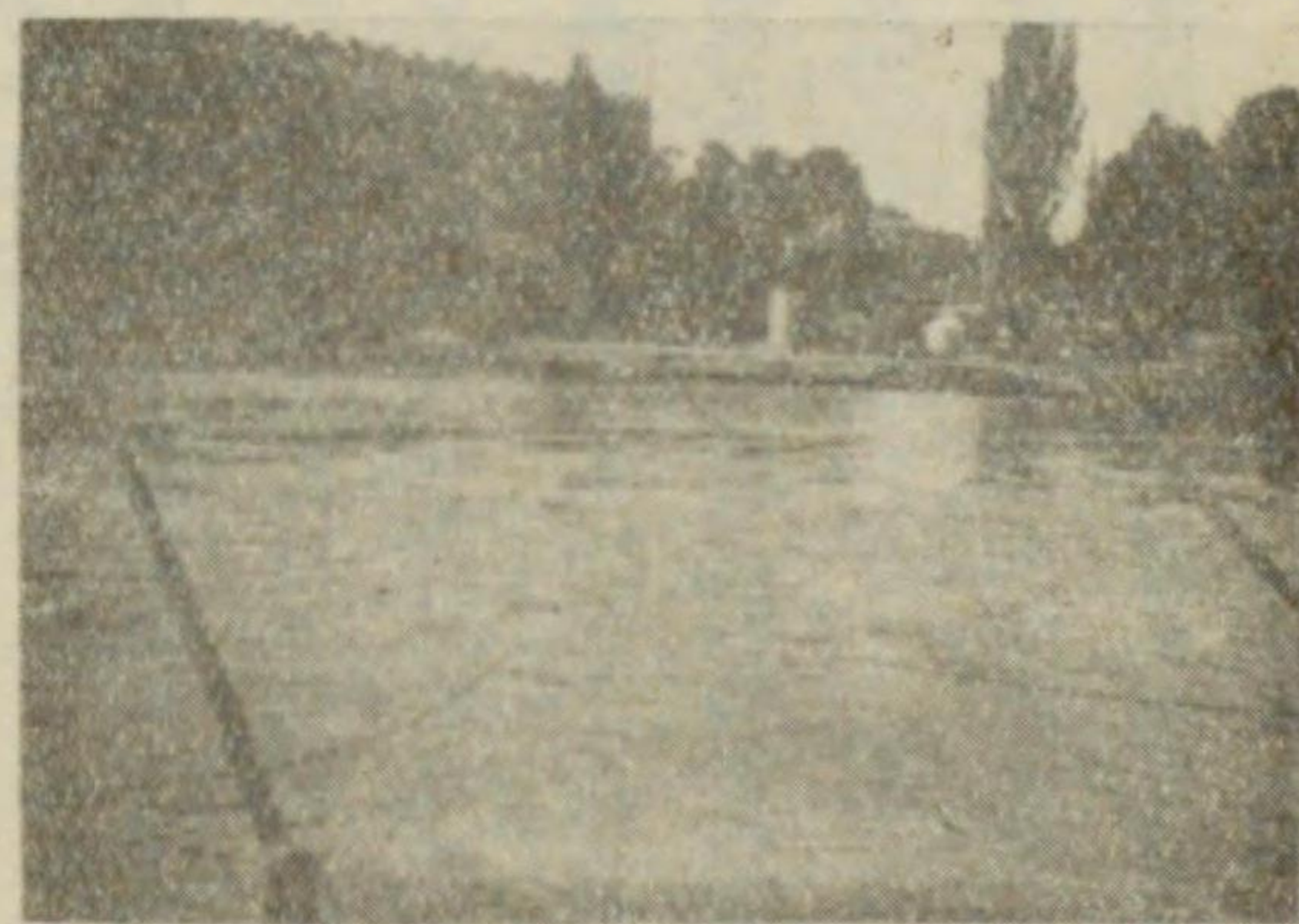


これから王宮へ行く。これも川の上に聳えて堂々たるものである。恰度衛兵の交代時間で樂隊を先頭に一隊が来て、こゝで嚴肅に交代する。音樂のプログラムにより半時間程奏樂する。見物人が多い。田舎の小學校の生徒も来て居る。王宮に入ると第一に男女の裸像の白大理石像の接吻の状も異様である。

王が大臣に謁見の場、各先王達の遺品の寶物、コブランの壁掛、天井の繪等が美しく、舞踏場には十六世紀の金色燦然たる戴冠式の王と妃の椅子は目をひく。

陶器、ガラス、繪、其他色々のもものが美しく飾られ、窓からは四方の湖水や川、島、町が見下され、實に王宮としては景勝の位置にあるといつてよい。こゝを出て正午過になつたので、百貨店へゆく。仲々大きく品物も多い。此國獨特の織物のテーブル掛を買ふ。

午食を二時に済す。オペラ近くの公園で休む。この國の人が話をしかけ明治二十年頃横濱にゐたとて盛に日本をほめる。昨日も汽車中で、バキウムオイル會社の社員が日本滞在二年餘の話をして大いに笑つた。



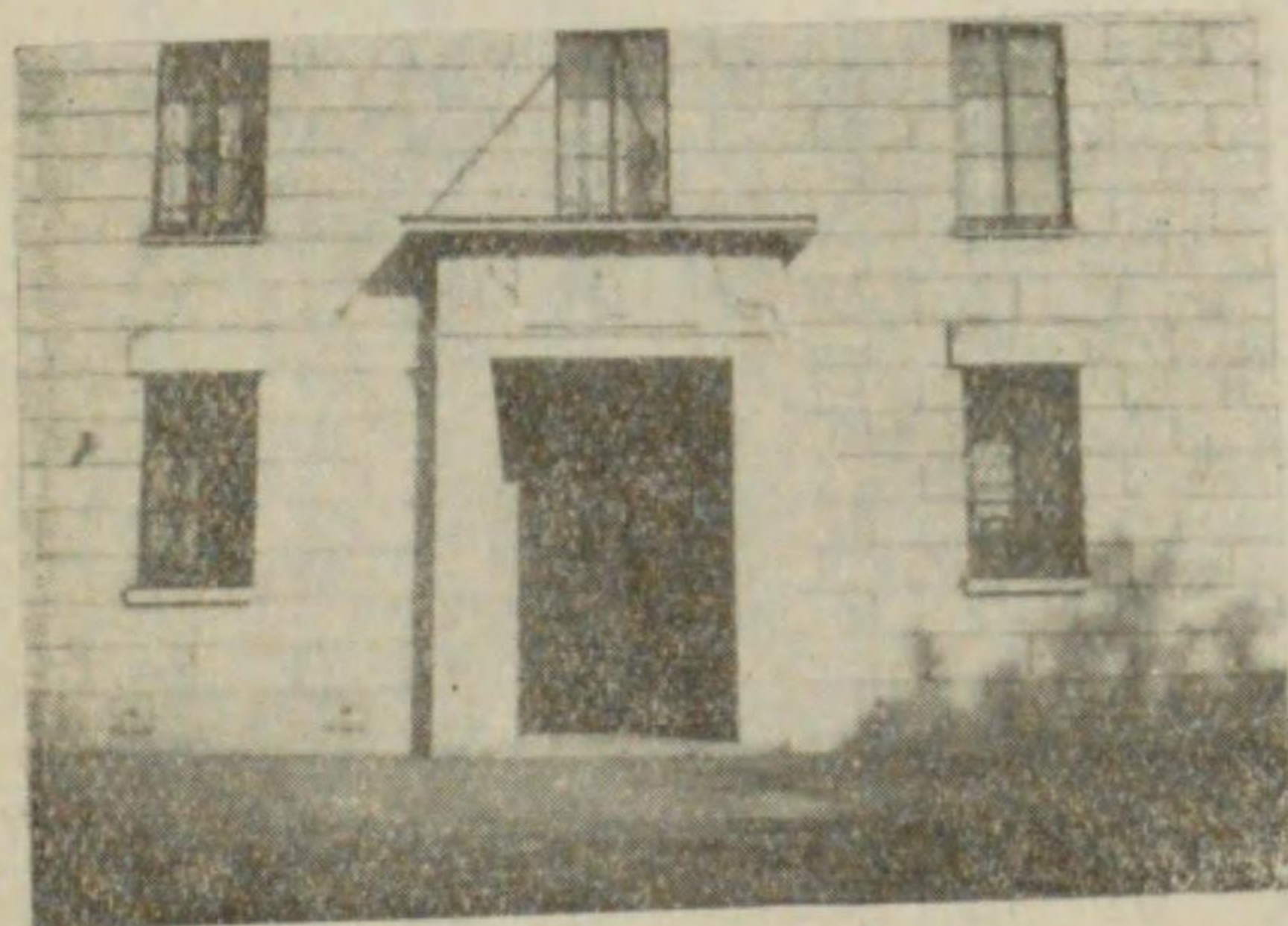
スエーデン王宮

も一度王宮の下へ行つて寫真をとり、タキシードに乗つて、オリムピックのスタヂオンへ行く。三時迄であるが、番人がゐないのに入る。非常にせまい。然し永久的建物にしてある。大勢の大工が修理してゐる。出るときに、二人分の入場料を門番のところにおいた。それから、ノーベル賞を與へるノーベル館の前へ行き、寫真をとる。五階建である。入口の上に小さくノーベル氏の像を彫つてある。前は公園である。それから十六階建の塔の所から市場を見て、驛の模様をブリツジから見下し、宿へ歸る。

餘り暑いから、ベルリンへ行きたいと、マネージャーに話す。宜しい九時迄あなたの部屋にゐなさいといふ。然し暑いから廊下のホールで二日分の日記をかく。

ストックホルムは水も清く、島が多く、煙も塵埃もない。人口四十五萬といふが非常に清潔である。氣持のすがすがしい町である。こゝへ來たことを喜ぶ。こゝは歐洲で、コンスタンチノーブルに次ぐ町であるといふが、左様かもしれない。

然しこの國獨特の婦人の風俗は餘り見られない。百貨店の賣物にある計りである。



ノーベル會館



歐洲の婦人の服装は、少々變化あるにしても皆一樣になつていく。國として郷土としての色彩ある服装がなくなるのは旅行者にとつて失望である。然し、デンマークも、こゝも、婦人は愛嬌があり線が細く感じは宜しい。

日記は書いたがまだ發車迄には充分の時間がある。カバンと外套を帖場に預け發車の時刻迄に驛へ持つて来て呉れる様頼んで置いて川の邊りにゆく。直ぐ目の前に此の市の水泳場がある。河中に五六十間四方の廊下様の建物があり、その内部で泳ぐのである。



ストックホルム市街

それから未だ、スカンセンに心残りがあるので、電車にのつて海軍兵學校の邊で右折して、潜水艇などを校庭に置いてあるのを見つゝ今朝の生物學博物館の邊で下車して山に上る。もう餘り時刻がないので、レストーランとか、新世界のルナパーク式遊戯の状況を垣越しに眺めて直に電車に乗る。驛前で下りたが、大きな船が澤山ついでゐた。水は汚れて居らず、水流の早く泡を立て、落つる様、それに王宮の前の樹の下で釣を垂れる男、八ツ手網を下ろす船の多いのも氣をひくこと夥しい。

軽く夕食して九時五十二分發の汽車に乗るべく寢台券を買ふ。恰

度又、日本人と同室である。しばらく話して上の寢台に入り新聞をよみ、ウィーンの革命の様子を知り直に眠る。驛を出る前にホテルのポーターがハンドバッグを持つて來たのに、手帖を破つて、吉川氏の短信がついてゐた。氏は私と分れてホテルで、日記をかき淋しいので私の宿を尋ねて來た。友人のホテルで一人夕飯を食べましたと書いてあつた。共に旅行をするとなつかしくなるものである。

## 伯 林

七月十九日

目がさめると八時頃である。雨がふつてストックホルムの昨日の盛夏の様な暑さはなくて乗客に冬外套を着てゐる人が多い。北が暑くて南が寒いのである。昨夜は全速力で走つてマルモにつく。寢台券の權利は消滅して座席券がないとその部屋に居れぬ。困つたと思ふ中にフェリーに汽車は其儘のりこむ。フェリーの中には以前も同様一二等はバールーム、ソシアルルーム等贅澤なもので、こゝでパンとハムエグで朝食する。四クローネは高い。本を讀んだり、プログラムを作る中に四時間間は經つて少し波はあつたが、ドイツの、サシニッツ港につく。



旅券の検査、カスタムの検査は簡単にすむ。こゝで汽車はハンブルグへ行くのと、ベルリン行とがある。大勢両方へ行くから、ストックホルムから来た汽車の方へゆきかけると、赤帽が四五人「ジャボン／＼ホテル？」と聞く、「ベルリン／＼」といふと、それはあちらの汽車だと四五人笑ひ乍ら無邪氣に教へてくれる。

汽車にのると座席券の心配もなく空席が多い腰をかけると、車掌が来て、此の室は婦人丈の室ですといふ、こちらへ来なさいといふので行くと一室空いてゐる。座席券をくれといふと其の必要ありませんといふから、スエーデンの残りの銅貨を数枚やつておく。

それから窓の下に驛員がゐたから伯林へ電報を頼む。これにもスエーデンの残りの貨幣をやる。食堂券を持つて来たので、二時に午食をする。四マーク十八ペンニツヒであつた。今朝の食事に比べると安い。スエーデンの札で支拂ふ。

湖の横を走る。景色は牧場と農家で桔梗の花が咲き亂れてゐる。一昨日スエーデンの汽車の線路には惜しい程鈴蘭の花の堤が出来てゐたが、今日は桔梗の紫が露にぬれ、白や黄や色々の花が咲く。麥も實が入つてゐるらしい。春と夏とが一緒に来るのである。

空は曇つてゐる。田舎の驛から三等車に立派な人が乗込む。田園には麥の外に馬鈴薯や菜などを廣くつくつてゐる。目の届く限り牧場と畑とである。日本の小百姓の仕事と大分異ふ、百姓の單位

の違ふのも是非ないことである。戦敗國とはいへ随分國もゆつたりしてゐるのは羨しい次第である。

段々ベルリンが近づいて来る。こゝも小農園が多い。小さい阿屋を建て、所々に旗などをたてゝある。七時半過スタチナー驛に着く。電報を打つておいたが大崎君はツオーの驛の方へ来てくれたのであらう。タキシードで大崎教授の所へ行く。今恰度ツオー驛から歸つた所だとして、直に、スペアラ、ストラツセの、エリキゼンハウスに同伴してくれる。一室は五マーク(朝飯付)で、別の一室は七マークであるかはり、堂々たること貴族の部屋の様であつた。私の部屋は机四脚、ソフワー一眩掛椅子二、椅子三、ピアノも置いてあるが、居心地が悪い。

大崎君と近處の藤巻へ行く。日本酒を飲んで一別以來の話をする。日本人も數人来てゐた。森君の手紙を読む。

七月二十日

朝食後タキシードで大浦校長を訪問する。病で兩三日寝てゐるとのこと、氣の毒である。色々旅行の話をする。こゝで英國から轉送して来た手紙を澤山披見する。山本理事長建碑式のこと、田寺保姆の一人娘靜子さんの死は同情に堪へない。可愛想なことである。福原博士、足立住吉郵局長、小島



府議の計報にも驚いた。

キルパトリック博士學院來訪とその記念寫眞も受取つた。こゝで書飯を食べる。こゝは少佐未亡人で英國生れであるが、主人はドイツ人であつたといふ。

こゝを出て大使館へ行かうと思つたが地圖はなし、車掌は誤りを教へてくれ、間違つた方向へ行つた。先方が誤解してゐるのを知り乍ら、説明すべくこちらの言語が充分通じないのは困つた。遂に地圖を買つて、タキシを雇うて、大使館にゆき手紙を受取り、一時以後は館員は居らぬから老婆にニマークやつて手紙の廻送を依頼する。それから歸宿。ハンブルグから送つたトランクを女中に驛へとりやる。

勝川教授を尋ねたが不在。仕方なしに近處の料理屋で定食一マツクのを食べて休んでみると、私の不在を訪れた大崎勝川兩教授が私をさがしに歩いてゐたので此れと共に散歩し盛り場の方があるき、後又ベンチで休んで分れた。伯林の學校は八月十日以後に開校であるとのこと一ヶ月こゝで待たねばならぬのである。



フリードリツヒ橋

七月二十一日

午前書類整理。正午勝川教授來訪、共に大使館へゆき七月二日迄の新聞を読み、手紙を受取り、ドイツ諸學校參觀願の手續が如何に運び居るかを尋ねて退出。フリードリツヒ街にて午食して元宮殿及寺院博物館を外面より見て、同氏下宿に至り一服、又大崎教授方を訪ひ三人で日本人俱樂部にて豚のすき焼にて夕食、散歩をして歸る。

七月二十二日

朝久次米北海道大學教授より電話あり、次で同氏來訪さる。今朝より善き室にかはる。一日五マツク七十ペンニツヒである。久次米氏と三浦教授をよび三人同縣人同船來歐者として共に外出午食を東洋軒にてする。

それから、ルナパークに散歩して見る。色々と澤山の遊びがある。ウフーターシュート、活動寫眞、各種のあてももの、樂隊、喫茶店、水泳場、腕力測量計、登山列車、波上の舟、空氣銃等淺草の花屋敷的である。ラヂヲ放送局の塔を見乍ら歸途百貨店にて買物をして夕食後歸宿した。



七月二十三日

勝川教授を尋ねて下宿の相談をする。エリキゼンは一室朝飯付の五マーク、七十五ペンニツヒで風呂は一回一マーク二十五ペンニツヒである。田中教授の所の一室は朝飯付一ヶ月百マーク位で風呂も一ヶ月三マーク位で、そこへ轉宿しようかといふのであるが、一ヶ月位のことであるし、矢張下宿業専門のエリキゼンが便利であるからといふので一ヶ月四十圓位の差ならば、其儘が善からうといふ事になる。



フイーテ、ヘーゲルの墓

十一時過より勝川田中兩教授と共に地下で、ドロテンシテチツシエルキルヒホフの墓地へゆく。  
こゝはドイツ哲學者のフイーテ、ヘーゲルなどの墓のある所である。フイーテの墓は黒の一丈餘りのオベリスク形になつて彼の顔が金色に浮彫になつてゐる。石ではなく近く見ると粗末である。一七六二年に生れ一八一四年に死んだこと、ダニエル書の聖句が書いてある。其次に彼の妻の十字架の碑があり。次にヘーゲルの墓がある。一七七〇年に生れ一八三一年に死去したのである。これは墓石のみである。その前は各、緑の蔓草で、墓の形に覆はれてゐる

のである。大哲學者が揃つて同じ所に眠つてゐるのである。私はその寫眞をとり、且綠葉を紀念につみとつた。

それから、ポイト、彫刻家のラウフ、畫家シンケルなどの墓に詣でた、仲々立派な墓がある。大理石で阿屋どころか、圓柱を建て、ギリシヤの殿堂式なのがある。墓地は雜木が茂り老婆は、主人の墓の前にベンチをしつらへ靜に黙禱して、在りし日を偲んでゐる。人情の美しい所がある。少女がせつせと墓の蔓草を剪つてゐる。それから古本屋により、ツオーの驛で兩替をして、百貨店へ寄つて歸る。

夕方三浦教授來訪共に日本人俱樂部へゆく。今晚は在伯德島縣人會である。

先般、長井樂學博士は八十五歳の高齡で、之に德島縣の鳴門に近い瀬戸村の富田といふ老人は七十三歳であるが元氣を出して同伴して來たのである。博士は孫さんを送つて來た。博士は弘化二年初めてドイツへ來たので今から五十六年以前の事であつた。そして獨逸人をめとられたのであるが元氣旺盛で誠に目出度い。古い學友三人にもあひ、飛行機會社の招待で飛行機にも乗つたといふ。

その外商務官をしてゐる長井亞歷山氏、貴族院議員稻田氏、德島高工の田中教授、久次米、三浦教授、齋藤ドクトル、四十宮教授、西野氏等十四人といふ盛會である。料理も日本食で美味であつ



た。食後寄せ書を蜂須賀侯と新聞社へ贈り撮影する。異郷に同縣人が十四人も揃うことは珍らしい會合といはねばならぬ。十時半散會した。

七月二十四日

児童生活第三十九號が學院から送られた。異郷にあつて吾學校の機關雜誌を讀む感慨は深い。口繪にはキルパトリック教授來校記念撮影や私の出帆の光景が出てゐる。特に私の出發見送に就ての生徒の綴方が澤山出てゐる。非常に感激した。これ程眞實こめて私の爲に祈つて呉れてゐるのであるから、しつかり勉強して獲物を澤山持つて歸らねばならぬ。

十一時より久次米三浦兩教授と元宮城を見物にゆく。日曜であるから見物人が澤山ゐる。ラウフが作つたウキリアム一世の銅像の立派なのを見て中に入る。階段を上ると案内人が二三十人宛團體にして説明してくれる。

結構はストックホルムの城内の模様を大きくした様である。スイスホール、赤鷲室、玉座の間、侍從室、黒鷲室、畫廊、白客間等々趣向を變へ、色々の什器、寶物をおいてある。それから陶器類、古代衣匠、寶玉、アラバスタ類から櫃、武器、グラス類などを見物する。

こゝを出て午食に遅くなつたが、すぐ廣場前の博物館の太古部へ入る。紀元前のもの計りを集め

てある。勿論大英博物館に比すると品數は少いが、よく研究的に排列してある。新館の方も古いもの計りで、エヂプトのもの、オリムピアのもの、印刷に關したものと等隨分澤山ある。

研究室があつて時を定めて講義をする様になつてゐる。それで二時を過ぎたので、伯林大學のフンボルト二氏の像の前を通りフリードリッヒ街にて午食して、ウンターデン・リンデンの並木道をぼつ／＼歩き、ブランデンブルグの勝利の神像のある門を通り抜けて、國會議事堂の前に出る。この議事堂は一千万圓を投じて建築した丈に立派なものである。

この前に、ビスマルクの銅像が立つてゐる。大きなものである。この邊は凱旋道路の中心で、中央に、一八七〇年の戦勝を記念する一九〇呎の記念塔があり、上に金色燦然たる勝利の女神が立つてゐる。この塔の上へ上つて市中を見た。

一方にはモルトケ將軍の大理石像がある。目の下には、チャガルテンの森が長く長く續いてゐる。この森の端はシャーロテンベルグに續き、植物園などがある。電車道、歩道、池澤、などが、この森の中に入り頗る善い所である。こゝの廣場に散歩する人も多い。

チャガルテンの森で少憩して三浦氏に分れ二人は、ツォー驛の近處の活動寫眞館へ入つた。二時間程見た。映畫のタイトル等は立体的な構圖が此の國には多いのが新しく感ぜられる。こゝのバンドは折々放送するが有名であるらしい。



支那飯屋にて夕食、堀少佐に遇ふ。一人こつ／＼歩いて歸る。今日は疲れた、川添大浦二君の手紙が来てゐた。夏休中であるので途方にくれる。

七月二十五日

今日は午前中手紙をかく。午後ノレンドルフ附近にて午食して、島津の店員の宅を漸くにして尋ねると不在であつた。それから大浦君を訪ねようとしたが俄雨にあひしばらくよその軒下に休む。子供がひどい雨にきやつ／＼といひ乍ら逃げ歸つて行く。

同君不在、ロンドンよりねまきの小包を受取り主婦と話す。レインホルド少佐未亡人でドイツ中流階級が非常に困つてゐること、劇場や其他の表面は立派に見えるが此の國大部分の人民は實に世智辛い世の中を嘆じてゐる。も一度ビスマークの様な人がほしい。ヒンデンブルグは老齡で充分間に合はぬと思ふ。私等の宅も人に間貸をしようなどは思ひもかけなかつたと涙乍らの話である。殊に主婦は英國生れで主人はドイツ人であつた。大戦の四年間は音信不通で、親類同志が戦線で相見えるのであるから此上もない苦痛であつたといふ。

然し大戦中、ドイツの婦人は何でもしました。車掌、郵便配達、車ひき等實に目覺しい活動です。私等は父が出征して、母が働かねば喰へない家の子供を二人預りました。それがあんなに大きくな

つて今でも毎日遊びに来ます、といふ。二人の女の子が復習をしてゐたが、婦人の頬にキツスして歸つていつたのは印象が深かつた。殊に殖民地から家具其他の財産を放擲して一家引連れベルリンさして何萬人と歸つて來たときは實に氣の毒でした。私の宅にさへ七家族も參りました。政府の手當は少くそれ等の人々を養ふのは全く私等の義務でした。今やドイツの殖民地はなくなり、原料品がありませんから凡てを買はねばなりません。一時は子供が紙幣に火を點じて靴をさがすといふ位マ一クが下落しました。私等は英國とは戦ふ筈はないのです。英國とは友邦であつたので國民の性格上から言つても類似の點が多いが、佛人とは到底相容れる譯にはいきません。佛人は憎いです。一八七〇年の戦争の時にも佛人の遺骨は町寧にこちらで葬つて墓をたてゝゐますが、フランスからは一文もよこしません。と感慨にふけて話した。

そこで、レインホルドの紹介で陸軍大將の娘である人の宅を尋ねる。室を見せてもらつたが、先づよろしい。轉宅しようかと思ふ。親切な人で仲々教養もあり英語もよく話す。朝飯付一日四マ一ク半で風呂は七五ペンニツヒである。こゝで色々話して近處の停留場迄見送つてくれる。他の留學生の室に比して見劣がして値は高いが、家庭へ入らないと普通のパンションではドイツの實情が分らん。多分參りますと答へたものゝ不確であつたから、邪魔した禮にポケットへ入れて使はなかつた絹ハンカチをあげると喜んだ。宿へ歸つて手紙をかく。



七月二十六日

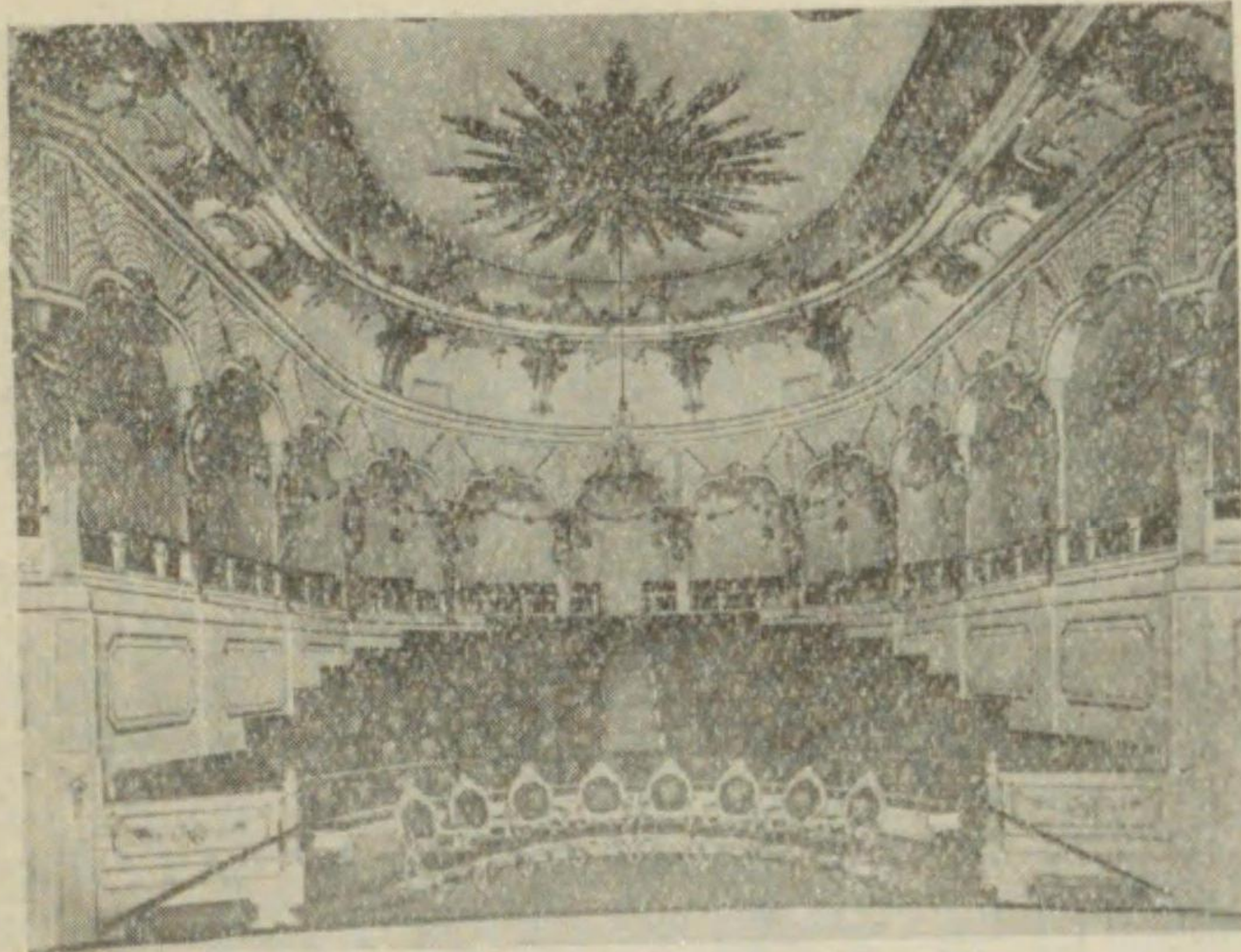
朝早く起き荷物を鞆につめて部屋を明けておき三浦教授の所にゆき、夫より勝川教授の所にゆく。こゝでゆくりなくも松井文學士に遇ふ。氏は余が萩中學で教へたことある生徒であつた。此國の學界のことにつき五人が話す。

午後一時ポツダム驛へ行き、久次米、三浦、三宅教授と同道。一時半發車半時間でポツダムに着いた。こゝは六萬五千の人口があり、ハーベル河と潮水とでかこまれた島である。建築も風景も頗るよいところである。カイザー、ウキルヘルム橋を渡つて電車で、サンスーシの公園に行く。これはフレデリック大王が一七四四年に計畫したもので、中央に噴水が二十間位も噴出して圓形の大きな池は涼味にあふれてゐる。

その上には階段式になつて庭園と果樹園と温室と、シンメトリーに造つた樹木がある。イチマクも、林檎も、バラも、藤もアライも今を盛りに咲いたり實つたりしてその一番上には、フレデリック大王の御好みの一階建の御殿が南をうけて温かさうに下の公園一杯の緑樹の波と噴泉とを見下ろしてゐる。再びこゝを下りて泉水の周圍の大理石像を眺めて西に進む。一哩以上もあると思はれる直線の道は綠蔭の中を進んで右手に風車のある建物や墓場を見つゝ、ノイエス・パレスに着く。大きな廣い庭を前にして二一三米突のどつしり落付た建物がある。南手へまはつて、案内を頼み

中に入る。

これはフレデリック大王が七年戦役の後に建てたもので、フレデリック三世は此處に生れ、且つ逝去され、ウキリアム二世は夏季避暑地に使用されてゐた。一階には、フレデリック大王の部屋、



ポツダム宮内劇場

音楽室、客間、食堂などがあり、ルーバン其他の繪畫や什器が多く實に壯麗である。

驚くのは貝殻室で、水晶、貝、美しい石で床も柱も壁も天井をも鏤めてある。此の部屋は田舎者を驚かすに足る。恰度龍宮城へ行つた様で俗なともいへるが、どこにも立派な一粒よりのものを惜氣もなく一面の模様につつてある誠に美事なものである。

二階にはカイザーの部屋があり、机椅子其他の記念品などがある。音楽室もあり昔のピアノもある。こゝから庭を見下すと善い眺である。壁畫ではベスの「ヘレナの掠奪」などが目につく。舞踏室も實に廣く天井も高い、西の方には劇場がある。四百人も見物出来るといふ、正面に緋の椅



子が十脚ほどあり、後の階段式腰掛も緋が燃える様で舞臺に相對し豪奢を思はしめる。階下には圖書室があり、佛語の本などがぎつしり戸棚にあつて、背が日光の光りにあせてゐるのも淋しい。そのとりに將棋室があるのも英雄閑日月であらう。

こゝを出ると來たときの反對即ち西側が正面で門や建物がある。まだ外に、繪畫館や博物館、日本庭園、城などもあつたが大勢の團體について、元來た町へてく／＼と歩いた。今日は非常に暑い日であるが一二度汗を一寸ふいた位で長い道であるいても汗にまみれないのは氣持がよい。

美しい街の間を通り驛に近い橋の袂でビールを飲み、船に乗つて、ワンゼーに向ふ。此間澤山の遊覽船、ヨット、モーターが行き交ふ。長汀曲浦とはこのことで、兩方の河岸まで綠樹が茂つて其の間に城が見えたり、寺が見えたり、別荘と歩道とが見えたりする。船は右の岸に客を下ろしたり左の湖岸より客をのせたり悠々として進む。實に美しい景である。樹蔭で憩うてゐる者、水泳をしてゐる者、鷗が幽に浮び、夫々、古い歴史のあるロシア式寺院や王族の別荘が隱見する。又水に近く、旗亭があつて踊つてゐる者、靜にビールを飲んでゐるもの何百人とある。

はるか左にワンゼーが見える。赤い石垣を積んだ様に人間が海岸に居る。そこへはよらないで、少し右手の岸についた時は日も西に沈みかけてゐた。フェリーが着いたり出たりする、午食と夕食とを兼ねて、湖岸で語り乍ら食事をする。

日が赤く沈む、「日本ではもう起きかけてゐるだらう」「もう蓮の花が咲きかけてゐるぜ」「夜明だからね」「鮎がほしいね」などと談笑する。

八時頃に汽車にのる。次のワンゼーの驛から海水浴歸りが澤山乗込む。驛から歸つて支拂をする。一週間で五十六マーク（驛のトランク預料や洗濯賃やで、一割のサービス料も入つてゐる）。それから女中に頼んで自動車を雇ふ。自分も荷物をもつてリフトで下へ下りたが戸が明かず、四五人かかつて漸く明いた。もすこしのことと一晩、エレベーターの中で籠の鳥みた様になるのであつた。おかしくもあり、腹立たしくもあつた、外からは門番の妻が、「こうせよあゝして見よ」といつたが故障であつてやつと開いて大笑ひ。外にはタキシードの運轉手がまち兼てゐる。メイドに一マーク與へる。

シユラムのフホン・ビバースタインの宅へ行く。直ぐに鍵のかけ方、朝飯に何がゐるかとか、室の様、便所等を説明してくれる。色々話して日記をかく。

七月二十七日

朝島津出張所員から電話、エレキゼンからも電話がかゝり、手紙が八通來てゐるといふので行つて見ると一通丈は私宛なので他は皆同船で來て今巴里に居る日本大學の鹽野氏宛のものであつた。勝



川教授の所で松井文學士と待合せ、同君の案内でベルリンの体育大學を視察することにする。

ノレンドルフ驛から地下で郊外スタヂオン驛迄行き下車する。打開けた丘の上である。思ひ切り高い赤松のまばらな林がある。今日は非常に暑い。然し割合に汗は出ぬ。赤松の林をぬける。やけた砂をふんで二つ程カーブを越えようと、大きな建物がある。競馬場も一緒にある。

これは、ドイチェ・ホフ・シュレー・フワー・リーベスブゲンと言つて体育の大學である。ベルリンには他にも一つプロシア國立のがある。それは重に教師を養成する。こゝのは、団体の組織であつて、政府の補助をうけて、ドイツの町村の俱樂部の体育教師などを養成する。三學年(六學期)で全く大學組織になつて居り、卒業は論文試験に通過して、デプロマを得るのである。

學科は醫學、心理學、教育學、運動理論及實地である。一九一二年から十五年迄に仕上げたので仲々完備してゐる。大きな、トンネル式入口から中へ入ると、六百米橢圓形のコースがあつて、その外側には又芝生の体操場があり、競馬場があり、競馬場が幅二五米突長さ百米突のプールがあり盛に水泳をしてゐる。飛込臺は十米、五米、三米、一米である。

フィールドでは學期試験にハンドボールをしてゐる組がある。猿又一つで無帽裸体である。女子

もやつてゐる。娘が殆ど男子同様の姿で二人はランニングの、バトンの渡し方練習をしてゐる。

地方教師の講習にフットボールをしてゐるものもある。百人餘りが炎熱をもともせず運動してゐる。私の座してゐる直ぐ後の芝生でも極めて短い猿又到短い運動シャツを着た無帽の女生徒三十人程が先生にコーチをうけてゐる。太つた股、日にやけた頬、物すごい程勇敢である。

外側を見ると茫々として廣い、赤松の林が見える。その中に赤煉瓦の建物がある。そこにも一ヶ所新に四百米突のコースのある運動場とドイツ体育聯盟の体操大學が新に出来てゐるさうである。その建物の礎石を置く式にヒンデンブルグ大統領が臨席した繪はがきを後で買った。

そこをトンネルで聯絡する計畫もあるといふ。白雲悠々と湧くが蟬の聲はきこえぬ。正に眞夏である。日本に居れば此の身体をもてあますのであるが、氣が張つてゐるせいか暑くはない。草むらからキリギリスの聲がする。浦和の高等學校の体育の先生が頑丈な身体をして來合して話をする。ドイツでは他の國で流行の軍事訓練は出來ぬ代り、國民擧つて俱樂部を組織し、市町村共にクラブへ集つて毎週二回位教師について体操をするのである。實に元氣なものである。

そして毎月一回はワンダー・ターゲ即ち遠足日と稱し無帽でルックサツクを背負ひ、旗をたて、山に登る。黒パンをかぎり水を飲み、急峻な嶮路にかゝると軍歌を合唱して、突破するのである。このコースの横に五十間位の長さの二階建の教室がある。見物席の下には道具場、レストラン、休憩場



等がある。

この体操大學の校長スシツフ氏に遇ふ。好人物の大きく太つた身体で、大いに体育について説明してくれる。それから案内してもらふ。室内体操場も百二十坪位あり、身体測定室の器械やレントゲン設備はよろしい。各教授の室は夫々心理學とか生理學など専門に分れてゐる。階段式講義室も廣い。一順見てまはる。レストランが二ヶ所ある。女生徒が日のあたる庭へ机を出して晝飯をたべてゐる。

學生が裸のまま來てビールのコップを兩手に持つて立ちながらあふる。アルコールの分量は少い様である。私らも上着をぬいで、定食を食べる。大勢入り代り立ち代り出入して賑やかである。男女が赤裸々に男性的交際をしてゐる。

此國のハードルの第一人者ベルツァーとハイジャンプのドバーマンの寫眞を買つて學生に署名してもらふ。この様な体育場と体操大學とを一所に建て、此國の青年男女の体育熱をあふると共に、科學的に學者が實地に研究する設備は實に羨しいことである。松井文學士は文部省の運動心理學の研究生である。日本も青年の体育熱は盛であるが、これに學者専門家も一緒になつて指導してやる必要がある。

歸りにコースを見ると、三十人の一團が一行にならびスタートの練習をしてゐる。一人の教師は

五人の講習生を一組にして教へてゐる。中に色の白い人があると思へば驚く勿れ五十位の婆さんで斷髪の白髪であるのみならず、頭のまん中が大分ハゲてゐる。それでも短い黒の猿又を穿いて盛に講習をうけてゐる。日本では見られぬ圖である。

今度はへとくく太陽の熱にやられて地下で歸りかけると、停電で仕方なしに電車にのりかへて歸る。主婦が圖をひいて電車番號を記入してくれる。支那飯屋を尋ね、廣東料理の方へ行く。支那學生が四五人來てゐる。飯をくつて歸り入浴する。主婦の話に、此の家の家主はユダヤ人である。彼はワルソーに居り支配人丈こちらに居る。實にひどい人で此の家の階段のカーペットを取つて敷いてくれぬので此家の者が辯護士に頼んでゐる。秋になると敷くといふが敷かねば、家賃から差引いて支拂ふのです。ユダヤ人は實に勢力があつて此の市の家も澤山買つてゐます。大きなデパートメントストアは大抵彼等のものです……。

入口の扉を充分閉ぢておかないと、つまらんものを賣りに來ます。しまひには私の身体中にボタン計りつけねばならん程ボタンを買はされます……。

ドイツでは革命前迄赤子が生れると四十二日目にクリスチニングの式をします。つまり神の子になるといふ式です。男女十四五歳になると女子はカトリックの白服に對して、黒の衣裳をつけて白の花輪を持ち父母とお寺参りをします。それも此頃は自由思想家が多いので、この慣習はこはされ



ます。

私の父は陸軍大將でした。私はドレスデンで生れ、フランスへ行つたり、又父はアフリカへも参りました。下宿屋などをしようとは夢にも思ひませんでした。實に中流階級はみじめなものです。いつそ死んだ方がましです。戦後の經濟界大變動のときには、とても、餘程ゑらい人でないと經濟策はたゝなかつたのでせう。數字の下に〇がいくらか分らぬのですから八百屋など午後になると頭をかゝえ、芋を賣つたりパンを賣つたりするのに何萬何千マークといふのですから氣狂になりさうだと騒いでゐました……。

今日は午後一時半にベルリンの古い寺の鐘が鳴るのをラジオで放送しました。これは毎週水曜日に一回鳴る音樂的なものです……。

佛蘭西と英國とはどちらが憎いかと問ふと、英國は今迄ドイツと仲善で國民性から言つてもよく似てゐます。英國は大戦に参加すべきではなかつたのです。佛國人とはどうしても一致點がありません。憎いです……。

七月二十八日

今日は涼しい。十一時に勝川教授の所で松井文學士と一緒にになり、當市の中央教育研究所へ行

く。これは教育會の私立團體の經營であるけれ共經費は國家から支辨されてゐる。

中へ入ると講演室を展覽會場にして學生生徒の圖畫と名畫の複製を多數陳列してあつた。圖畫はキウビズムのが大分あつた。餘り上手でもない。その横の室には理科化學動植物天文などの器具標本などが陳列してある。遺傳の方則を説明したのに、鼠や朝顔、カタツムリ、鶏卵等で分り易くしてあるのがあつた。生徒の造つたラジオのセットも幾組もあつた。こゝの館長に面會する。種々説明してくれた。

小學校教育に就て新傾向は何であるかと問ふと「ペスタロヂーに歸れといふことです。手工、圖畫、体操の様なものによつて子供を教育するアルバイトシュレの如きも大切と看做されてゐます」と答へた。

それから、案内で圖書室を見る。著者の寄贈の本が澤山ある。十四五人靜に讀書してゐた。こゝで最近の教育に關する本を買つた。

それから外國人係の主事に遇つて夏季學校のことなどを聞く。八月の十日から二週間、外國人にドイツの教育を説明する講習をするから是非來會せよと卓をたゝいて辯じたてる。面白い人物だ。夏季林間學校など尋ねると直ぐ、タイピストに横のカード箱からカードを出さす。それにはちやんと場所や時間などを記入してあつた。日本であれば「さあどこでやつてゐますかね」位の所でありは



せぬか……？

こゝはドイツ全体の教育方針を研究する所で心理學其他の研究室もあり、地方への巡回展覽會を初め、講演會、展覽會をたえずやつて教育の向上を計つてゐるのである。こゝを出て、エレキゼンへ寄り洗濯物とハガキを受取り二時であつたが午食した。歸ると遅くなるから、勝川教授を訪ひ、共に大村少將を訪問することにす。

少し時間があるので二人、ソフワにもたれて本をよむ。雷鳴がして夕立になる。二人とも居眠りを初める。途中で横を見ると勝川君がゐない。探してもせず目をつぶつた儘疲れて私はソファの上に横になる。しばらくして起上ると勝川君は次の部屋のベッドの上で眠つてゐた。目をこすり乍ら、報知新聞の古いのをもらつて共に大村少將を訪問する。ミュンヘンへ行かれて明晩歸館の由。それで支那飯屋天津料理の方で夕食をして、公園のベンチで色々と身の上話をする。労働者らしいのが紙袋二つをさげ横に座つたが夕食のパンをパクツキ兼ねて又あちらへ行つた。

七月二十九日

郊外シャーロットテンブルグ迄地下で行き、森の學校を見ることにす。

ヒーア驛のある所は既に郊外で新住宅地となつてゐるが、氣持の善い道路が四方に走つてゐる。

赤松の林がある。こゝでも四ツ辻には銅像の新しいのがある。驛から眞直に長く道路の走つてゐるのも氣持がよい。

市中も伯林は巴里や倫敦に比較して割合靜であるが殊に郊外は思ひ切り閑靜である。驛から三四丁の處に松林がある。その一角の道路のつき當りに、松の丸木を組合して粗末な門が出来てゐる。

正面に「シャーロットテンブルグ、森の學校」と書いてある。門を入ると草花が兩側に咲いて松の木蔭にバラツク式の開放された建物は夏の食堂であつて百數十人の子供が食事してゐる。男の先生が一人居て監督をしてゐる。女教師カフマン先生が快活で達者な英語で色々説明してくれる。

この學校は十年程以前から、伯林市中の病弱な子供丈を集めて教育してゐたのであるが、近年は普通の小學校にして男女共學である。十歳から十六歳迄迄六年間こゝで教育する。志望者は市内の希望者から選抜するのである。朝は先生が市内から同伴して來て午前八時に授業を初め十二時迄續ける。其れから自習をさして、食事をし、食後は椅子によつて午睡をさす。勿論毛布の用意もある。生徒





は三百四十人教師は凡てで十四人に、炊事婦が数名居る。

午後はコーヒ、パン、菓子などを與へ、花園の手入、遊嬉、水泳、ピンポン、ブランコ、手工体操などをして夕方六時に先生と共に帰宅する。自轉車で通學する者もある。

松林中に全面積三千坪位あつて、極めて善い所で、冬の風も酷しくはなく、夏は無論涼しい。所々に阿屋があつて中に机がある。阿屋は蔓花で飾られてゐる。子供二人が造つた蜜蜂飼育の大きな箱がある。阿屋風の水族館がある。この中の水槽で飼育してゐる。鼠や小鳥も飼つてゐる。餘り學課の出來ない二人の子供は煉瓦で二坪程の池をこしらへてゐる。日曜でもやつて來てセツセと働きますと先生は笑ふ。シーソーで楽しむ子供、土を入れる車に砂を入れて運ぶ男の子もある。公堂がせまくなつたので百二十坪程に増築してゐる。その隣室は手工室や職員食堂である。

驚いたのは生徒が五間に十間程のプールを掘つてゐる。水道もあるから、シャワーの設備もあり、夏は大喜びである。教室は四間に十三間位の建物が四棟あり、別に教員室、炊事室等がある。學科は他の學校と同じである。病弱な子供は次第に健康になる。太陽も土も光線も空氣も豊に恵まれてゐる理想的の環境である。

子供はシャツになつたり、半裸体になつて、せつせと作業をする。今日は女先生二人と男先生一人である。手工室なども道具は一通りある。他の教具標本等は餘りない。縦に續く四棟は冬も暖

である様に粗末ではあるが建築してある。けれども食堂や、夏季教室は屋根丈で机をおいてある。垣根や通路や、職員室、炊事室のあたりには巧に花や蔓草をつくつてある。この様な學校で學課の力が薄くなりはせぬかと聞くと午前中は學課に費すから、その様なことはないといふ。も一人の女の先生も來て松の蔭で教育談をした。私が豫て考へてゐた森の學校をこゝで見たのである。大阪の様な大都市には是非必要である。郊外電車が發達したから、子供を一時に輸送して郊外で教育する必要がある。吾學院の如きもつまり森の學校であつたのである。

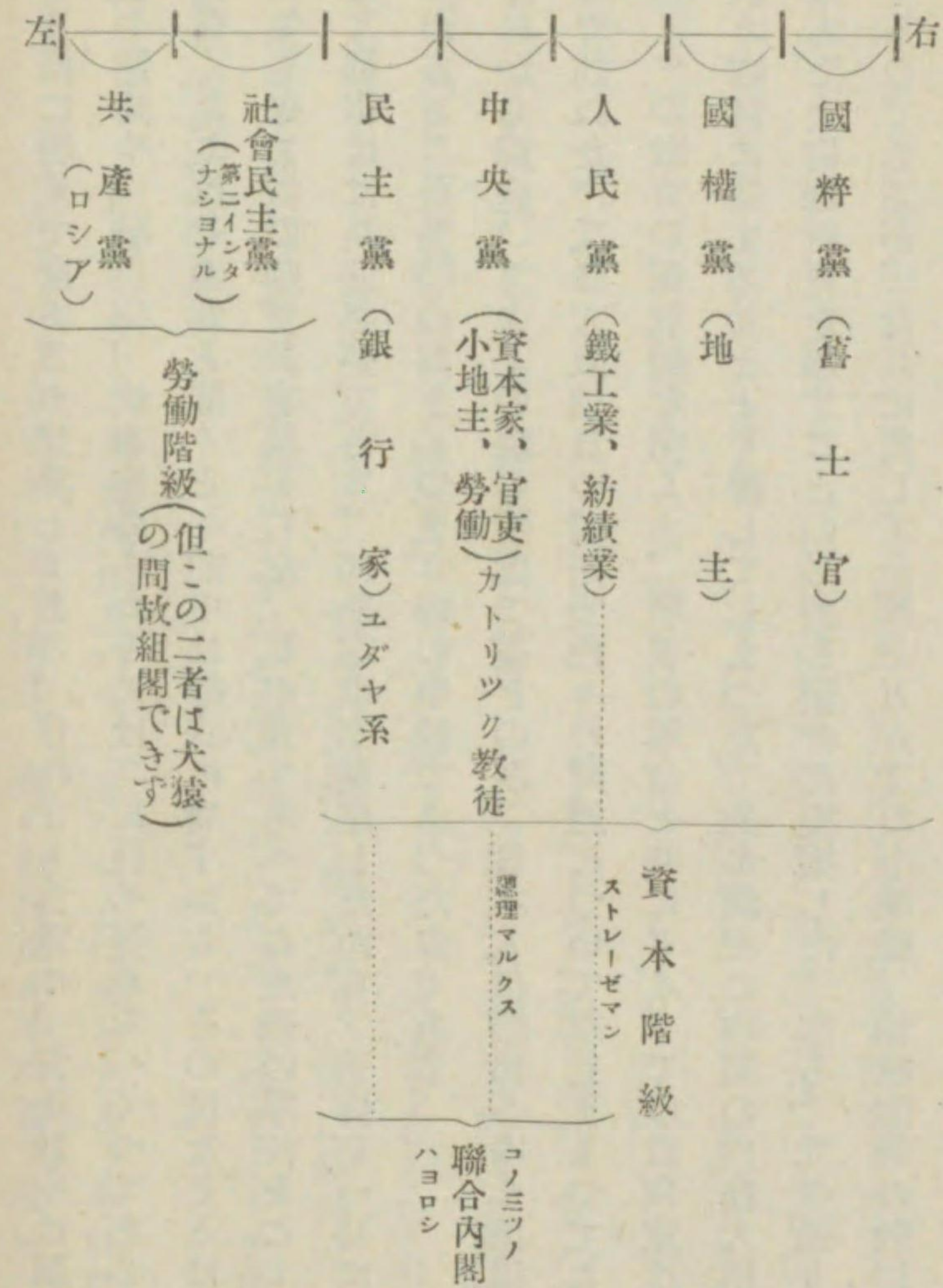
それから歸途、ツオーの驛の附近で茶をのみ、日本人俱樂部へゆき黒田氏の住所をきゝすぐ近處なので訪ねた。氏は大阪朝日の囑托で色々の問題について意見をもつてゐる新人である。

ドイツの教育の新狀勢を聞くと、戦後の革命と共にドイツでは社會黨は原則として學校教育から宗教と國体に關することを離してしまつた。所が現在の内閣の内務大臣は各宗派を問はず、宗教を基とした倫理教育を施すことの必要を議會に提案した。即ち、元の通りに近いものに復活しようとするのであるが、此れに對して全國一万五千の小學校、幼稚園等の教師が連名で反對してゐますとの話。この國は普選國であるから、政治は直に教育に關係するのであるといふ。



# ドイツの話

ドイツ政黨の分野略圖 (約二十八黨あり、ハンノーバ黨バ、リヤ黨の如し)



右の圖の様に、ドイツでは聯合内閣組織が中々六ツケ敷い。他の國の様に、二大政黨でない。大凡、勞資の二黨に分てゐないこともないが、色々複雑になつてゐる。従つて現今の如く、國權、人民、中央黨なる三傾向は余程右によつてゐる。殊に國權黨は第二黨で、この内閣の中心であるから、國權黨の連中は元のドイツにしたい、元の教育にかへしたい、それに中央黨はカトリック教徒であるから賛成するのである。宗教々育を復活するといふのであるから。

此の問題はさうなるか知らないが、社會黨が今迄の國体に関する教育、宗教々育に飽き足らないで破壊をしたのであつたが、又右黨は元の通りにするといふのである。

それから、ドイツの革命は、久しき以前から帝政を破壊しようとして成つたのではなく、戦敗からの大惨害を少くする手段として、革命によつて、あれ以上の魔手を堰き止めたのである。

であるから、現今では、革命はやつたが、フランスなどの共和國と同じく、只、カイザーの居らない共和國といふ丈のことである。で結構、戦には負けたが、金はないのであるから、あれ以上悪くなり様がない。

俾のクレマンソーは、ドイツは償金を拂ふために、勞働者が余計に働いて、其の金で拂へといふ。所が、ドイツの勞働者は、自分等は戦争に参加して命がけて働いたのだから、地主が土地を賣つて支拂へ、此れ以上の時間は働かれぬといふ。

英國も同様、ドイツに清算を迫る。それならば、ドイツの鐵と石炭を澤山とつてくれといつて、鐵と石炭を、ごん／＼英國とフランスに送る。送るのはよいが、英國佛國の鐵屋石炭屋がぬらい目に遇ふ。これが倍



償金問題の暗礁となつたのである。皆、痛し、かゆしの有様である。

ドイツは戦前二百億の鐵道の社債を有してその利子を拂つてゐた。然るに、戦敗と共に殖民地はなくなり、兌換券に對する正貨の準備がないから、マークは下落する計りである。

マークの下るのは外國が善い様であるが、英國はフランスへ金を貸し、フランスは露國へ、そして英國は米國から借りてゐる。又バルカンの小弱國へは各國ともに貸してゐる。

それで、どうしても、ドイツのマルクの下ることは英佛にまつて矢張痛事である。マルクの下らぬ様に安定さしたいといふので、米國のモルガンが肌をぬいで大に努めた。夫れによつて、マルクは安定した。それで、ドイツは普通にやつて居れば善い様になつた。これが大休ドース案なのである。つまりドイツは戦敗國で此れ以上仕方がありませんと頑張つたので、痛いのは戦勝國も同様に苦痛なのである。

藝術の方面で、フランスは戦前に、國家主義であつたが、戦後は藝術至上主義になつた。ドイツは、それと違つて、藝術の爲の藝術でなく、生活の爲の藝術になつた。つまり、藝術非至上になつたのだ。

非常にアメリカニズムが入つて來た。劇も小説も神も飛行機も要するに自分の生活に歸すことになる。従て文壇がなくなつたといへる。ドイツ人は一体にオリジナリチーは少い。凡て外國で手つけたものを巧に仕上げる。物質文明も精神文明もこゝで立派に手際よく達せしめるから一体に平均して宜い。然し特に優れたものはない。

大戰後、戦前の印象派とか未來派の後を承けて此國では表現派が盛で、トロアー、カイザートマス、マン、フ

ランクなどが出た。この傾向は小説、歌曲、劇等にもよく表はれて面白かつたが新リアリズムに歸つていつた。

ロシアでは構成派が生れた。つまり、中古にあつては、ラハアエルとか、ミケランゼロの如きが立派な作品をかゝり、封建時代殊に宗教心の盛な時代では、此れは永遠の生命を有する者であるとして人が之を尊重した。

然し藝術は生活を基礎として生み出していくのであるから、現代は現代から生み出すべきである。封建時代を飾るものは其時代に湧き出したものでもよからうが、現代は違ふ。人間が苦しければそれを書く。その人間の生活が基礎になり、その社會組織が基礎にならなければならぬ。これが基となつて此國では新リアリズムになつてゐるのである。

又ロシアに於ては、革命は帝政をこはし、凡て建て直しを必要としたから昔の繪や音楽を放棄して、プロレタリアはプロレタリアの作品を作ればよい。即ち、工場とか、パンとか煙突とかいふものを詠する。

ソリダリチーを彼等唯一の道德としてその道德をかく様になつたのである。であるから日本のプロレタリア文學など、根本要求が異つてゐるのである。序で、すが、ロシアは無學です。廣い所にほつり／＼家が一二軒あるのですから、とても教育は行渡りません。うすのろで呑氣です。日本の百姓は祖先以來同じ土地に固着してゐるから、その土地の事は非常に善く知つてゐる。然し廣い世界のことは知らない。

所が、ロシアの百姓は廣い世界の事は割合よく知つてゐる。此の点インタナショナルである、そしてロシアの百姓は一方の土地が悪ければ他へ轉ずる。

日本には人口多く土地足らず、勞力過剰であるが、ロシア人は土地に結びつかず、轉々とするから、土地が



あつて土地が足らん現象を呈してゐる。で農民の無智として日本とロシアを比較すると右の様なこゝである。それで露人は一種のフアンタジーに富んで、遠方から駱駝に乗つて来た者や、其他一種の宣傳があるに直ぐそれを信じて革命などをやつたのである。

こゝを辭して、夕食を済して歸宅。ラヂオで、ウキーンのフィルハーモニーオーケストラを聞いて入床。今朝から毎朝水蜜桃を三つ出してもらう。代金はこちらの支拂である。

七月三十日

午後ウンターデンリンデンで菓子で午飯の間に合せ、伯林大學へ行く。

入口のヘルムホルツの像を見たり内部へ行つて状況を見る。講習も今日は終つたらしい、裏庭の芝生と木が茂つてよい。然しこれが世界に名高いベルリン大學であるが敷地は大阪市内の小學校位の廣さで凹字形になつてゐて大きな建物ではない。無論他に實驗室などもあるが、兎に角英國を見てもこゝを見ても日本の専門學校や大學程立派なものはない。然しこれ丈の設備で獨創に富み學界に寄與する人物を輩出するのであるからその教育法は大に學ばねばならん。

こゝを出て、ヘーゲルの銅像を見、カイザー、ウキルヘルム博物館へ行つたが三時以後であつたから入れなかつた。スプレー川の支流が赤濁して前を流れる。二人漕のボートが浮ぶ。近處には相當

古い大きな建物が多い、この邊は由緒ある博物館等の區域である。フリードリツヒ街に出る。土曜であるから早や店を閉じたのもある。ぼつ／＼歩いて、チャガルテンの森で、デイリーメールを読む、こゝでは一部二十錢である。晝尙暗い位の森の中にはベンチに腰かけてじつと何時間でもぼんやりしてゐる連中がある。氣の永い連中である。この森の大きくて静かなことは羨しい。ルツオの廣場へ出る。噴水があつて子供が澤山船などの玩具をもつて遊んでゐる。乳母も子供も一緒であるそれを周圍のベンチで靜に見てゐる者もある。

カント・ストラッセの天津料理店へ行つて夕食する。定食は七十錢である。隣の店で葉巻を二本買ふ。こゝでは葉巻をよく喫んでゐる。ロンドンではパイプでやつてゐる。伯林子は葉巻である。妙なことに紙巻煙草を二本三本と買ひ手があつてそれを賣る。葉巻はこゝで安い、日本金五錢から十五錢位迄が普通で味も軽い。勝川教授と文部省の松井君と一緒になつて散歩する。土曜の夕方は人出が多い、タウエンチンの盛り場を見て下宿に歸る。警察へ届けねばならんからとて用紙を主婦が持て来る。ビールやソーセージの話をする。ドイツの腸詰は有名なのである。

松井氏の話に西伯利亞では税關が喧しく、寫眞機や地圖は絶対にいけないので、寫眞器をすてしまつた。無念骨髓に徹したから、もう買ひたくない。税關へ來ると、官吏と巡査が來て、こゝにあるものをみんな持つて來いといふから持つて行かざるを得ん。要領の善い人は列車ボーイにそれ



を托してチップをやるのである……。

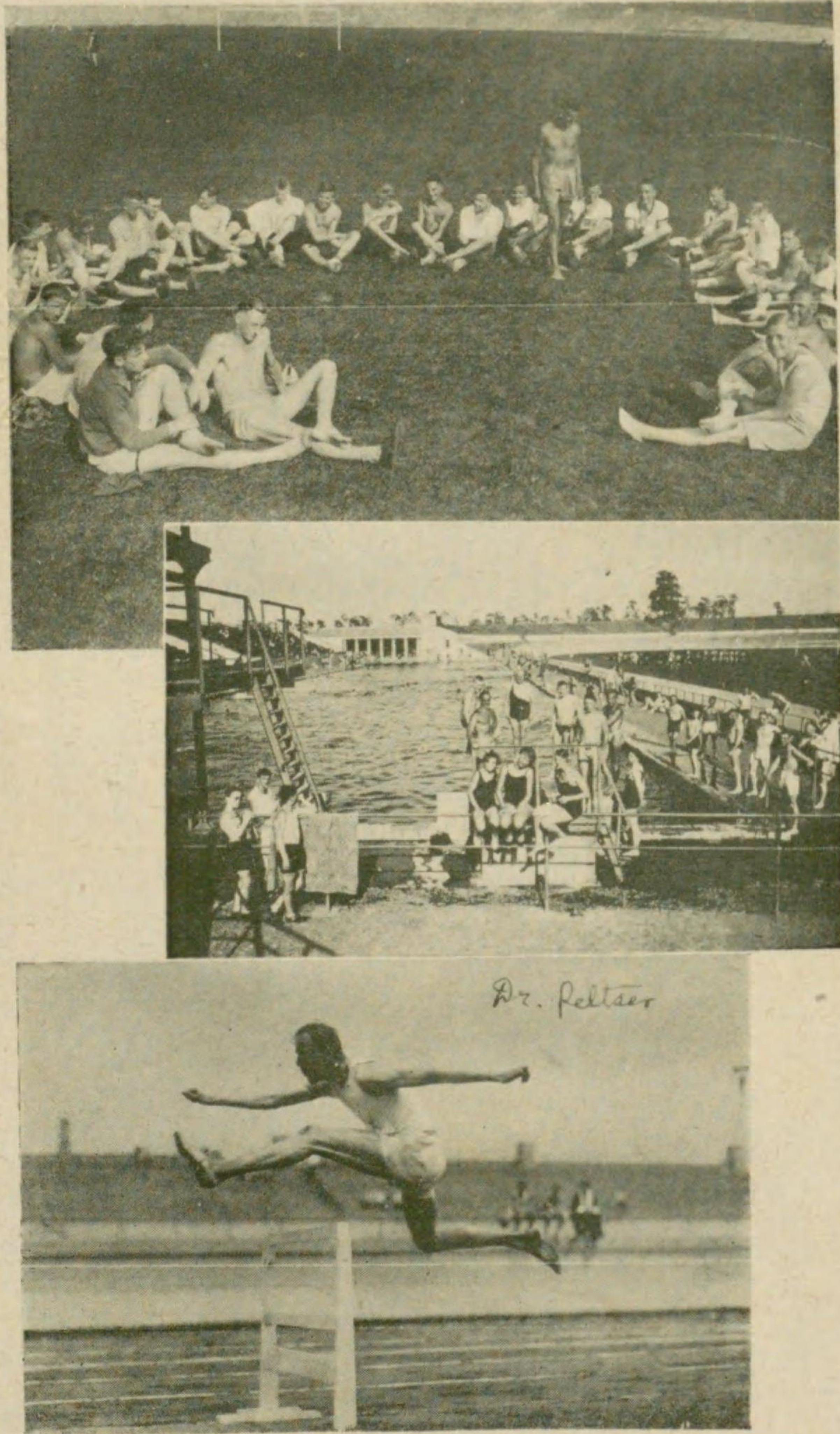
稲田男の話しに眞實の夜といふものは私が通つたときにはほんの二三時間しかないのだから、しまいには夜だか晝だか分らなくなつてぼんやりする。然し、ロシアは一度は通つて見る所で仲々面白……。

伯林の電車の中で大人が入つてくると子供は立たねばならん。日本では子供に席を譲るがこゝでは子供が大人に譲るのである。一寸可愛想な氣がする。子供は誠にをとなしい。道で遇ふと、「お早う」といふ子供が多い。

七月三十一日

九時迄寝た。食卓に手紙が澤山来た。(川添、森、松本、高泉、石樽、岸緑)教會の鐘が鳴る。街は静である。

大浦校長を訪問する。昨日クツク社のサイトシーングカーに乗り団体と一緒に市中見物をしたが暑くはあり自動車の上で照りつけられ、暑氣あたりがしたとて臥床してゐた。三時間餘り談話して共に外出、支那飯屋にて夕食する。クルフツステンデンのキャバレーへ入ると、こゝは普通の寄席ではなくて、見物席は食卓が廣く並び正面に舞臺があつた。レモナーデをとつて飲む。輕口と手



伯林スタヂオン



品と歌とダンスで純粹の寄席でない丈餘り面白くなかつた。然しドイツへ來て感ずる事はバンドのバイオリンの達者なことである。今夜も、ピアノとバイオリン丈であつたが、達者なものである。今日は大分暑さを覺えた。それでも、そんなに汗は出ない、二人が扇子を持つて歩きまはると人がよく眺る。伯林では格別日本人を注視したり、袖ひき合うてあれみよと、合圖して居るのが道路や電車内で目に立つ。

八月一日

非常に暑い。三浦教授來訪、今日、ドイツ青年團對抗の拳闘仕合があるから同行しようと勧められて、テムペルホフの方へ出掛る。市外で工場が澤山ある。

テムペルホフといつても仲々廣く。車掌に其の處を聞いたが分らぬ。乗客三四人が、「此處だ」、「彼處だ」と議論が决せぬ。電車は單線になつて淋しい所へ來た。此處で下りよとのことで下車したが、其處は市民の區劃農園である。細い道があるけれども一向それらしい所は見えぬ。

今日は赫々と照つて無風で青い雲が動かぬ。汗をかいて二三丁後戻りして、ドンケルストラッセの角で大きく要領を得ぬ。居酒屋へ入り、ビールを一杯命じて亭主にきく。亭主も客も知らん。亭主はビールを飲んで、車力引きと革のコップでサイコロを振るのに無中だ。